

授業科目名	Active English I				
担当教員名	工藤 律子・麻島 徳子・榎本 英之				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、基礎レベルの英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）に関する総合的な能力を身につけることを目的とします。基礎レベルとは、限られた語彙を用いて自分の身近な話題についてコミュニケーションをとることができるレベルを指します。各授業では、Reallyenglishというオンライン学習用教材を用いて、タブレットによるe-Learningを実施します。また、学習内容についての理解度を測るため、授業内では英会話練習や英文聴解・読解も行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

英会話能力、英語読解・聴解能力、英作文能力

目標：

自信を持って英語でコミュニケーションをとることができる。足りない語彙力は、言い方を変えることによって補うことができる。英語で与えられた情報について、おおむね大意を理解することが出来る。

汎用的な力

1. DP8. 意思疎通

各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、英語で自分のことを説明し理解してもらうことができる。同様に、相手の説明も理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業貢献度	：	授業内でのペアワーク、グループワークや、与えられた授業内課題に取り組む姿勢について、熱意、協調性、独創性を基準に判断し、評価の30%とします。
	30 %	
課題達成度	：	Reallyenglishのオンライン学習課題について、その取り組みの進捗と提出内容から課題達成度を測り、評価の40%とします。
	40 %	
毎回の小テスト	：	毎回、授業の冒頭実施する既習範囲に基づいた小テストについて、その結果の平均点を換算して評価の20%とします。
	20 %	
定期試験	：	試験期間中に既習単元に基づいた実力テストを実施し、その結果を換算して評価の10%とします。
	10 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

Reallyenglish, 「Practical English Starter」コース, 「Practical English 7」コース

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 ガイダンス、Lesson 1. How many emails do you write? (Listeningレッスン) ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・タブレットの操作方法、オンライン学習の進め方を学びます。 ・日常生活についての聴解問題に取り組みます。	第1回で学習した単語・表現を復習し、第2回から始まる小テストに備えます。次の単元 に出ってくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。【授業外課題レッスン名】I'm a doctor	2時間
第2回 Lesson 2. At the mall (Readingレッスン) ・日常生活に関する語彙を拡充します。 ・Lesson 2のコンテンツに基づいて読解練習をします。 ・英語能力レベルチェックテストを実施します。	第2回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出ってくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。【授業外課題レッスン名】Let's meet at the mall	2時間
第3回 Lesson 3. There's a nice jacket in the store (Grammarレッスン) ・ショッピングに関する語彙を拡充します。 ・Lesson 3のコンテンツに基づいて文法学習をします。	第3回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出ってくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。【授業外課題レッスン名】I like shopping	2時間
第4回 Lesson 4. What do you have for breakfast? (Readingレッスン) ・日常の食生活に関する語彙を更に拡充します。 ・Lesson 4のコンテンツに基づいて読解練習をします。	第4回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出ってくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。【授業外課題レッスン名】When do you go to the gym?	2時間
第5回 Lesson 5. What do you usually eat? (Listeningレッスン) ・食生活に関する語彙を拡充します。 ・Lesson 5のコンテンツに基づいて聴解練習をします。	第5回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出ってくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。【授業外課題レッスン名】Let's order takeout	2時間
第6回 Lesson 6. How do you get to work? (Listeningレッスン) ・通勤手段に関する語彙を更に拡充します。 ・Lesson 6のコンテンツに基づいて聴解練習をします。	第1～6回 で学習した単語・表現を復習し、Review Quizに備えます。次の単元 に出ってくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。【授業外課題レッスン名】Public transportation	2時間
第7回 【小括】Lesson 1～6 振り返り、単語テスト、Can-doチェック ・Lesson1～6の学習範囲を振り返ります。 ・学習の理解度を測るReview Quizと単語テストを実施します。 ・これまでの学習成果を自己評価するCan-doチェックをします。	自分の学習成果を振り返り、今後の学習目標を定めます。次の単元 に出ってくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第8回 Lesson 7. I couldn't speak French when I was a child (Grammarレッスン) ・可能性を表現する助動詞を拡充します。 ・Lesson 7のコンテンツに基づいて文法学習をします。	第8回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出ってくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。【授業外課題レッスン名】It was very hot and sunny	2時間
第9回 Lesson 8. This is the office (Listeningレッスン) ・職場に関する語彙を更に拡充します。 ・Lesson 8のコンテンツに基づいて聴解練習をします。	第9回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出ってくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。【授業外課題レッスン名】How many people work here?	2時間
第10回 Lesson 9. This is my phone (Readingレッスン) ・所有品に関する語彙を拡充します。 ・Lesson 9のコンテンツに基づいて読解練習をします。	第10回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出ってくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。【授業外課題レッスン名】I liked my old phone	2時間
第11回 Lesson 10. I go sightseeing in the city (Readingレッスン)	第11回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出ってくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。【授業外課題レッスン名】I didn't play basketball	2時間

<ul style="list-style-type: none"> ・観光に関する語彙を拡充します。 ・Lesson 10のコンテンツに基づいて聴解練習をします。 			
<p>第12回</p> <p>Lesson 11. Where are you going to go on vacation? (Grammarレッスン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定を表現する語彙を拡充します。 ・Lesson 11のコンテンツに基づいて文法学習をします。 		<p>第12回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。【授業外課題レッスン名】 I play soccer every week</p>	2時間
<p>第13回</p> <p>Lesson 12. We went camping last year (Listeningレッスン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余暇に関する語彙を更に拡充します。 ・Lesson 12のコンテンツに基づいて聴解練習をします。 		<p>第13回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。【授業外課題レッスン名】 What did you do on the weekend?</p>	2時間
<p>第14回</p> <p>【総括】 これまでの学習内容のまとめ、単語テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Lesson1～12の学習内容を振り返ります。 ・語彙力の伸張を測る単語テストを実施します。 		<p>第1～14回で学習した単語・表現を復習し、最終試験に備えます。【授業外課題レッスン名】 My birthday's in June</p>	2時間

授業科目名	Active English II				
担当教員名	工藤 律子・麻島 徳子・榎本 英之				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では標準レベルの英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）に関する総合的な能力を身につけることを目的とします。標準レベルとは、英文法の知識に基づいて自分の身近な話題について正確に表現できるレベルを指します。各授業では、Reallyenglishというオンライン学習用教材を用いて、タブレットによるe-Learningを実施します。また、学習内容についての理解度を測るため、授業内では英文法の確認や英文聴解・読解も行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

英文法力、英語読解・聴解能力、英作文能力

目標：

英文法を正しく運用し、正確に自己表現することが出来る。英語で与えられた情報について、細部の情報を理解することが出来る。

汎用的な力

1. DP8. 意思疎通

各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、英語で自分のことを説明し理解してもらうことができる。同様に、相手の説明も理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・ eラーニング、反転授業
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業貢献度	30 %	：	授業内でのペアワーク、グループワークや、与えられた授業内課題に取り組む姿勢について、熱意、協調性、独創性を基準に判断し、評価の30%とします。
課題達成度	30 %	：	Reallyenglishのオンライン学習課題について、その取り組みの進捗と提出内容から課題達成度を測り、評価の30%とします。
毎回の小テスト	20 %	：	毎回、授業の冒頭実施する既習範囲に基づいた小テストについて、その結果の平均点を換算して評価の20%とします。
定期試験	10 %	：	試験期間中に既習単元に基づいた実力テストを実施し、その結果を換算して評価の10%とします。
スピーキングテスト	10 %	：	第2回、第3回の授業内で、課題スピーチの暗唱テストを行い、課題に取り組む姿勢について、熱意、正確さ、流暢さを基準に判断し、評価の10%とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

Reallyenglish, 「Practical English 7」 コース

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

授業計画

学修課題

授業外学修課題にかかる目安の時間

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 ガイダンス、Lesson 1. A typical day (Listening レッスン) <ul style="list-style-type: none"> 授業の進め方や評価方法について確認します。 課題スピーチの解説、暗唱練習を実施します。 Lesson 1のコンテンツに基づいて、日常生活についての聴解問題に取り組みます。 	課題スピーチの音源を繰り返し聞いて暗唱テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第2回 Lesson 2. Everyday Activities (Grammarレッスン) <ul style="list-style-type: none"> 日常生活に関する語彙を拡充します。 Lesson 2のコンテンツに基づいて、日常生活についての文法問題に取り組みます。 課題スピーチの暗唱練習を実施します。 	第2回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第3回 Lesson 3. A Bad Day (Readingレッスン) <ul style="list-style-type: none"> 社交生活に関する語彙を拡充します。 Lesson 3のコンテンツに基づいて、日常生活についての読解問題に取り組みます。 課題スピーチの暗唱練習を実施します。 	第3回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第4回 Lesson 4. At the Supermarket (Listeningレッスン) <ul style="list-style-type: none"> 日常生活に関する語彙を拡充します。 Lesson 4のコンテンツに基づいて聴解練習をします。 課題スピーチの暗唱試験を実施します。 	第4回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第5回 Lesson 5. Everyday Questions (Grammarレッスン) <ul style="list-style-type: none"> ショッピングに関する語彙を拡充します。 Lesson 5のコンテンツに基づいて文法練習をします。 	第5回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第6回 Lesson 6. Good Food (Readingレッスン) <ul style="list-style-type: none"> 問いかけ文に関する語彙を拡充します。 Lesson 6のコンテンツに基づいて5W2Hの疑問文について文法知識を整理します。 	第2～6回 で学習した単語・表現を復習し、Review Quizに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第7回 【小括】 Lesson 1～5 振り返り、単語テスト <ul style="list-style-type: none"> Lesson1～5の学習範囲を振り返り、Review Quizと単語テストを実施します。 日常生活に関する語彙を更に拡充します。 	第7回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第8回 Lesson 7. Where things are (Grammarレッスン) <ul style="list-style-type: none"> 日常生活に関する語彙を更に拡充します。 Lesson 7のコンテンツに基づいて前置詞について文法知識を整理します。 	第8回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第9回 Lesson8. The weekly shopping trip (Listeningレッスン) <ul style="list-style-type: none"> ショッピングに関する語彙を更に拡充します。 Lesson 8のコンテンツに基づいて聴解練習をします。 	第9回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第10回 Lesson 9. Getting around (Readingレッスン) <ul style="list-style-type: none"> 移動手段に関する語彙を拡充します。 Lesson 9のコンテンツに基づいて読解練習をします。 	第10回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第11回 Lesson 10. Making excuses (Grammarレッスン)	第11回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・謝罪に関する語彙を拡充します。 ・Lesson 10のコンテンツに基づいて接続詞について文法知識を整理します。 		
第12回	Lesson 11. Using transportation (Listeningレッスン) <ul style="list-style-type: none"> ・交通手段に関する語彙を更に拡充します。 ・Lesson 12のコンテンツに基づいて聴解練習をします。 	第12回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第13回	Lesson 12. Hotel reservations (Listening レッスン) <ul style="list-style-type: none"> ・旅行に関する語彙を拡充します。 ・Lesson 12のコンテンツに基づいて過去時制について文法知識を整理します。 	第13回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第14回	【総括】Lesson 1~13の学習内容まとめ、単語テスト <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習内容を振り返り、自分が伸ばせた能力について自己採点します。 ・語彙数の伸張を測る単語テストを実施します。 	第1~14回で学習した単語・表現を復習し、最終試験に備えます。	2時間

授業科目名	Active English III				
担当教員名	工藤 律子				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	幼・小・中・高において、文法指導やコミュニケーションに必要な英語の指導を20年行ってきた。また、カリキュラムの作成も担当し、12年間一貫の教育にも携わった。(全14回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、応用レベルの英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）に関する総合的な能力を身につけることを目的とします。応用レベルとは、アクティブのⅠやⅡで学んだ基本的なことを活かして、積極的な英語話者を養成します。各授業では、Reallyenglishというオンライン学習用教材を用いて、タブレットによるe-Learningを実施します。また、学習内容についての理解度を測るため、授業内では英会話練習や英文聴解・読解も行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

英会話能力、英語読解・聴解能力、英作文能力

目標：

自分の考えを伝えるだけでなく、その意見に対して理由を添えることができる。英語で与えられた情報に対し、簡単な英語で要約することができる。

汎用的な力

1. DP8. 意思疎通

各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、ジェスチャーなどの非言語を用いながら、英語でのやりとりができる。

学外連携学習

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業貢献度	30 %	：	授業内でのペアワーク、グループワークや、与えられた授業内課題に取り組む姿勢について、熱意、協調性、独創性を基準に判断し、評価の30%とします。
課題達成度	40 %	：	Reallyenglishのオンライン学習課題について、その取り組みの進捗と提出内容から課題達成度を測り、評価の40%とします。
小テスト	20 %	：	授業の冒頭実施する既習範囲に基づいた小テストについて、その結果の平均点を換算して評価の20%とします。
定期試験	10 %	：	試験期間中に既習単元に基づいた実力テストを実施し、その結果を換算して評価の10%とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

Reallyenglish, 「Practical English 7」 コース

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業後・授業前

場所： 授業の場所

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 目標を設定しよう・Tell me about you 現在の英語力を認識し、到達したいレベルを設定し、しっかりと計画を立てよう。初対面の人に対する質問をしよう。扱う文法事項（以下Gと表記）：時制	L1 オンライン教材・語彙・表現・文法の復習	2時間
第2回 A bad day・TOEIC テストにチャレンジしよう 社交と対人関係のテーマを通して、良い関係を構築するための会話を学ぶ。リーディングを通して情報を読み取る。英語能力レベルチェックテストを実施する。TOEICテストの結果を見て、振り返りを行う。	L2 オンライン教材・語彙・表現の復習	2時間
第3回 Enjoying yourself 余暇と娯楽・心から楽しめるものを英語で表現し、ペアで質疑応答を行う。リーディングを通して情報を読み取る。	L3 オンライン教材・語彙・表現の復習	2時間
第4回 Expressions about personal possessions 誰のものかを表す表現を学び、クイズをペアで考え出し合う。G: 所有格。	L4 オンライン教材・語彙・表現・文法の復習	2時間
第5回 Cooking and food 料理の素材を学び、レシピを英語で発表する。G: 不定冠詞・There を用いた表現	L5 オンライン教材・語彙・表現・文法の復習	2時間
第6回 Good food おいしい（栄養ある）食事について考える。・リーディングを通して情報を読み取る。	L6 オンライン教材・語彙表現の復習	2時間
第7回 TOEIC Test にチャレンジしよう・Arrange meeting 会議（クラブ等のミーティングを含む）の日程調整について考え、実際にクラスでの仮想会議の日程調整を行う。・リーディングを通して情報を読み取る。TOEICテストの結果を見て、振り返りを行う。	L7 オンライン教材・語彙・表現・文法の復習	2時間
第8回 Where I work 自分の職場（就職したい会社を想定）についてペアでやり取りを行う。G: 不定冠詞・名詞句	L8 オンライン教材・語彙・表現・文法の復習	2時間
第9回 Twins 2つのものを比べる表現を学び、違いについて表現する。G: 比較・形容詞・副詞	L9 オンライン教材・語彙・表現・文法の復習	2時間
第10回 A good place to live 自分にとって住み心地の良い町についてスピーチする。住み心地の良い町の条件に付いて議論する。G: 最上級・形容詞・副詞	L10 オンライン教材・語彙・表現・文法の復習	2時間
第11回 Where is it? 道案内の表現を学び、ペアワークでショートスキットを行う。G: 場所・位置にまつわる前置詞	L11 オンライン教材・語彙・表現・文法の復習	2時間
第12回 Good feelings ビジネスにおける成功をテーマに、好ましい感情の伝え方を学ぶ。・リーディングを通して情報を読み取る。	L12 オンライン教材・語彙・表現の復習	2時間
第13回 Good friends 社交と対人関係をテーマに、家族と友人との関係について考える。・リーディングを通して情報を読み取る。	L13 オンライン教材・語彙・表現の復習	2時間
第14回 A smart criminal 社会と政治をテーマに、ルール（学校・身の回り・家庭・社会）について考える。・リーディングを通して情報を読み取る。	L14 オンライン教材・語彙・表現の復習	2時間

授業科目名	Active English IV				
担当教員名	工藤 律子				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	幼・小・中・高において、グラマー指導やコミュニケーションに必要な英語の指導を20年行ってきました。また、カリキュラムの作成や12年間一貫教育の内容にも携わってきました。(全14回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、発展レベルの英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）に関する総合的な能力を身につけることを目的とします。発展レベルとは、英語でのやりとりを行うだけでなく、英語でのスピーチやプレゼンテーションができるレベルを指します。各授業では、Reallyenglishというオンライン学習用教材を用いて、タブレットによるe-Learningを実施します。また、学習内容についての理解度を測るため、授業内では英会話練習や英文聴解・読解も行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

英会話力、英語読解・聴解能力、英作文能力

目標：

様々な媒体の英語の情報を理解し、理解したことを相手に伝える（話す・書く）ことができる。

汎用的な力

1. DP8. 意思疎通

教員と学生相互にインターネットを介してコミュニケーションとオーラルコミュニケーションの両方により主体的に英語を使用する意思疎通の活動を行う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ eラーニング、反転授業
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業貢献度	30 %	：	授業内でのペアワーク、グループワークや、与えられた授業内課題に取り組む姿勢について、熱意、協調性、独創性を基準に判断し、評価の30%とします。
課題達成度	40 %	：	Reallyenglishのオンライン学習課題について、その取り組みの進捗と提出内容から課題達成度を測り、評価の40%とします。
小テスト	20 %	：	授業の冒頭実施する既習範囲に基づいた小テストについて、その結果の平均点を換算して評価の20%とします。
定期試験	10 %	：	試験期間中に既習単元に基づいた実力テストを実施し、その結果を換算して評価の10%とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

Reallyenglish, 「Practical English 7」 コース

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前・授業後
場所： 授業の教室
備考・注意事項： オフィスアワーの日時は初回授業時に連絡します。

授業計画

学修課題

授業外学修課題にか かかる目安の時間

授業計画	学修課題	授業外学修課題にか かかる目安の時間
第1回 目標を設定しよう/ Ways to spend your free time・TOEICテストにチャレンジしよう 現在の英語力を認識し、到達したいレベルを設定し、しっかりと計画を立てよう。自由時間をどのように過ごしているかをペアワークで行う。TOEICテストの結果を見て、振り返りを行う。扱う文法事項（以下Gと表記）：動詞・動名詞	L1のオンライン教材・語彙・表現・文法の復習	2時間
第2回 Directing someone around town 道案内の表現を学び、ショートスキットを行う。	L2のオンライン教材・語彙・表現の復習	2時間
第3回 Healthy habits 日常生活を振り返り、健康的な日常をするには何をすればよいかを考え、ペアでアドバイスをを行う。G:単純現在・頻度を表す副詞	L3のオンライン教材・語彙・表現・文法の復習	2時間
第4回 Eating at a restaurant レストランを予約し、注文するまでの一連の流れをペアワークで行い発表する。	L4のオンライン教材・語彙・表現の復習	2時間
第5回 At the airport 空港で見かけるサインが表すことを理解し、出国手続きや入国手続きのやりとりをペアで行う。・リーディングを通して情報を読み取る。	L5のオンライン教材・語彙・表現の復習	2時間
第6回 Enjoying the weekend 週末の予定を発表し、疑問詞を用いて質疑応答を行う。	L6のオンライン教材・語彙・表現の復習	2時間
第7回 TOEIC Test にチャレンジしよう・Planning to go out 週末や長期休暇や放課後などの予定を書きだし、発表を行う。発表に対し、質疑応答を行う。TOEICテストの結果を見て、振り返りを行う。	L7のオンライン教材・語彙・表現・文法の復習	2時間
第8回 A disastrous holiday 過去の休日を振り返り、一番印象深い出来事について発表する。G:過去時制	L8のオンライン教材・語彙・表現の復習	2時間
第9回 Directing someone around the office 建物（会社・ショッピングセンターなど）の中の道案内を学び、ペアでショートスキットを行う。	L9のオンライン教材・語彙・表現の復習	2時間
第10回 Getting to your hotel ホテルまでの行き方についてペアでショートスキットを行う。	L10のオンライン教材・語彙・表現・文法の復習	2時間
第11回 Layout an office オフィスのレイアウトを学び、最適な自分の部屋のレイアウトを考え発表する。G:場所・位置を表す前置詞	L11オンライン教材・語彙・表現の復習	2時間
第12回 Ordering a meal in a restaurant レストランでの注文の仕方を学び、実際にある店を基にペアでショートスキットを行う。	L12オンライン教材・語彙・表現の復習	2時間
第13回 Looks and appearance 人の描写の表現を学び、互いにクイズを出し合う。・リーディングを通して情報を読み取る。	L13オンライン教材・語彙・表現の復習	2時間
第14回 Parts of the body 身体の部位を学び、医療現場や学校で自分の健康状態を伝える。	L14のオンライン教材・語彙・表現の復習	2時間

授業科目名	海外語学演習（韓国語）				
担当教員名	金 素辰				
学年・コース等	1回生	開講期間	夏期・春期集中	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この授業は、海外語学留学・短期交換留学のため韓国の大学に向かう学生を対象に、留学生生活をスムーズに開始し、現地に適応して有意義な留学生生活を過ごすことができるように、事前に様々な情報や言語、文化などを学ぶ授業です。韓国について、言語・文化・マナー・歴史・地形や気候など多様な観点から学び、現地での留学生生活が円滑かつ充実できるように進めていきます。また留学生生活での不安がなくなるように、受講生個々の意見を聞きながら積極的にサポートしていきます。なお本科目は、現地での語学留学(19日)と事前(4回)・事後(1回)授業を含めて単位を修得するものです。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

言語をはじめ、異文化理解のための知識を養い、判断力・思考力を高めていく。

目標：

円滑な留学のための基礎知識を身につけ、海外語学研修を完遂することができる。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践
2. DP7. 完遂

留学生生活を通して得た言語や異文化理解の知識を持って自ら積極的に行動し、実践力を深めることができる。

主体性をもって自身の目標を立て、現地の文化体験、韓国語の学習体験等を実行し、海外語学研修を完遂することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

- | | | | |
|-----------------|------|---|--|
| 1. 事前授業における参加状況 | 30 % | : | 事前授業への取り組み状況、ワーク(韓国語や留学生活・異文化の理解に関する課題や発表など)への参加度と完成度を基準に評価する。 |
| 2. 留学生活における学習状況 | 40 % | : | 留学生活における参加度・学習度や完遂可否を現地大学および学生の研修報告シートにより評価する。 |
| 3. 事後授業における到達状況 | 30 % | : | 留学生活に関するレポート課題とプレゼンテーションを、表現の正確性、データの適切性、伝達力、PPTの完成度などにより評価する。 |

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 『できる韓国語 初級』（DEKIRU出版、2010）
『韓国-ことばと文化』延恩株（論創社、2021）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修時間が必要となる（事前授業・事後授業・語学研修・授業外学修の合計時間）。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	授業の教室
備考・注意事項：	授業の前後またはメールで対応します。 Eメール：haianksj@naver.com 学籍番号と氏名は必ず入れること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 【海外留学についての学習】 1. 海外留学の目的、意義などについて考える。 2. 個人ごとに韓国留学についての動機、意味などについて話しながら目的を明確にしていく。	1. 留学についての学習内容をまとめ、チェックリストを作成する。2. 各自の留学の目的・意義を再度整理する。	4時間
第2回 【韓国語の学習・韓国語での自己紹介】 1. 簡単な韓国語での質疑応答により、語学力を確認する。 2. プリントに沿って、単語や文型・簡単な会話例文を暗誦できるように練習する。 3. 自己紹介文を作成し、暗記する。	1. 学んだ韓国語の復習と自己紹介文の暗記をする。2. 課題のプリントを完成する。	4時間
第3回 【韓国についての全般的な理解】 1. 前回の単語や文型、課題を確認する。 2. 韓国についての全般的な知識(地形・環境・気候・行政区画など)を学習する。	1. 韓国についての内容を復習する。2. 課題レポートを完成する。	4時間
第4回 【韓国の文化・交通・留学中の注意点についての学習】 1. 韓国の生活習慣や文化の特徴、ソウルの交通や名所について学び、また留学中の注意点などについても理解する。 2. 授業内容や課題レポートを参考にし、日本との共通点、異なる点などを積極的に話し合いながら、異文化への理解を深める。	1. 今まで学んだ韓国や留学に関する知識をまとめ、現地の留学に備える。2. 自己紹介を完璧に練習する。	4時間
第5回 【韓国語留学(19日間)】 留学先の大学における語学研修。	現地授業での課題や復習をする。	4時間
第6回 【語学留学で習得した成果のまとめ】 1. 語学留学を終え、留学生活で学んだこと、得たこと、体験したことなどについてプレゼンテーションする。異文化理解の観点から自身の認識や行動の変化などについてもまとめる。 2. 学生同士でお互いの様々な体験や感じたことなどについて話し合いながら留学の意義や目的について評価してみる。	語学研修全体に対する感想(発表内容)をまとめ、レポートを作成する。	4時間

授業科目名	韓国語 I				
担当教員名	金 素辰				
学年・コース等	1回生観光・2回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

本授業は韓国語を全く知らない学習者が基礎からしっかり学び、韓国の生活や文化を理解しながら基本的な日常会話ができることを目標としています。文字である「ハングル」や発音の修得からはじめ、基本文型や文法を学びながら「スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング」の領域をバランスよく学習していきます。特に映像など様々な資料を用いて、初心者が韓国語を身近に感じ、より楽しく身につけることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

韓国語に関する知識(文字・語彙・文法・文型)

目標：

韓国語の文字・語彙・文法・文型などの知識を修得すると同時に、言語と文化的背景への理解ができる。

2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

韓国語の表現技能(話す・聞く・読む・書く)

韓国語の表現技能(話す・聞く・読む・書く)を学び、実践的な場で適切なコミュニケーションができる。

汎用的な力

1. DP7. 完遂
2. DP8. 意思疎通

学習した単語や構文を指定した条件に適切に応用しながら課題を完成させることができる。

韓国語を通じて異文化を理解し、違いと多様性を認め合い、互いを尊重するコミュニケーション能力が修得できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)

文字の学習の段階では毎回振り返りシートを使用し、学生相互で習得度を確認していく。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

- | | | |
|----------------|------|---|
| 1. 定期試験(筆記) | ： | 前期の学習内容(韓国語に関する知識である文字・語彙・文型・文法など)の理解度・修得度を基準に評価します。 |
| | 30 % | |
| 2. 授業内小テスト(筆記) | ： | 確認のテストを3回行い、学習内容の理解度・修得度を基準に評価します。 |
| | 30 % | |
| 3. 授業内ワーク | ： | 授業でアクティブラーニング活動(単元の内容を中心とした書きや問答、読み、発表、ペアワークの会話、ゲーム型学習など)を行います。その結果の理解度・参加度・応用度などを基準に評価します。 |

4. 課題物 20 %

: 学習内容の定着のための課題を出します。提出の可否と内容の完成度を基準に評価します。

20 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
西江 (sogang) 大学韓国語教育院	・ New 西江韓国語 (SogangKorean) 1A [日本語版]	・ 西江 (sogang) 大学国際文化教育院出版部	・ 2022 年

参考文献等

- ・ 『標準韓国語文法辞典』 韓国国立国語院、アルク出版社、2012
- ・ 『どンドン身につく韓国語 語彙(単語)マスター編(日本語版)』 オ・スンウン、多楽院、2014
- ・ 『New 西江韓国語 (SogangKorean) 1A Workbook』 西江 (sogang) 大学韓国語教育院、西江 (sogang) 大学国際文化教育院出版部、2022

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は入門の段階であるだけに、文字を丁寧に書くこと、発音を正確にすること、対話練習に積極的に参加することに心がけてください。又本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間以上の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間:	授業の前後
場所:	授業の教室
備考・注意事項:	授業の前後またはメールで対応します。 Eメール: haianksj@naver.com 学籍番号と氏名は必ず入れること。

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	<p>【韓国語(ハングル)の紹介】、【ハングル第1課】(1)「母音1」と「挨拶表現」</p> <p>①韓国語(ハングル)の紹介—ハングルの起源や構造を理解していく。 ②基本母音6個と単語を学ぶ。 ③挨拶表現—初めて会った時の挨拶や日常会話の中の基本的な挨拶について学ぶ。</p>	1. 復習: 「母音1」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『挨拶表現』を読みながら覚える。2. 予習: 次回の「子音1」(P16-17)を発音しながら書いてみる。	1時間
第2回	<p>【ハングル第1課】(2)「子音1」と「自己紹介の表現」</p> <p>①子音4個と単語を学ぶ。母音と子音の組み合わせを学ぶ。 ②自己紹介表現—初対面での挨拶や自己紹介でよく使われる文型を学び、実際に使えるように練習していく。</p>	1. 復習: 「子音1」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『自己紹介表現』を読みながら覚える。2. 予習: 次回の「母音2」(P18)を発音しながら書いてみる。	1時間
第3回	<p>【ハングル第2課】(1)「母音2」と「疑問表現1」</p> <p>①二重母音5個と単語を学ぶ。 ②事物について聞く「何ですか」の韓国語文型を学び、実際に使えるように練習していく。 ③名前のハングル表記について学び、自分と友達の名前をハングルで書き、読めるようにする。</p>	1. 復習: 「母音2」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『疑問表現1』を読みながら覚える。2. 予習: 次回の「子音2・パッチム1」(P18-19)を発音しながら書いてみる。	1時間
第4回	<p>【ハングル第2課】(2)「子音2・パッチム1」と「疑問表現2」</p> <p>①子音5個・パッチム4個と単語を学ぶ。 ②場所について聞く「どこですか」の韓国語文型を学び、実際の場面で使えるように練習していく。</p>	1. 復習: 「子音2・パッチム1」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『疑問表現2』を読みながら覚える。2. 予習: 次回の「母音3」(P20)を発音しながら書いてみる。	1時間
第5回	<p>【ハングル第3課】(1)「母音3」と「存在表現1」</p> <p>①二重母音5個と単語を学ぶ。 ②存在の有無を表す表現として「—がいますか・いませんか」「—がありますか・ありませんか」の韓国語文型を学び、実際の場面で使えるように練習していく。</p>	1. 復習: 「母音3」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『存在表現1』を読みながら覚える。2. 予習: 次回の「子音3・パッチム2」(P20-21)を発音しながら書いてみる。	1時間
第6回	<p>【ハングル第3課】(2)「子音3・パッチム2」と「存在表現2」</p> <p>①子音(激音)5個・パッチム5個と単語を学ぶ。 ②存在する場所や位置を聞く「どこにいますか・ありますか」などの韓国語文型を学び、実際の場面で使えるように練習していく。</p>	1. 復習: 「子音3・パッチム2」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『存在表現2』を読みながら覚える。2. 予習: 次回の「母音4」(P22)を発音しながら書いてみる。	1時間
第7回	<p>【ハングル第4課】(1)「母音4」と「漢数詞(電話番号)」</p>	1. 復習: 「母音4」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『漢数詞』を読みながら覚える。2. 予習: 次回の「子音4」(P22-23)を発音しながら書いてみる。	1時間

	<p>①二重母音5個と単語を学ぶ。 ②漢数詞の韓国語表記や読みを覚え、韓国語で電話番号が言えるように練習していく。</p>	
第8回	<p>【ハングル第4課】(2)「子音4・パッチム3」と「固有数詞(単位)」</p> <p>①子音(濃音)5個・パッチム10個と単語を学ぶ。 ②固有数詞の韓国語表記や読みを覚え、韓国語でものが教えられるように練習していく。</p>	<p>1. 復習:「子音4・パッチム3」と単語を発音しながら書き、覚える(プリント)。『固有数詞』を読みながら覚える。</p> <p>1時間</p>
第9回	<p>【ハングルの総復習】、【韓国語と日本語の比較】</p> <p>①母音21個、子音19個、総40個で構成されているハングル文字を全体的に復習し、完全に身につけるようにする。 ②韓国語と日本語の共通点や差を比較しながらまとめ、今後文型や文法を学んでいく上でのベースを構築しておく。</p>	<p>1. 復習:ハングルが完全に自分のものになるように繰り返して覚える(プリント)。2. 予習:次回の単語や会話を読んでくる(P26-27)。</p> <p>1時間</p>
第10回	<p>【準備1課】『お会いできてうれしいです』</p> <p>①[文法]ー基本語尾「-です」、疑問詞「何、どの」、主題助詞「-は」に当る韓国語を学ぶ。 ②[会話1]ー初対面の場で相手の名前と国籍を尋ねたり、自分の名前と国籍を答えたりする場面での会話を練習する。 [会話2]ー初対面の場で相手の職業を尋ねたり、自分の職業を答えたりする場面での会話を練習する。</p>	<p>1. 復習:自己紹介の文型(p25-27)、語彙(国名・職業名、p29)を読み書きしながら覚える。2. 予習:次回の単語や会話を読んでくる(P34-35)。</p> <p>1時間</p>
第11回	<p>【準備2課】『これは何ですか』</p> <p>①[文法]ー指示代名詞「これ/それ/あれ」、疑問詞「誰」、所有格助詞「-の」に当る韓国語について学ぶ。 ②[会話1]ーものの名前を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習する。 [会話2]ーものの所有者について尋ねたり答えたりする場面での会話を練習する。</p>	<p>1. 復習:疑問表現(p31-35)、語彙(事物、p37)を読み書きしながら覚える。2. 予習:次回の単語や会話を読んでくる(P42-43)。</p> <p>1時間</p>
第12回	<p>【準備3課】『コーヒーください』</p> <p>①[文法]ー存在を表す「あります・ありません」文型、固有数詞「ひとつ、ふたつ...」、単位名詞「名、個、瓶、冊など」について学ぶ。 ②[会話1]ー物の有無を聞いて注文する場面での会話を練習する。 [会話2]ー物の有無やその数量を聞いて注文する場面での会話を練習する。</p>	<p>1. 復習:存在表現(p40-43)、語彙(固有数詞、飲料p45)を読み書きしながら覚える。2. 予習:次回の単語や会話を読んでくる(P50-51)。</p> <p>1時間</p>
第13回	<p>【準備4課】『どこにありますか』</p> <p>①[文法]ー主格助詞「-が」、[場所+にあります・います]文型、場所につく助詞「-に」、疑問詞「どこ」について学ぶ。 ②[会話1]ー人がいる場所を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習する。 [会話2]ーある場所の位置を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習する。</p>	<p>1. 復習:存在する場所を言う表現(p49-51)、語彙(場所名p53)を読み書きしながら覚える。準備1~4までの文型をまとめる(プリント)。</p> <p>1時間</p>
第14回	<p>【韓国文化とのふれあい】、【前期内容のまとめ】</p> <p>①前期に学習した語彙、文法、文型などを確認する。 ②韓国の文化とのふれあいを通じて異文化を理解し、分かち合う楽しさを味わいながら、互いを尊重するグローバル的なマインドの重要性について考えてみる。</p>	<p>1. 復習:前期に学習した語彙、文法、文型などをまとめて整理する(プリント)。</p> <p>1時間</p>

授業科目名	韓国語Ⅱ				
担当教員名	金 素辰				
学年・コース等	1回生観光・2回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

本授業は「ハングル」や基本文法を学んだ学習者を対象に基本文型や文法をレベルアップし、日常的な韓国語コミュニケーション能力を向上することを目標としています。「スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング」をバランスよく学習しつつ、実際に接する場面を重点的に取り上げ、自然で生きた韓国語を楽しく身につけていくことを目指します。又学習者の活動を増やし、知っている言語ではなく実際に使える言語に発展させていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

- 韓国語に関する知識(語彙・文法・文型)
 韓国語の表現技能(話す・聞く・読む・書く)

目標：

- 韓国語に関する知識である語彙・文法・文型を修得し、基本的な日常会話ができる。
 韓国語の表現技能(話す・聞く・読む・書く)を身につけ、実践的な場で適切なコミュニケーションができる。

汎用的な力

- DP7. 完遂
- DP8. 意思疎通

- 学習した単語や構文などを指定した条件に適切に応用しながら課題を完成させることができる。
 韓国語を通じて異文化を理解し、違いと多様性を認め合い、互いを尊重するコミュニケーション能力が修得できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

- | | | | |
|----------------|------|---|---|
| 1. 定期試験(筆記) | 30 % | ： | 後期の学習内容(韓国語に関する知識である語彙・文型・文法など)の理解度・修得度を基準に評価します。 |
| 2. 授業内小テスト(筆記) | 30 % | ： | 確認のテストを3回行い、学習内容の理解度・修得度を基準に評価します。 |
| 3. 授業内ワーク | 20 % | ： | 授業でアクティブラーニング活動(単元の内容を中心とした書きや問答、読み、発表、ペアワークの会話、ゲーム型学習など)を行います。その結果の理解度・参加度・応用度を基準に評価します。 |
| 4. 課題物 | 20 % | ： | 学習内容の定着のための課題を出します。提出の可否と内容の完成度を基準に評価します。 |

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
西江 (sogang) 大学韓国語教育院	・ New 西江韓国語 (SogangKorean) 1A [日本語版]	・ 西江大学国際文化教育院出版部	・ 2022 年

参考文献等

- ・ 『標準韓国語文法辞典』 韓国国立国語院、アルク出版社、2012
- ・ 『どんどん身につく韓国語 語彙(単語)マスター編(日本語版)』 オ・スンウン、多楽院、2014
- ・ 『New 西江韓国語 (SogangKorean) 1A Workbook』 西江 (sogang) 大学韓国語教育院、西江 (sogang) 大学国際文化教育院出版部、2022

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は入門の段階であるだけに、文字を丁寧に書くこと、発音を正確にすること、対話練習に積極的に参加することに心がけてください。又本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間以上の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	授業の教室
備考・注意事項：	授業の前後またはメールで対応します。 Eメール：haianks.j@naver.com 学籍番号と氏名は必ず入れること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 【第1課『電話番号が何番ですか』(1)「文法」と「会話1・2」 ①[文法]—漢数詞、電話番号の読み書き方、日付(年月日)、疑問詞「何番、いつ、いくら」に当る韓国語について学ぶ。 ②[会話1]—電話番号を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習する。 [会話2]—誕生日を尋ねたり答えたり、祝ったりする場面での会話を練習する。	1. 復習：文型や本文(p56-59)、語彙(漢数詞p69)を読み書きしながら覚える。2. 予習：次の単語や本文を読んでくる(P62-63)。	1時間
第2回 【第1課『電話番号が何番ですか』(2)「会話3」と「リーディング(読解)」 ①[会話3]—ものの値段を聞いて買い物する場面での会話を練習する。 ②[リーディング]—「家の電話番号が705-7189です」：電話番号を含んだ自己紹介文を読み、内容を理解する。	1. 復習：文型や本文(p62-63)、語彙(読解関連p69)を読み書きしながら覚える。2. 予習：次の単語や本文を読んでくる(P67-69)。	1時間
第3回 【第1課『電話番号が何番ですか』(3)「リスニング(聴解)」, 「第1課のまとめ」 ①[リスニング]—「5月26日が私の誕生日です」：電話をし、電話番号や誕生日を尋ねる会話を聞いて内容を理解する。 ②第1課の文法や文型をまとめて整理する。	1. 復習：文型や本文(スクリプト)、語彙(聴解関連p69)を読み書きしながら覚える。2. 予習：次の単語や本文を読んでくる(P76-77)。	1時間
第4回 【第2課『どこに行きますか』(1)「文法1・2」と「会話1・2」 ①[文法1、2]—固有数詞：時間「時、分」、疑問詞「何時」、場所+に行く」に当る韓国語について学ぶ。 ②[会話1]—午前・午後の日程を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習する。 [会話2]—「場所+に行く」の文型を用いて行先を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習する。	1. 復習：文型や本文(p72-73、76-77)、語彙(時間関連p87)を読み書きしながら覚える。2. 予習：次の単語や本文を読んでくる(P74-75、78)。	1時間
第5回 【第2課『どこに行きますか』(2)「文法3・4」と「会話3」, 「リーディング(読解)」 ①[文法3、4]—現在平叙形語尾「-ます形1」、時間+に」に当る韓国語について学ぶ。 ②[会話3]—一日の日程を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習する。 ③[リーディング]—「ソウルは朝7時です」：時間+に～する」が含まれた日程文を読み、内容を理解する。	1. 復習：文型や本文(p81)、語彙(読解関連p87)を読み書きしながら覚える。2. 予習：次の単語や本文を読んでくる(P85-86)。	1時間
第6回 【第2課『どこに行きますか』(3)「リスニング(聴解)」, 「第2課のまとめ」 ①[リスニング]—「1時に時間がありますか」：電話で約束を決める会話を聞いて内容を理解する。 ②第2課の文法や文型をまとめて整理する。	1. 復習：文型や本文(スクリプト)、語彙(聴解関連p87)を読み書きしながら覚える。2. 予習：次の単語や本文を読んでくる(P94-95)。	1時間
第7回 【第3課『劇場で映画を見ます』(1)「文法1・2」と「会話1・2」 ①[文法1、2]—目的格助詞「-を」、現在平叙形語尾「-ます形2」、何しますか」に当る韓国語について学ぶ。 ②[会話1]—「週末に何しますか」：週末の計画(予定)を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習していく。 [会話2]—「映画を見ます」：一日の計画(予定)を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習していく。	1. 復習：文型や本文(p90-91、94-95)、語彙(動詞p92)を読み書きしながら覚える。2. 予習：次の単語や本文を読んでくる(P93、96)。	1時間
第8回 【第3課『劇場で映画を見ます』(2)「文法3」と「会話3」 ①[文法3]—「映画を見ます」：一日の計画(予定)を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習していく。	1. 復習：文型や本文(p93、96)、語彙(行動、曜日p105)を読み書きしながら覚える。2. 予習：次の単語や本文を読んでくる(P99-100)。	1時間

第9回	<p>①[文法3]ー行動が行われる場所を表す助詞「ーで」,「場所+ーます形」,「曜日」に当る韓国語について学ぶ。 ②[会話3]ー「体育館で運動します」:曜日別の計画(予定)を尋ねたり答えたりする場面での会話を練習する。</p> <p>【第3課『劇場で映画を見ます』】(3)「リーディング(聴解)」</p> <p>①[リーディング]ー「学校でテコンドを習います」:「場所+で〜する」が含まれた曜日別の日程文を読み、内容を理解する。 ②[作文]ー曜日別の計画(予定)を書く。</p>	1. 復習: 文型や本文(p99)、語彙(読解関連p105)を読み書きしながら覚える。2. 予習: 次回の単語や本文を読んでくる(P103-104)。	1時間
第10回	<p>【第3課『劇場で映画を見ます』】(4)「リスニング(聴解)」,「第3課のまとめ」</p> <p>①[リスニング]ー「私も映画が好きです」: 映画を見に行く約束を決める会話を聞いて内容を理解する。 ②第3課の文法や文型をまとめて整理する。</p>	1. 復習: 文型や本文(スクリプト)、語彙(聴解関連p105)を読み書きしながら覚える。2. 予習: 次回の単語や本文を読んでくる(P112-113)。	1時間
第11回	<p>【第4課『昨日学校に行きませんでした』】(1)「文法1・3・4」と「会話1・3」</p> <p>①[文法1, 3, 4]ー過去平叙形語尾「ーました」,時間関連用語,助詞「ーも」に当る韓国語について学ぶ。 ②[会話1]ー「3日前に買いました」:過去形を用いて、買い物をしたことを話す場面での会話を練習する。 [会話3]ー「料理もしました」:過去形を用いて、昨日したことについて話す場面での会話を練習する。</p>	1. 復習: 文型や本文(p108、110-112、114)、語彙(時間関連、行動p123)を読み書きしながら覚える。2. 予習: 次回の単語や本文を読んでくる(P117-118)。	1時間
第12回	<p>【第4課『昨日学校に行きませんでした』】(2)「文法2」と「会話2」,「リーディング(聴解)」</p> <p>①[文法2]ー動詞や形容詞の否定形「ーしない、ーくない」について学ぶ。 ②[会話2]ー「学校に行きませんでした」:否定過去形を用いてできなかったことやその理由を話す場面での会話を練習する。 ③[リーディング]ー「パーティーが11時に終わりました」:パーティーでの行動や状況が書かれている文を読み、内容を理解する。</p>	1. 復習: 文型や本文(p113、117)、語彙(読解関連p105)を読み書きしながら覚える。2. 予習: 次回の単語や本文を読んでくる(P121-122)。	1時間
第13回	<p>【第4課『学校に行きませんでした』】(3)「リスニング(聴解)」</p> <p>①[リスニング]ー「なぜ約束の場所に来ませんでしたか」:約束したのに会えなかった状況で、その理由を尋ねたり答えたりする会話を聞いて内容を理解する。 ②第4課の文法や文型をまとめて整理する。</p>	1. 復習: 文型や本文(スクリプト)、語彙(聴解関連p105)を読み書きしながら覚える。第1〜4課までの文型をまとめる(プリント)。	1時間
第14回	<p>【韓国文化とのふれあい】,【後期内容のまとめ】</p> <p>①後期に学習した語彙、文法、文型などを確認する。 ②韓国の文化とのふれあいを通じて異文化を理解し、分かち合う楽しさを味わいながら、互いを尊重するグローバルなマインドの重要性について考えてみる。</p>	後期に学習した語彙、文法、文型などをまとめて整理する(プリント)	1時間

授業科目名	中国語 I				
担当教員名	和泉 ひとみ				
学年・コース等	1回生観光・2回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

初めて中国語を学ぶ学生を対象として、基礎的な中国語の運用能力の養成を目的とします。今学期は中国語の音声、初歩的な文法を習得することに重点をおき、簡単な文章が読め、日常生活に必要な最低限の表現を覚えることを目標にします。テキストには練習問題がたくさん設けてありますので、それをこなせば簡単な中国語ができるようになります。授業は文法の解説、例文の日本語訳、練習問題を使った作文の練習、本文の解釈、音声の練習という順に行い、単元が終わるごとに必ず小テストを実施します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

中国語の発音記号のルールを知る。会話に必要な文法のルールを知る。

目標：

中国語の発音記号が正確に読め、日常的に使うあいさつ表現や、動詞や形容詞を使った簡単な表現が言えたり書けたりする。

汎用的な力

1. DP8. 意思疎通

中国語で自己紹介ができる。中国語で簡単な意思表示ができる。中国語圏の人に場所や時間、交通手段などを教えてあげられる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験	50 %	：	中国語の発音記号が覚えられているか、基本的な文法を理解し日本語に訳したり中国語で書いたりできるか、よく使う単語や表現が覚えられているか、簡単な中国語を聴いて中国語で書いたり、日本語に訳したりできるか。
小テスト	20 %	：	学習した単元の単語や表現が覚えられているか。
課題	30 %	：	テキストに載っている例文を日本語に訳せるか、練習問題ができているか。本文の発音練習をして正確に言えるようになったか。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
本間史・孟広学	・中国語ポイント42	・白水社	・2019 年

参考文献等

東京外国語大学 中国語モジュール <http://www.coelang.tufts.ac.jp/mt/zh/>

weblio中国語辞典 <https://c.jc.weblio.jp>

コトバンク 小学館 中日辞典 <https://kotobank.jp/dictionary/cj03>

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

授業中に行う課題や小テストは全て学期末の成績の一部となるので、休まずに出席して下さい。
言語を覚えるのに才能は関係ありません。時間をかけて勉強すれば必ずだれでも習得できますので、自分の将来の武器にできるよう頑張りましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

場所： メール

備考・注意事項： メールアドレス：izumi-h@g.osaka-seikei.ac.jp

課題や小テストの用紙に質問事項を書いてもらってもかまいません。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 中国語のアプローチ（中国概要） 中国語を学ぶに当たって、その特徴や知っておいてほしいことについて話します。さらに、中国の略字「簡体字」や発音記号などについて紹介します。	授業内容を復習する	1時間
第2回 発音篇Ⅰ 母音と声調を組み合わせ練習 声調：日本と違って漢字の一字一字には「抑揚頓挫」（音の高低）があります。文章で読むと自然にイントネーションが作られて、まるでメロディーのように美しく感じられます。 母音：7つの単母音、それが組み合わさった2重、3重母音について話します。37個の母音を正しく発音してから声調にのせて発音練習。	発音動画の作成	1時間
第3回 発音篇Ⅱ 子音と声調の組み合わせ 子音：21個の子音に声調をつけて発音練習。「子音+母音」の発音練習。中国語の発音に関するルールも紹介。ルールに基づいて正しい発音を練習します。	発音動画の作成	1時間
第4回 発音篇Ⅲ さまざまな発音ルールや発音の変化を練習&日常のあいさつ 中国語の発音には37個の母音（単独に使える）と21個の子音があります。子音は単独では使いません。子音は必ず母音と一緒に組み合わせさせて単語を形成します。	発音動画の作成	1時間
第5回 復習テスト&声調の組み合わせ、日常のあいさつ 復習テスト実施後、P.11とP.13の単語、日常あいさつ用語を練習。言葉を覚える最初の一步は単語です。単語を覚えることにつれて発音練習も楽しくなります。	発音動画の作成	1時間
第6回 第1課 「私は学生です」 動詞「是」の特徴や使い方、文型を使って置き換え練習します。 会話文を練習⇒2人ペアを組んでロールプレイ練習。 チャレンジの練習を講師といっしょに練習します。	日本語訳、発音動画の作成	1時間
第7回 第2課 動詞述語文「ごはんを食べる、あなたは何をみますか？」 第2課のポイントを逐一解説、練習します。 1. ご飯を食べる、コーヒーを飲む…動詞述語文 2. あれは辞書ではありません…指示代名詞文 3. これは誰の本ですか…疑問詞文 4. これは父のメガネです…所有を表す「的」を解説&練習。	日本語訳、発音動画の作成	1時間
第8回 第2課 スキット「あなたは何が好きですか」 動詞文の特徴や使い方を復習しながら、文型を使って置き換え練習していきます。 会話文を練習してから2人ペアを組んでロールプレイトレーニングをします。	日本語訳、発音動画の作成	1時間
第9回 中間試験（1）筆記& 第3課 形容詞述語文「今日は忙しいですか」 中間試験（1）筆記テストを行います。 形容詞述語文の特徴と他のポイントを解説し、練習します。	日本語訳、発音動画の作成	1時間
第10回 第3課スキット「今日は忙しいですか」&自己紹介 第3課スキット（本文）を解説、練習、ロールプレイトレーニングをします。 自己紹介の練習	日本語訳、発音動画の作成	1時間
第11回 自己紹介の練習& 第4課「あなたはどこに住んでいる？」 前週につづき、自己紹介を練習し、次の中間試験（2）の時に発表してもらいます。 すでに習ったところを見直し、ロールプレイトレーニングをします。 第4課のポイントを解説&置き換え練習してから、スキットの本文に進みます。	日本語訳、発音動画の作成	1時間

第12回	中間試験（2）&自己紹介の発表 中間試験（2）筆記試験&自己紹介発表 第1課～第4課のおさらい	練習問題	1時間
第13回	第5課 数の教え方および物の教え方&疑問詞「この辞書はいくらですか？」 第5課のポイントを解説、練習してからスキットの本文に進みます。 本文を2人ペアを組んでロールプレイトレーニングをします。	日本語訳、発音動画の作成	1時間
第14回	第6課のポイント & 総復習 第6課のポイントを解説、練習してから第1課～第5課のスキットを読む練習。 会話によく使うさまざまな決まり文句が教科書に出ていますので、しっかりと覚えましょう。	総復習	1時間

授業科目名	中国語Ⅱ				
担当教員名	鄭 惠芳				
学年・コース等	1回生観光・2回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

前期までの中国語（1）を習得済みであること。
「相手を知ることこそ、共存共栄ができる」のが目標とします。
1.3億の人口をもつ中国と中国以外の中国語圏の人々とのコミュニケーションを通じて、互いに手を取り共存共栄が実現できます。
この授業の最初の4回は、以前習った中国語の発音や発音に関する様々なルールを確認しながら練習し、第1課から第4課は復習の範囲とし、第5課より進み、日常会話のレベルアップを目指します。
また、実践できるように、授業内での暗記発表や文章を作る発表する機会を増やしていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

語学力を高めていくこと

目標：

語学力を高める、専門的知識を習得することにより、さらに視野を広げることができる。

汎用的な力

1. DP8. 意思疎通

積極性および創造力を養う
よりよい社会性とコミュニケーション力をもつことができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ、また、課題提出がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業参加度	30 %	:	授業態度：教師の指示に従い、積極的に活動をする。グループ、ペアで協力しながら活動するなどの項目において、5段階で評価する。
授業内テストおよび課題の提出	35 %	:	授業内テスト：毎回授業のあとに行う10問の小テスト。課題提出：指示された範囲の教科書内のスキットを書き写す。
中間試験(2回)および期末試験	35 %	:	中間試験：復習するための筆記試験(100点満点)＋自己紹介の発表 期末試験：指定した範囲の筆記試験(100点満点)＋各課本文の読み

使用教科書

指定する

著者

タイトル

出版社

出版年

参考文献等

授業内で配布

履修上の注意・備考・メッセージ

本授業は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で案内します

場所： メール初回授業で案内します

授業計画

学修課題

授業外学修課題にか
かる目安の時間

授業計画	学修課題	授業外学修課題にか かる目安の時間
第1回 発音の復習&練習 授業前に授業範囲を必ず予習してきてください。 発音ルールを確認しながら声調と組み合わせで積極的に声を出して練習する。 授業範囲：P.8～P.13 授業内テスト（筆記）を行います。	学習した内容を復習し、単語部分（P.11&P.13）を暗記し、次回に発表する	2時間
第2回 第1課～第2課の復習 全員P.11とP.13を口頭で発表します。 第1課～第2課の文法ポイントを復習し、学生1人1人ポイントの文型に文章を作ってみる。 そして本文を読んだあと、ペアを組んでロールプレイします。 授業内テストを行います。（出てきた単語の漢字、発音記号と意味を書く）	第1～2課のスキットを熟読 & 第3課を予習	4時間
第3回 第3課の復習 第1課と第2課のスキットを全員暗唱発表 第3課の文法ポイントを復習し、学生1人1人ポイントの文型に文章を作ってみる。 そして本文を読んだあと、ペアを組んでロールプレイします。 授業内テストを行います。（第2回授業と同じ方式）	第3課スキットを熟読& 第4課を予習	4時間
第4回 第4課の復習 第3課のスキットを全員発表 第4課の文法ポイントを復習し、学生1人1人ポイントの文型を文章作ってみる。 そして本文を読んだあと、ペアを組んでロールプレイします。 プリントを配布「自己紹介」を練習し暗記する。 ＊第4回からルーズリプで教科書の内容を書き写します（書き方は授業中に指示する）。	次週に課題提出 第4課（P.26.27.28.29） &第4課スキット暗記する	4時間
第5回 自己紹介の発表&おさらい 「自己紹介」の発表 第4課のスキット発表。 授業内テストを行います。 ＊来週は復習筆記テスト（リスニングも含む）をします。 範囲：今まで授業した部分。	授業した内容を復習する	4時間
第6回 第5課 「この辞書はいくらですか？」 第5課の文法ポイントを復習したあと、学生1人1人ポイントの文型に文章を作ってみる。 そしてスキットを解説、練習したあとペアを組んでロールプレイします。 授業内テストを行います。	次週に課題提出第5課（P.30.31の2ページ）&第5課スキット熟読する	4時間
第7回 第6課 第5課の本文を全員発表。 第6課 ポイント解説してからいっしょに練習を考えます。 授業内テストを行います。	授業内容を復習する &第6課のスキットを予習	4時間
第8回 第6課 スキット「あなたの誕生日はいつ？」 第6課のスキットを解説、練習のあとはペアを組んでロールプレイします。 「教の応用」で遊ぼう！ 学生全員参加しますー たとえば、A:あなたの誕生日はいつ？/ B:答える。/ C:聞き取る。 また、今日は何月何日、何曜日？ あなたの電話番号の最後4桁は何番ですか？、、、 授業内テストを行う	次週課題提出第6課のチャレンジと本文（P.36.37）	4時間
第9回 第7課	次回の中間試験のために勉強する	4時間

	<p>第7課ポイントを解説、練習、チャレンジの練習問題をいっしょに考えましょう。 スキットに進みます。</p> <p>授業内テストを行います。 *次週は中間試験のため、テスト勉強してください。(範囲は授業中指示する)</p>		
第10回	<p>中間試験(1) & 第7課のスキット</p> <p>中間試験(1)筆記試験(リスニングを含む) 第7課スキットを解説、練習したあと、ペアを組んでロールプレイします。</p> <p>次週課題を提出する。</p>	次週提出第7課のチャレンジ&本文(P.40, 41)を書く&スキットを熟読する。	4時間
第11回	<p>第8課</p> <p>第7課のスキット(本文)を1人1人読みます。 第8課のポイントを解説、練習、チャレンジの練習をいっしょに考えましょう。 リスニングの練習(1)最初は単語から。</p> <p>授業内テストを行います。</p>	第8課のスキット予習する	4時間
第12回	<p>第8課 スキット「あなたの発音はすごくいい！」</p> <p>第8課のスキットを解説、練習のあと、ペアを組んでロールプレイします。 短い文章のリスニング練習</p>	次週提出第8課のチャレンジ、本文を書く(P.44, 45)&第8課本文熟読する	4時間
第13回	<p>第6課～第8課おさらい</p> <p>第8課のスキットを1人1人読む発表。 第6課～第8課まで各課のポイントと本文を読む練習する。 短い文章をリスニングを練習する。</p>	授業した内容を復習する&次週は第5課～第8課の文章を読む発表	4時間
第14回	<p>総復習&本文の読む発表</p> <p>本文を読む発表(第5課～第8課) 総復習 *期末試験(筆記―授業中指示する)を準備</p>	次回の期末発表のための総復習をする。	4時間

授業科目名	基礎日本語 I				
担当教員名	鍛冶 致				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

日本語の発音（拍、アクセント、母音の無声化）を中心に学習する。また、演習形式も取り入れて日本語能力試験N1合格を目指す。N1合格に必要なのは聴解力と読解力だが、本学では聴解力が合格ラインに達していない受験者は少ないので本講義では読解力の養成に重点をおく。また、読解力の獲得で重要なのは、思考力、「一般知識」、文字・語彙・文法の知識の獲得だが、本講義では思考力（筆者の意図や主張を丁寧に正確に把握し、筋道を立てて選択肢を吟味する力）の獲得を重視する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

身近な話題について書かれた平易な文章を読んで、その主旨を理解することができる。

目標：

日本語能力試験N1において80点を獲得することを目指す。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践

自己の学習過程を第三者的な視点から客観的に評価し、それに基づいて次の課題を積極的に自らに課し、主体的かつ自律的に学習を深めていくことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

小テストの自己採点	：	正確に採点できているか、誰が見ても分かりやすく採点してあるか、間違いが直してあるか等の観点から5回×5点/回=25点満点で評価する。
	25 %	
自習ノート	：	毎週4ページ以上学習しているか、辞書や参考書を活用しているか、自己の目標や興味に合わせて自主的に課題を設定し取り組んでいるか等の観点から5点/回×5回=25点満点で評価する。
	25 %	
毎回の授業への取り組み状況	：	ワークシートを用いながら各回授業への積極的参加や授業態度を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。
	40 %	
試験（レポート）	：	14回の授業で学んだことを独自の視点から整理・要約した上で、そのうち最も興味を持ったテーマを一つ設定して調べ、整理・要約し、考察し、結論を導き出す（1600字）。独創性5点＋形式5点＝合計10点で評価する。
	10 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特に指定しません。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。授業中に誤答の訂正をしてもらうことがあるので、必ず赤ペンを持参すること（蛍光ペン等のマーカーは不可）。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜3限
場所： 鍛冶研究室（西館2階）

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション：日本語の力を伸ばす方法とは みなさんは日本語学校や専門学校でこれまでどのように日本語を勉強してきましたか。今学期はN1を受験しますか。受ける人は何点を目指しますか。受けない人はいつ受けますか。この機会に自分の学習方法を見直し、前期の学習計画を立ててみましょう。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：格助詞（対象）。	2時間
第2回 親子間の識別能力について書かれた文章を読む 赤ちゃんには自分の母親を識別する能力があります。母親にも自分の赤ちゃんを識別する能力があります。では父親には……。今回は親子間の識別能力について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：格助詞（状況）。	2時間
第3回 上達の法則について書かれた文章を読む スポーツ等の世界では、自分より下のランクの人からも何かを学び取ることができるかどうかが上級者と中級者の境目であるといわれています。いったいなぜでしょうか。今回は上達の法則について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：並列助詞。	2時間
第4回 新聞購読の国際比較について書かれた文章を読む 日刊の新聞が日本ほど購読されている国は世界にほとんどありません。いったいなぜでしょうか。今回は新聞購読の国際比較について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：時間を表す表現（アスペクト）。	2時間
第5回 人間の感覚について書かれた文章を読む 人間には五感があるといわれています。視覚、味覚、触覚……あとの2つがいえますか。いずれにせよ、それらの五感は大きく2つに分類できるそうです。今回は人間の感覚について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：立場を表す表現（間接的な影響を表す表現）。	2時間
第6回 新しい世界との出会い方について書かれた文章を読む 新しい世界と出会うために若者は旅立ちます。みなさんもそうして日本に来たのではないのでしょうか。でもどうですか。新しい世界と出会うことができましたか。今回は新しい世界との出会い方について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：自動詞と他動詞。	2時間
第7回 ロボットについて書かれた文章を読む 溶接ロボットをテレビで見たことがある人は少なくないと思います。では清掃ロボットは見たことがありますか。今回はロボットについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：可能と難易の表現。	2時間
第8回 案内状について書かれた文章を読む	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：比較の表現。	2時間

	みなさんは日本語で書かれた案内状を見たことがありますか。参加資格、申込方法等の情報をそこから素早く読み取ることが出来ますか。今回は案内状について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。		
第9回	動物の人口論について書かれた文章を読む シマウマを食べるライオンはシマウマにとって敵です。でもそんなライオンがシマウマの絶滅を防いでいると聞いたらみなさんは信じてくれますか。今回は動物の人口論について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：話し手の気持ちを表す表現（義務・勧め・許可・禁止など）。	2時間
第10回	日本語の特殊拍（長音・促音・撥音）について 英語（えいご）の「い」とエジプトの「エ」の発音が同じだって知ってましたか。また「切ってください」と「来て下さい」をきちんと区別して発音できますか。「女子」と「上司」の区別はどうでしょう。今回は日本語の特殊拍とその表記について学びます。日本での（パーティーなどを含めた）会食における会話と、そこでのマナーについて学びます。	長音・促音・撥音がどのように発音・表記されるのか、復習しておこう。	2時間
第11回	アクセントについて 「亀を飼う」と「甕を買う」の発音の違い、説明できますか。「切ってください」と「切手下さい」の違いについてはどうですか。実は「菌が生える」と「葉が生える」の違いも日本語話者ならほとんどの場合聞き分けることができます。今回はアクセントについて学びます。	アクセントの3つの型、アクセント核について、復習しておこう。	2時間
第12回	母音の無声化について 口（くち）の「く」と組（くみ）の「く」は発音が異なります。「すみません」の最初の「す」と最後の「す」も実は発音が異なります。では、どのような条件のときにこうした違いが生じるのか、説明できますか。今回は母音の無声化について学びます。	母音の無声化が起こる条件について、復習しておこう。	2時間
第13回	熟語における促音化について 学習の「学」と学校の「学」は発音が異なります。一位の「一」と一致の「一」も発音が異なります。では、どのような条件のときにこうした違いが生じるのか、説明できますか。今回は熟語における促音化について学びます。	熟語における促音化の原則について、復習しておこう。	2時間
第14回	会話：日本語・日本文化への疑問 4—「社会」に関して 各自が日本語・日本の文化について疑問に思ったり、よく分からないことを持ち寄り、口頭発表の形式で自分の意見や考えを述べる練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	2時間

授業科目名	基礎日本語Ⅱ				
担当教員名	鍛冶 致				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

日本語の表記（ひらがな、カタカナ、漢字、ローマ字、算用数字、記号）を中心に学習する。また、演習形式も取り入れて日本語能力試験N1合格を目指す。N1合格に必要なのは聴解力と読解力だが、本学では聴解力が合格ラインに達していない受験者は少ないので本講義では読解力の養成に重点をおく。また、読解力の獲得で重要なのは、思考力、「一般知識」、文字・語彙・文法の知識の獲得だが、本講義では思考力（筆者の意図や主張を丁寧に正確に把握し、筋道を立てて選択肢を吟味する力）の獲得を重視する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

身近な話題について書かれた平易な文章を読んで、その主旨を理解することができる。

目標：

日本語能力試験N1において90点を獲得することを目指す。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践

自己の学習過程を第三者的な視点から客観的に評価し、それに基づいて次の課題を積極的に自らに課し、主体的かつ自律的に学習を深めていくことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。

成績評価の方法・評価の割合

小テストの自己採点

25 %

自習ノート

25 %

毎回の授業への取り組み状況

40 %

試験（レポート）

10 %

評価の基準

： 正確に採点できているか、誰が見ても分かりやすく採点してあるか、間違いが直してあるか等の観点から5回×5点/回=25点満点で評価する。

： 毎週4ページ以上学習しているか、辞書や参考書を活用しているか、自己の目標や興味に合わせて自主的に課題を設定し取り組んでいるか等の観点から5点/回×5回=25点満点で評価する。

： ワークシートを用いながら各回授業への積極的参加や授業態度を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。

： 14回の授業で学んだことを独自の視点から整理・要約した上で、そのうち最も興味を持ったテーマを一つ設定して調べ、整理・要約し、考察し、結論を導き出す（1600字）。独創性5点+形式5点=合計10点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 『新完全マスター文法 日本語能力試験N1』(友松悦子・福島佐知・中村かおり著、スリーエーネットワーク、2011)
 『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』(福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ著、スリーエーネットワーク、2011)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。授業中に誤答の訂正をしてもらうことがあるので、必ず赤ペンを持参すること（蛍光ペン等のマーカーは不可）。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜4限
 場所： 鍛冶研究室（西館2階）

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション：日本語の力を伸ばす方法とは 夏休み中は何をしましたか。日本語を勉強しましたか。どのくらい勉強しましたか。どのような教材で勉強しましたか。この機会に自分の学習方法を見直し、後期の学習計画を立ててみましょう。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：否定と疑問の表現。	2時間
第2回 害虫の駆除方法について書かれた文章を読む 農業を営む人々にとって作物に被害をおよぼす害虫は大きな悩みです。害虫駆除の方法には、殺してしまう、寄せ付けないの他にもう一つとても有効な方法があります。今回は害虫の駆除方法について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：とりたて（主題、対比）。	2時間
第3回 インターネットについて書かれた文章を読む インターネットが普及して異なる価値観をもつ人どうしが交流する機会が増えましたが、そのことによるトラブルも増えています。今回はインターネットについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：とりたて（評価）。	2時間
第4回 科学と技術の違いについて書かれた文章を読む よく一口に「科学技術」といいますが、科学と技術に実は大きな違いがあることを知っていますか。今回は科学と技術の違いについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：複文（条件）。	2時間
第5回 思い込みの恐ろしさについて書かれた文章を読む 見たいと思っているものは見えるけど、見たくないと思っていることは見えない——そんな経験、ありませんか。科学者も同じです。今回は思い込みの恐ろしさについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：複文（逆接・対比）。	2時間
第6回 イベント参加者募集について書かれた文章を読む みなさんは学内のイベントに参加したことがありますか。募集案内を見て、参加方法、参加費用、集合場所等の情報を素早く読み取ることができますか。今回はイベント参加者募集について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：複文（時間）。	2時間
第7回 専門書と啓蒙書の違いについて書かれた文章を読む 良い専門書であり良い啓蒙書でもある——そのような本を読んだ経験はありますか。そもそも、そのような本を書ける人なんているのでしょうか。今回は専門書と啓蒙書の違いについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：待遇表現。	2時間
第8回 社会人について書かれた文章を読む	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：省略（名詞句の省略・助詞の省略）。	2時間

	<p>「社会人」というのはどういう人たちのことをいうのでしょうか。働いている人のことですか。では無職の老人や無職の資産家は社会人ではないのでしょうか。今回は社会人について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。</p>		
第9回	<p>個人と国家について書かれた文章を読む</p> <p>「個」と「私」はそれぞれ「公」とどのように結びついているのでしょうか。また、どう結びつくべきなのでしょう。今回は個人と国家について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。</p>	<p>A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：名詞・代名詞。</p>	2時間
第10回	<p>呉音と漢音について</p> <p>日本語の漢字は読み方がたくさんあって面倒だと思ったことはありませんか。例えば「正直」と「正解」の「正」は読み方が異なります。「人間」と「人物」の「人」も読み方が異なります。なぜ異なるのでしょうか。どのような法則があるのでしょうか。今回は呉音と漢音について学びます。</p>	<p>呉音と漢音について、具体的な事例を集め、分類してみよう。</p>	2時間
第11回	<p>唐宋音と慣用音について</p> <p>漢字の音読みには呉音と漢音の他に唐宋音と慣用音があります。唐宋音の例としては「南京豆」の「京」や「椅子」の「子」があります。慣用の例としては「成立」の「立」や「洗濯」の「洗」があります。今回は唐宋音と慣用音について学びます。</p>	<p>唐宋音と慣用音について、具体的な事例を集め、分類してみよう。</p>	2時間
第12回	<p>日本語のローマ字表記とキーボード入力について</p> <p>キーボードで「デュアルディスプレイをセットアップする」と入力することができるのでしょうか。やってみると意外と難しいものです。手も足も出ないという人もいます。でもこれが打てないと就職したとき絶対困ります。今回は日本語のローマ字表記とキーボード入力について学びます。</p>	<p>「デュ」「ヂ」「ツォ」「ティ」の入力方法について、考えてみよう。</p>	2時間
第13回	<p>書き間違えやすい文字について</p> <p>みなさんは「ゆ」「ふ」「ん」「が」などの平仮名が正しく書けますか。「角」「収」「写」などの漢字はどうですか。「ン」と「ソ」、「ツ」と「シ」、「ワ」と「ク」、「9」と「g」、「1」と「7」、「b」と「6」の書き分けは……。今回は書き間違えやすい文字について学びます。</p>	<p>書き間違いやすいひらがな、カタカナ、漢字、ローマ字、算用数字、記号にはどのようなものがあるか、リストアップしてみよう。</p>	2時間
第14回	<p>日本語の表記のまとめ</p> <p>これまで4回にわたり学習してきた漢字、仮名、ローマ字、算用数字、記号の読み方や書き方（入力方法を含む）について復習します。「こんな文章ですら打てないのか」「あなたの字は読めない」といわれないよう、しっかり取り組みマスターするようにしましょう。</p>	<p>漢字の様々な読み方、日本語のローマ字表記、書き間違いやすい文字について、復習しておこう。</p>	2時間

授業科目名	体育講義				
担当教員名	齋藤 光				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・教育機関にて関連教科指導 ・保育現場にて幼児体育指導 				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

- (1) 現代の健康課題を踏まえ、健康に必要な運動、食事、睡眠についてさまざまな視点から考え、自分の健康課題と改善策を見つけ、健康な生活を創り出す力を養う。
- (2) 青年期から高齢期にわたる身体機能の変化を踏まえ、スポーツの役割や重要性について検討する。「生涯スポーツ」をテーマに、スポーツの魅力とは何か、また、人間がよりよく生きていくためのスポーツのあり方・関わり方や正しい運動の方法について科学的な視点で考え、実践するための教養を身につける。
- (3) スポーツ・運動時における安全に関する知識を身につけ、スポーツの事故やケガ等の予防や対応の方法がわかる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル
2. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

- 運動・スポーツに関する基礎知識と実践力
- 運動・スポーツ時における安全の基礎知識

目標：

- 正しい運動の方法がわかり実践することができる。
- 安全に関する知識を理解し、スポーツ・運動時の事故やケガ等の予防や対応の方法がわかる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP6. 行動・実践

- 現代の健康課題の理解と課題解決のための新しい知見の探索できる。
- 健康な体づくりのための運動を実践することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とする。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題・振り返りシート	30 %	：	授業内容を踏まえた課題を遂行する。毎回の授業時の振り返りシートを記入し提出する。
ポスター・発表	30 %	：	学びをまとめたポスターの制作および発表の機会がある。
小テスト・定期試験（レポート）	40 %	：	授業内における小テストや総括として定期試験を実施する。

使用教科書

指定する

著者

（編集）佐藤 洋

タイトル

・スポーツ健康科学

出版社

・株式会社みらい

出版年

・2022 年

参考文献等

- ・佐々木 一茂（監修）『東京大学の先生伝授 文系のためのめっちゃやさしい 筋肉』. ニュートンプレス. 2023. ISBN : 978-4-315-52657-8

- ・柳沢正史（監修）『ニュートン式超図解 最強に面白い!睡眠』,ニュートンプレス,2020. ISBN:978-4-315-52299-0
- ・林 悠（監修）『東京大学の先生伝授 文系のためのめっちゃやさしい睡眠』,ニュートンプレス,2022. ISBN:978-4-315-52642-4
- ・加藤久典（監修）『やさしくわかる！文系のための東大の先生が教える 食と栄養』,ニュートンプレス,2023. ISBN:978-4-315-52668-4

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 授業後
 場所： 授業教室
 備考・注意事項： 初回授業にて担当教員が指示をする。（第8研究室に体育専任教員が在中）

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 授業ガイダンス／体育・スポーツとは何か 本授業の目標・内容・評価等について理解する。これまでの学校体育を振り返り、体育で何を学んできたのかを振り返り、到達度を確認する。	シラバスの熟読。これまでの学校体育の振り返り。	1時間
第2回 健康とは何かー健康の定義・健康問題（生活習慣病） 健康とは何かという問いに、健康の定義から考える。また、現代の健康問題として生活習慣病を取り上げ、自分の生活を振り返り、自分事として健康課題に向き合う。	テキスト『2章 健康とは何か』を読み、現代的な健康課題について調べる。	1時間
第3回 健康と睡眠 健康と睡眠との関わりを理解し、健康な体づくりについて考える。自身の睡眠に関する現状を把握し、課題を明らかにする。また、よりよい睡眠について理解し、自分自身ができることについて具体的に学ぶ。	テキスト「7章 生活習慣病の要望と改善」pp.110-111を読み、健康と睡眠との関わりについて調べる。	1時間
第4回 健康と栄養 健康と栄養との関わりを理解し、健康な体づくりについて考える。自身の食習慣に関する現状を把握し、課題を明らかにする。また、よりよい食生活について理解し、自分自身ができることについて具体的に学ぶ。	テキスト「7章 生活習慣病の予防と改善」pp.112-118を読み、健康と食事との関わりについて調べる。	1時間
第5回 健康と運動・身体活動 健康と運動との関わりを理解し、健康な体づくりについて考える。自身の運動実施に関する現状を把握し、課題を明らかにする。また、必要な運動基準について理解し、自分自身ができることについて具体的に学ぶ。	テキスト「6章 生活習慣病と運動・身体活動」pp.99-105, pp.109-110を読み、健康と運動との関わりについて調べる。	1時間
第6回 健康づくりのまとめ①ー健康づくりのポスター制作 健康のための睡眠・栄養・運動の授業を振り返り、ポスター制作を行う。	これまでの学びを「健康づくりポスター」としてまとめる。	1時間
第7回 健康づくりのまとめ②ー健康づくりのポスター発表 健康づくりのポスターを使ってプレゼンテーションを行う。	健康づくりポスターを使ってプレゼンテーションの練習をしておく。	1時間
第8回 前半の振り返りと小テスト 前半の学習内容を振り返り、理解度を確認するための小テストを実施する。また、見通しをもって学習を進めていくことができるように、今後の学習計画について把握する。	これまでの授業レジュメやテキストを読んで振り返りを行う。	1時間
第9回 身体の仕組みとトレーニング 身体の仕組み、トレーニングの原理・原則を踏まえ、トレーニングプログラムの立案の方法を知る。	テキスト「第10章 身体の仕組みとトレーニング」を読み、トレーニングの種類や効果について調べておく。	1時間
第10回 スポーツ障害・スポーツ医学 スポーツ外傷とスポーツ障害、応急処置について理解する。また、熱中症やさまざまな環境下における運動への配慮およびスポーツ現場でのけがと応急処置について知る。	テキスト「第11章 スポーツ障害・スポーツ医学」を読み、安全に運動を行うための方法について調べておく。	1時間
第11回 健康・スポーツと性 人間の性について、さまざまな視点から理解し、性の多様性について考える。また、スポーツにおけるジェンダーの課題について、事例等から探り、これからのスポーツの在り方を考える。	テキスト「第12章 健康・スポーツと性」を読み、スポーツと性との関係について学習しておく。	1時間
第12回 ライフステージと生涯スポーツ①ー生涯スポーツの役割と重要性	興味のあるスポーツを見つけて歴史やルール等について調べる。	1時間

	<p>学校教育で学んできたスポーツだけでなく、シーズンスポーツや野外スポーツ、ニュースポーツ等さまざまなスポーツについて調べ、自身のスポーツとの関わり方を見つめ、各年代に適した運動、生涯スポーツの必要性を探る。</p>		
第13回	<p>ライフステージと生涯スポーツ②ー生涯スポーツの楽しみ方</p> <p>スポーツの価値とは何かを問いながら、自分自身とスポーツとの関わり方について考え、生涯スポーツやワーク・スポーツ・ライフバランスについてまとめ、発表する。</p>	<p>これからのスポーツの関わり方について考え、自分に合ったスポーツとの関わり方をまとめる。</p>	1時間
第14回	<p>健康と運動・スポーツ・授業のまとめ</p> <p>健康と運動・スポーツとの関わりについて、第1回～第13回の授業を振り返る。半年間の学びの「まとめ」を行う。</p>	<p>これまでの授業を振り返り、本授業で学びえたことをまとめておく。</p>	1時間

授業科目名	体育実技				
担当教員名	塩田 桃子・齋藤 光				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・教育機関にて関連教科指導 ・保育現場にて幼児体育指導 				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

超高齢社会を迎えた我が国は、生活習慣病をはじめとする健康問題が喫緊の課題となっている。生活習慣病の予防に運動は有効であることは多くの研究で報告されている。しかしながら、大学生における運動の実施状況は他の年齢段階と比較して最も低い状況である。そこで、本授業では、さまざまなスポーツを体験し、生涯にわたってスポーツに親しむことができるよう、スポーツの魅力について実技を通して学習する。また、誰もが楽しくスポーツを行うことができるために必要なルールや行い方を考える。また幼児教育の観点からは、「運動が嫌い・苦手」な幼児が存在すること踏まえ、幼児教育の現場で、保育者、指導者として運動技術を指導するだけではなく、運動・スポーツの楽しさを伝える指導力や保育実践力が重要となる。健康な体づくりと共に、運動やスポーツの楽しさを体感し、仲間と協力すること、コミュニケーションを図ることを体験しながら、子ども達に楽しさを伝える基礎を学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

球技など一般的なスポーツだけではなく、ニュースポーツも行うことで、新しいスポーツに親しむ。さらにルールを理解し、学んだ知識を活かすために汎用的な技能や実践能力を磨く。

目標：

保育者、指導者を目指す学生として、自身の体力の維持増進を図ると同時に、様々な運動の特性を知り、運動技能の向上、保育実践力、指導力の向上を図ることができる。

2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

運動に真剣に取り組む体験から、身体を動かすことの喜び、運動の楽しさ、仲間と協力する素晴らしさを理解する。

運動の必要性、重要性を理解し、楽しさの体験、仲間との協力を図ることから、将来の指導力に役立てることができる。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践
2. DP8. 意思疎通
3. DP9. 役割理解・連携行動

健康や体力の維持増進、技術上達等を各学生が体験する。

様々な種目を通してコミュニケーション能力を育てることができる。

実技を通して考える力、協力する力を育み、安全管理の必要性を理解する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・課題解決学習（PBL）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とする。指定ジャージ、体育館シューズ着用にて、授業を受講すること。長い髪は束ねること。スマートフォンは各自鞆の中に入れ、マナーモードなどに設定し、音が鳴らないようにすること。授業の集合時にポケット等に入れて、持ち込まないこと。実技授業形態の妨害になるような行動はとらないよう、各自が自覚をして受講すること。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業の参加意欲・態度	：	授業へ積極的に参加しているか。受講の服装（指定ジャージ、体育館シューズ着用、安全面への配慮）、授業態度（受講マナー、スマートフォンの使用や集合時に集まらないなどは減点。ルールを理解しグループで協力して練習をするなどの姿勢・態度であるか。
	30 %	
課題提出（ポートフォリオ）	：	毎回の授業での学びを記録する。
	30 %	
定期試験（レポート）	：	授業での学びや気づきをまとめる。運動の楽しさと共に、幼児教育では、運動を指導するだけではなく、楽しさを伝える指導力が重要であることを理解し、具体的な指導方法を考える。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・大修館書店編集部編、『観るまえに読む大修館スポーツルール2023』。大修館書店。2023。ISBN：9784469269468
- ・神谷拓、『運動会指導の原理と実践』。大修館書店。2022。ISBN：9784469269376

履修上の注意・備考・メッセージ

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業後

場所： 授業実施体育館

備考・注意事項： 授業終了後に質問するようにして下さい。（第8研究室に体育実技の専任教員が在中）

授業計画

学修課題

授業外学修課題にかかる目安の時間

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 ガイダンス（授業概要と目的）・レクリエーション 授業の進め方や成績評価の方法、受講マナーについてガイダンスを行う。また、近年において何故運動が重要視されているのか、さらに、子ども達になぜ運動が必要なのかといった「体育実技」として、運動をする必要性を理解する。 授業のはじめにストレッチング等の準備運動を行い、その重要性を理解する。スポーツ種目を始める前に、指導者と受講者、受講者同士の緊張を解す（アイスブレイキング）活動を取り入れることが望ましく、スムーズな展開に繋がることを理解する。様々なアイスブレイキングに取り入れられるあそびやゲームを体験し、仲間と共に取り組む楽しさ、協力する大切さを学ぶ。	「レクリエーション」の意味を理解しておくこと。	1時間
第2回 体力・運動能力テスト 現在の体力・運動実施状況について把握する。また、これから必要な体力・運動能力について考え、これからのスポーツとの関わり方について考える。	体力テストの計測方法、種目等を調べておく。	1時間
第3回 ドッジボール 転がしドッジボール、王様ドッジボールなど様々な形式のドッジボールを楽しみながら、ボールを投げる動作や周囲を見渡す力を養う。また、ルールを守る態度やチームで運動を行う楽しさを実感する。	「ドッジボール」のルールを理解しておくこと。	1時間
第4回 ポートボール ルールの概略を説明し、理解を促す。バスケットボールに繋がる種目であり、既存のスポーツのルールを工夫することで、子ども達にも実践可能な運動になることを伝える。バスケットボールとの違いや、使用するボールによっても違いが出ることを体験し、保育実践力向上につなげる。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。	「ポートボール」のルールを理解しておくこと。	1時間
第5回 バスケットボール ルールの概略を説明し、理解を促す。また、ボールコントロール、ハンドリング技術の向上を目的にパス・ドリブル・リバウンドなどの基礎的な動き、レイアップシュート・ジャンプシュート、セットシュートなどを練習する。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。	「バスケットボール」のルールを理解しておくこと	1時間
第6回 ソフトバレーボール ルールの概略を説明し、理解を促す。基本的にはバレーボールのルールで、柔らかい大きめのソフトバレーボールを使用することで、腕が痛い、ボールが怖いということがなく、取り組むことが出来る。バレーボールの基本技術の向上を目的にオーバーハンドパス・アンダーハンドパス・スパイク・サーブなどの動きを練習する。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。	「ソフトバレーボール」のルールを理解しておくこと。	1時間
第7回 バレーボール バレーボールのルールを理解し、バレーボールに必要な基本的な技術を習得する。	「バレーボール」のルールを理解しておくこと。	1時間
第8回 バドミントン バドミントンのルールを理解し、バドミントンに必要な基本的な技術を習得する。	「バドミントン」のルールを理解しておくこと。	1時間
第9回 ニュースポーツ①ーインディアカ ニュースポーツであるインディアカのルールを理解し、基礎技術を獲得する。	「インディアカ」のルールについて調べておくこと。	1時間

第10回	ニュースポーツ②ーフットサル ボールを使ったニュースポーツの一つであるフットサルのルールを理解し基礎技術を獲得する。	「フットサル」のルールについて調べておくこと。	1時間
第11回	ニュースポーツ③ーキンボール ニュースポーツの一つであるキンボールのルールを理解し、基礎技術を獲得する。	「キンボール」のルールについて調べておくこと。	1時間
第12回	運動会種目 さまざまな運動会種目に取り組み、スポーツ実施の運営力を身に付ける。	「運動会種目」について調べておくこと。	1時間
第13回	レクリエーション・リクエスト種目 授業で実施した種目の中から、再度実施したい種目を選択し、取り組む。仲間と共に取り組む楽しさ、協力する大切さを改めて学び、自身が学び得た事、今後に活かすことができる内容について振り返る。	「ニュースポーツ」の魅力について、これまでの学び振り返り、まとめておくこと。	1時間
第14回	授業のまとめ・スポーツの魅力とは何か これまでの授業を振り返り、さまざまなスポーツからの学びを踏まえて、スポーツの魅力についてまとめる。	授業を振り返り、これまでの内容についてまとめておくこと	1時間

授業科目名	暮らしと環境				
担当教員名	瀬川 悠紀子				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	専門学校（調理師コース）にて「公衆衛生学」、「食生活と健康」を担当（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、①身近なところから世界的に生じている環境問題を理解することで、自分の専門と環境との関わり合いを導き出すとともに、②現在の環境を将来も持続させていく方法を議論して、自分の考えを構築できるようになることを目指します。このような訓練を繰り返すことで、現在多くの環境に関する情報がマスメディアで報じられていますが、それらの情報を正確に把握し、自分はそれに対してどのような意見や行動を起こせばよいのかを判断し、周辺や次世代を担う人々に自信をもって伝えることができるようになることが目的です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

現在の環境問題に対する正確な知識を習得すると同時に現在生じている環境問題についての考え方を学ぶ。

目標：

環境問題に関する情報を得た時、その内容を正しく理解して、それに対して自分はどうすれば良いのかを判断できる知識を養う。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

環境問題の現状に対する知識に基づき、今後の暮らしの中で生じる環境問題を予測することができるようになり、それが重大な問題とならないよう事前に生活スタイルを改善することができるようになる。

2. DP6. 行動・実践

環境に関する基礎知識を習得することができるため、就職した際にもその知識を生かし、環境改善に関する行動を行うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

小テスト

20 %

質問

10 %

授業態度

30 %

定期試験（筆記）

40 %

評価の基準

冒頭で前回の授業内容に関する小テストを行い、その平均点を評価に加算する。

毎回の授業において1つ以上の質問の記入を求め、その有無について評価する。

授業内での積極性及び取り組み状況を独自のルーブリックで評価する。

学んだ内容に関する筆記試験を行う。

使用教科書

指定する

著者

栗原伸公

タイトル

・公衆衛生学 第3版

出版社

・学文社

出版年

・2024 年

参考文献等

授業内で随時紹介

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学習課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、必ず質問をみつけてください。さらに、次回の授業に向けてテキストの該当する章を熟読すること。また、小テストで問われている部分はかならず見直し、それらに関連することについての知識も習得すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月2限
場所： 本館3階調理研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 環境とは “本授業の目的、到達目標、授業計画、席席表か等を共有し、授業で目指すべき内容を理解する。環境とは自分を取り巻くすべてのものであること、私たちは環境に影響を与え、環境に影響を与えられながら暮らしていることを知る。そして環境が健康にも大きく影響することを理解し、暮らしの中で自身の健康に関わる環境についての知識の基礎を得る。”	授業前にテキストの該当部分を熟読する。課題が出た場合はしっかりと取り組む。	4時間
第2回 環境と健康 4大公害（第一、第二水俣病、四日市ぜんそく、イタイイタイ病）に焦点を当て、暮らしの中で欠かすことのできない水や大気などの環境が健康に大きく影響することを理解し、対策を考える。現在もそれらの問題が完全に解決していないことを知るとともに、それに対する対処方法について考える。	授業前にテキストの該当部分を熟読する。課題が出た場合はしっかりと取り組む。	4時間
第3回 地球温暖化とその他の環境問題 地球温暖化の原因や、その影響を学ぶ。今後世界中の人々がこれまでの生活をするのとどれくらいの速度で地球の気温が上昇するか、それを少しでも遅くするにはどのようなことをすればよいかを考える。その他の環境問題についても学ぶ。	授業前にテキストの該当部分を熟読する。課題が出た場合はしっかりと取り組む。	4時間
第4回 我が国の死亡原因と食環境 わが国を中心に昨今の死亡原因を学び、上位を占める死亡原因が多い理由を学ぶ。食生活が重要であることを理解し、私たちを取り巻く食環境を考える。	授業前にテキストの該当部分を熟読する。課題が出た場合はしっかりと取り組む。	4時間
第5回 食と健康 食生活の健康に対する重要性を学び、健康で過ごすための対策を考える。	授業前にテキストの該当部分を熟読する。課題が出た場合はしっかりと取り組む。	4時間
第6回 衣環境 暮らしの上で欠かせない衣環境について学び、健康で過ごすための対策を考える。	授業前にテキストの該当部分を熟読する。課題が出た場合はしっかりと取り組む。	4時間
第7回 住環境 揮発性有機化合物、シックハウス症候群など住環境に欠かせない内容を学び、快適な住まいとはどのようなものかを考える。	授業前にテキストの該当部分を熟読する。課題が出た場合はしっかりと取り組む。	4時間
第8回 ごみ（廃棄物）問題 私たちが暮らす中で必ず廃棄物が出る。現在年間どの程度どのような廃棄物が排出されているのかについて解説する。それらを分別する理由や、再利用の方法や、廃棄物を削減するための対策を考える。	授業前にテキストの該当部分を熟読する。課題が出た場合はしっかりと取り組む。	4時間
第9回 飲酒・喫煙 飲酒と喫煙が暮らしていく中で健康に及ぼす影響を知り、対策を考える。	授業前にテキストの該当部分を熟読する。課題が出た場合はしっかりと取り組む。	4時間
第10回 運動・睡眠 暮らしの中の運動・睡眠が健康に及ぼす影響を知り、対策を考える。	授業前にテキストの該当部分を熟読する。課題が出た場合はしっかりと取り組む。	4時間
第11回 労働環境 労働は暮らしの大きな割合を占める。その労働環境が健康に大きく影響することを学び、快適な労働環境にするためにはどうすればよいかを学ぶ。	授業前にテキストの該当部分を熟読する。課題が出た場合はしっかりと取り組む。	4時間
第12回 ストレス 人は暮らしの中で様々なストレスを受け、影響されることを理解する。ストレスの仕組みを知り、ストレスが単に排除するためだけのものではないことを理解する。	授業前にテキストの該当部分を熟読する。課題が出た場合はしっかりと取り組む。	4時間

第13回	メンタルヘルス 幸せな生活を送っていくには、身体の健康だけでなく心の健康も重要であることを学び、健康に影響を与える様々な環境とうまく付き合う方法を考える。	授業前にテキストの該当部分を熟読する。課題が出た場合はしっかりと取り組む。	4時間
第14回	暮らしと環境のまとめ 暮らしと環境で学んだ内容を振り返ることで、身につけた知識を確認する。	授業前にテキストの該当部分を熟読する。課題が出た場合はしっかりと取り組む。	4時間

授業科目名	日常の科学				
担当教員名	小関 佐貴代				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

日常生活を取り巻いている環境や物質について科学的な見つけることにより、生活者としての思考力を修得することも目標とします。まず、日常生活に存在する物質を化学的に理解するために、元素（原子）、原子の構造、分子の成り立ち、アボガドロ数、エネルギー、酸・塩基、酸化・還元、濃度計算についても取り上げ、物質の変化を量的に把握する方法も解説します。本講義で習得した知識は、日常生活の存在する化学的なリスクから身を守ることに役立ちます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

日常に起こっている化学変化を理解する。

目標：

身近な化学変化に関する基礎的な知識を習得する。

汎用的な力

- DP4. 課題発見

日常生活で直面する科学的リスクを見出すことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	20 %	：	毎回の授業において実施する課題プリントについて 2点×14回＝28点を20点に換算し、評価します。
授業後課題	20 %	：	毎回の授業後の課題プリントについて 2点×14回＝28点を20点に換算し、評価します。
プレゼンテーション	20 %	：	①テーマへの取組み ②説明の分かり易さ ③提示する資料の分かり易さ などの観点から20点満点の評価をします。
定期試験	40 %	：	100満点の定期試験を実施し、40点に換算し、成績評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・ 高校で使用した理科（化学、生物）の教科書や資料。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であり毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学習課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日4限（15：00～16：40）

場所： 栄養第3研（中央館2階）

備考・注意事項： オフィスアワーは、月曜日4限（15：00-16：40）、場所は栄養第3研（中央館2階）です。その他、いつでも来室を受け付けます。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 日常生活にある科学技術を見つけよう！ ①身近な生活に関わる物をグループに分ける。 ②グループ分けした理由を説明する。 ③日常生活で危険と思うものを見つけて説明する。 ④②③から、日常生活にある化学的な見方を確認する。	授業に実施した課題を確認し、復習課題に解答したものを画像で提出する。	4時間
第2回 物質の成り立ちを理解する！ ①ダイヤモンドは、何からできているのかな？ ②木は、何からできているのか？ ③炭は何から作られるのかな？ ④ダイヤモンドと炭について ①～④から発展し、元素と単体を理解する。	授業に実施した課題を確認し、復習課題に解答したものを画像で提出する。	4時間
第3回 元素と原子について ①元素と原子の違いについて ②原子の構造について ③原子の特徴と周期表 ①～③から発展し、イオン化傾向を理解する。	授業に実施した課題を確認し、復習課題に解答したものを画像で提出する。	4時間
第4回 化学結合について ①イオン結合 ②共有結合 ①～②から発展し、分子の形状を理解する。	授業に実施した課題を確認し、復習課題に解答したものを画像で提出する。	4時間
第5回 原子量と物質質量（モル） ①化学量について ②アボガドロの分子量について ①～②から発展し、化学反応における量について理解する。	授業に実施した課題を確認し、復習課題に解答したものを画像で提出する。	4時間
第6回 溶液の濃度について ①%濃度について ②モル濃度について ①～②から発展し、溶液の濃度計算ができるようする。	授業に実施した課題を確認し、復習課題に解答したものを画像で提出する。	4時間
第7回 酸・塩基について ①酸と価数について ②塩基と価数について ①～②から発展し、酸と塩基を見分けるようことできるようになる。	授業に実施した課題を確認し、復習課題に解答したものを画像で提出する。	4時間
第8回 酸・塩基の反応について ①中和反応について ②中和反応の量的関係について ①～②から発展し、中和滴定ができるようになる。	授業に実施した課題を確認し、復習課題に解答したものを画像で提出する。	4時間
第9回 混ぜるな危険 ①家庭にある混ぜるな危険！ と表記のあるものについて ②①に入っているものを化学式で書く ③②の化学式から混ぜたときに起こる反応を考える	授業に実施した課題を確認し、復習課題に解答したものを画像で提出する。	4時間
第10回 水について ①水の構造について ②溶媒としての水の特性について ①～②から発展し、水合を理解する。	授業に実施した課題を確認し、復習課題に解答したものを画像で提出する。	4時間
第11回 溶ける？ 溶けない？ 油と水は混ぜる？ ①水に溶けるとは？ ②水に油は溶ける？ ③マヨネーズは、どうなってる？ ①～③から発展し、溶液、懸濁液、乳化を理解する。	授業に実施した課題を確認し、復習課題に解答したものを画像で提出する。	4時間
第12回 洗剤と漂白剤について	授業に実施した課題を確認し、復習課題に解答したものを画像で提出する。	4時間

	①衣類の洗剤について ②食器の洗剤について ③衣類の漂白剤について ④食器の漂白剤について ①～④から発展し、界面活性について理解する。		
第13回	人の体を作っている物質について ①筋肉は何からできている ②骨や歯は何からできている ③口いなる臓器は何からできている ①～④から発展し、有機化合物について理解する。	授業に実施した課題を確認し、復習課題に解答したものを画像で提出する。	4時間
第14回	調べたこと「生活の中の化学」の発表 調べたことを発表する。	定期試験に向けて復習しておくこと	4時間

授業科目名	暮らしと経済				
担当教員名	本間 哲也				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期・後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この講義では日常の暮らしの中から身近なテーマを選び、それを経済学的視点、特にミクロ経済学及びマクロ経済学の視点を中心に解説します。経済学の基礎を学ぶことで、身近な話題の中から、社会の大系をつかみ、①経済的合理性を持った思考を構築できるようになります。またそれによって②新聞やニュースに出てくる経済記事、国・地方公共団体の政策、企業の活動に関する記事内容が理解できることで、自らの現状認識及び将来の方向性を見定めることができるようになることを目指します。授業前課題で問題提起をして、授業で解説し、それに関連する課題を出します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

社会人としての必要な経済学的知識と教養

目標：

新聞やニュースなどの情報を理解し、社会生活に役立てることができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

毎回配布した資料から、社会生活における課題を発見し検討できるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価の対象外とする。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

講義前課題	28 %	：	毎回の講義内容に関する課題を課す。回答に合理性があれば2点。
毎回のレポート	56 %	：	各回4点満点。講義内容が概ね理解できていれば2.5点、さらに深く理解できていれば3点。独自の見解が示されていれば4点。不足があれば1点減点。授業態度がよくないと認められた場合は1点減点とする。
期末試験	16 %	：	経済学の基礎知識とそれを用いて経済学的見解を述べる論賞式問題を出题する。評価方法は以下の視点。 ①経済学の知識を正しく理解しているかどうか ②課題に対し経済学的思考をベースに回答できているかどうか

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・ N. グレゴリー・マンキュー『マンキュー入門経済学』（日本語訳最新は「第3版」）東洋経済新報社、2019年（第3版）、ISBN:978-4-492-31521-7。
- ・ 中谷武・中村保（編著）『1からの経済学』碩学社、2010年、ISBN:978-4-502-68080-9。
- ・ 高校時代に学習した「現代社会」「政治・経済」「ビジネス経済」の教科書・資料集は（手元に残っているようなら）有益なはず。
- ・ その他、必要に応じ授業中に示す。

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
- ・履修開始前の特段の予備知識は不要。ただ、「参考文献等」欄でも触れたように、高校の「現代社会」「政治・経済」「ビジネス経済」の教材（特に教科書と資料集）が残ってれば、参照できるよう手許に持っておくことを推奨する。
- ・授業中の発言・質問等の積極的な参加は高く評価する。
- ・毎日の新聞やニュースに注意を払うこと（日ごろ見落としがち小さなニュースの中にも実は大きな経済問題が含まれている場合があります）。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 前期：月曜4時限目，後期：水曜3時限目

場所： 教員研究室（西館4階）

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
<p>第1回 ガイダンス・経済学とは</p> <p>講義前課題：「経済」と聞いて何を連想するか</p> <p>講義の進め方 経済学の成り立ち。経済学的視点などこれから経済学を学ぶ上での基本的な注意点を提示する。</p> <p>講義課題 授業後のレポート：本日の講義のまとめ。経済学のイメージについて</p>	<p>講義課題等を用い、授業内容（経済学を学ぶことによって何をj得ることができるか、経済学の目的など）を復習し、次回授業時に説明できるようにしておくこと。</p>	4時間
<p>第2回 価格について考えてみよう！</p> <p>前回課題の解説 講義前課題：2つのスイーツ：どちらを選ぶか？また選んだ理由は？</p> <p>価格はどのように決まるのか？ 梅田やホテルで飲むコーヒーは何故価格が高いのか？ 価格と価値の違いや価格の決定について学ぶ。</p> <p>講義課題：価格決定について学んだこと。あなた自身を高く売るには何が必要か</p>	<p>講義課題等を用い、授業内容（価格の決定メカニズム）を復習すること。また、商品には定価があっても同じ商品が店によってなぜ価格が違うのかを、次回授業時に説明できるようにしておくこと。</p>	4時間
<p>第3回 需要と供給って何？</p> <p>前回課題の解説 講義前課題：「コロナ禍」前後で、マスクの値段はどう変化したか？ 経済学における財とサービスの定義 市場原理と需要と供給の意味や仕組み</p> <p>講義課題：市場原理が働いている事例を挙げること</p>	<p>講義課題等を用い、授業内容（市場メカニズム）を復習すること。また、公共料金は何故価格が決まっているのかを考え、次の授業で説明できるようにしておくこと。</p>	4時間
<p>第4回 暮らしと税金を考えよう</p> <p>前回課題の解説 講義前課題：税金の種類にはどんなものがあるか？</p> <p>デパートのエレベーターやエスカレーターの費用はだれが払う？ 税金は何のためにあるのだろうか？ 税金が上がるとどうなるか？ 税金の種類 公共事業と税金など税の必要性和仕組みについて学ぶ。</p> <p>講義課題：コロナウイルス対策費と国の借金について</p>	<p>講義課題等を用い、授業内容（政府の役割や税）を復習すること。また、所得税や消費税について次回授業で説明できるようにしておくこと。</p>	4時間
<p>第5回 効用と限界効用について考える。</p> <p>前回課題の解説 講義前課題：タピオカはなぜ今は流行ってないのだろうか？</p> <p>効用って何？予算って何？ 予算内でいかに効率的に満足度を高めるには？ など人間の行動と経済的制約について学ぶ。</p> <p>講義課題：レストランのリピーターを増やす方法を考える。</p>	<p>講義課題等を用い、授業内容（予算制約下の効用最大化など）を復習すること。また、食事の一口目がなぜ美味しいのか考え、次回授業で説明できるようにしておくこと。</p>	4時間
<p>第6回 満足とその限界を考える。限界効用と無差別曲線 1</p> <p>前回講義の解説 講義前課題：予算制約線に関する問題</p> <p>人間の満足度を、グラフを用いて理解する。そのうえで無差別曲線という曲線と予算制約線との関係を解説する。</p> <p>講義課題：人間の行動分析に関する課題</p>	<p>講義課題等を用い、授業内容（経済学におけるグラフの利用など）を復習すること。また、人間の欲望はどこまで大きいのか？なぜどこかで我慢できるのか？を考え、次回授業で説明できるようにしておくこと。</p>	4時間

第7回	価格と満足を考える。限界効用と無差別曲線 2	講義課題等を用い、授業内容（条件の変化による最適解の変化など）を復習すること。また、人間の満足度と価格の関係を改めて考え、次回授業で説明できるようにしておくこと。	4時間
	<p>前回課題の解説 授業前課題：最適化行動について</p> <p>価格が上がると満足度はどうなるだろうか？無差別曲線について振り返りながら、予算制約線との関係について学ぶ。第6回の応用問題を学ぶ。</p> <p>授業課題：条件を変えての最適化行動</p>		
第8回	豊かさって何？	講義課題等を用い、授業内容（GDPの考え方と意味など）を復習すること。また、どうすれば国や国民は豊かになるのかを考え、次回授業で説明できるようにしておくこと。	4時間
	<p>前回課題の解説 授業前課題：あなたにとって「暮らしの豊かさ」とは？</p> <p>暮らしの指標とGDP 日本の経済を示す様々な指標を示しながらGDPについて解説する。またGDPの数値が大きければそれで良いのかも考える。</p> <p>キーワード：GDP 投資 消費 輸出 輸入 貯蓄 インフレ</p> <p>授業課題：一人一人が豊かに感じるにはどうすればよいか</p>		
第9回	幸せって何？	講義課題等を用い、授業内容（経済学における幸福の捉え方など）を復習すること。また、人間（および自分自身）にとって幸せとは何かを考え、次回授業で説明できるようにしておくこと。	4時間
	<p>前回課題の解説 授業前課題：どんな時に幸福を感じますか</p> <p>「幸せ」について経済学視点で考えてみよう：お金があれば幸せか？どうすれば幸せになれるのかななどを議論する。</p> <p>キーワード：健康 負債 希望</p> <p>課題：幸福と経済の関係について述べる</p>		
第10回	結婚について考える。	講義課題等を用い、授業内容（結婚など、家族に関わる事象の経済学的解釈など）を復習すること。また、なぜ日本は少子化に向かっているのか？なぜ晩婚化は進むのかなどを考え、次回授業で説明できるようにしておくこと。	4時間
	<p>前回課題の解説 授業前課題：結婚によって得られるものと失うもの</p> <p>結婚や少子化についても経済的視点考える。どうして結婚しない人が増えているのか？少子化の原因は？生涯賃金など、結婚とその後の生活を交えながら結婚にまつわる制度について経済的視点で考える。</p> <p>キーワード：機会費用</p> <p>授業課題：結婚の機会費用を減らす方策を考える</p>		
第11回	経済人とレモン	講義課題等を用い、授業内容（不完全情報下での市場の働きなど）を復習すること。また、つまらない映画を見てしまうなど、消費における「ハズレ」が起こる理由を次回授業で説明できるようにしておくこと。	4時間
	<p>前回課題の解説 授業前課題：映画の途中で映画館を退出できるか</p> <p>情報の非対称性下の市場について学ぶ。他に、埋没コストや流動性の罫といわれる市場における経済活動を阻害する要因等について考える。サンクコスト、レモンの原理について。映画や住宅市場を例に考える。</p> <p>授業課題：購入時にブランドを重視するか</p>		
第12回	都市と経済	講義課題等を用い、授業内容（都市・都市化の利点など）を復習すること。また、あなたはなぜ、大阪に勉強にきているのか。大都会に住む有利さは何か等を考え、次回授業で説明できるようにしておくこと。	4時間
	<p>前回課題の解説 授業前課題：商品を大量につくると安くなるのはなぜ？</p> <p>規模の経済：大量につくると何故価格が安くなるの？ 集積の経済：どうして都会に人が集まるの？</p> <p>授業課題：大量に作ることのメリットや集積することのメリットについて述べよ</p>		
第13回	産地と消費地	講義課題等を用い、授業内容（移動・輸送コストと都市集積の関係など）を復習すること。また、輸送費に着目して生産や消費の立地を考え、次回授業で説明できるようにしておくこと。	4時間

	<p>前回課題の解説 授業前課題：お酒やワインの工場はそれぞれの産地にあるのはなぜ？</p> <p>たとえば醤油の産地はなぜ竜野市や小豆島だったのだろうか？ ビール工場はどうして吹田なのだろうか。 門真や守口にはどうして家電メーカーがあったのだろうか？ 消費地と産地について考えます。</p> <p>授業課題：かつての大阪では門真や守口に家電工場が集中していた。その理由を考える。</p>		
第14回	<p>市場の失敗</p> <p>前回課題の解説 授業前課題：淀川花火大会ごみ問題</p> <p>市場の原理は経済のなかでは非常に重要な原理ではあるが、維持するためには大変な努力が必要であり。ここでは市場の原理が働かない事例を学び、改めて市場原理の重要性を学ぶ 最後に経済効果について学ぶ</p> <p>授業課題：市場の原理が働かないケースをを具体例を挙げて説明する。</p>	<p>講義課題等を用い、授業内容（市場の限界とその克服のための工夫など）を復習すること。期末試験の準備をすること。</p>	4時間

授業科目名	手話コミュニケーション論				
担当教員名	佐野 美保				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期・後期	単位数	2
授業形態	講義と演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	手話通訳士及び大阪府登録手話通訳者として16年にわたり手話通訳業務を担当。地域活動としても聴覚障がい者のコミュニケーション支援に携わっている。併せて大阪府手話通訳者養成講座の登録講師を務めている。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この授業では、手話言語・指文字等を用いて、自己紹介など基本的な会話に必要な手話言語力・手話コミュニケーション力を身につける。また、手話の技術を習得するとともに、手話言語の特徴・音声言語との違いから、聞こえないこと・聞こえない人についての理解を深める。情報保障・コミュニケーション支援についても学ぶ。講師も手話言語を用いて授業を実施するが、ろう者の手話を習得するために動画を使用し、学生同士の手話での会話演習を毎回の授業で行う。グループワーク・手話スピーチ・手話会話を反復学習し、半期の授業で手話検定5級の試験出題範囲まで終了する予定（受験は任意）。手話を用いた授業のため定員20名程度。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1. 幅広い教養やスキル	手話言語・聞こえない世界を学ぶことで、共生社会について考える。	異文化コミュニケーションを理解し、視野を広げて思考できる。
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	基本的な手話を習得し、日常会話ができるようになる。	職業現場で手話を用いる力が身につくことで、接客・対人援助等の場面で貢献できる。
汎用的な力		
1. DP4. 課題発見		なぜ手話が必要なのか、現状の課題に気づき、主体的に自分にできることを考えられる。
2. DP8. 意思疎通		手話を学ぶことで、意思疎通・コミュニケーションに関する知識を深め実践できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・その他(以下に概要を記述)

言語習得のために、シャドーイング、動画撮影、サマリートレーニング等を取り入れる予定。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

理解力確認テスト	40 %	：	授業内容の理解度を確認する小テスト及び手話表現理解力を確認する小テストを実施し、的確に示しているかを評価する。
授業内課題	30 %	：	授業内容を踏まえて、グループワークや振り返りシートを完成させている場合、調査や事例に自分の考察が示されていれば加点する。内容不十分な場合は減点する。
定期試験（発表）	30 %	：	手話言語によるスピーチとその内容に関する質疑応答の実技確認テストを実施し、的確に伝える力を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

手話奉仕員養成テキスト「手話を学ぼう 手話で話そう」
わたしたちの手話学習辞典(1)(2)
これで合格！2024全国手話検定試験
日本手話のしくみ練習帳

履修上の注意・備考・メッセージ

手話は見る言語であり、大人数での受講は困難なため、定員数（20名）を超えた場合は抽選受講になります。
また、本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加えて、毎回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習準備をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日の午後
場所： 研究室（西館5階）
備考・注意事項： sano-mi@g.osaka-seikei.ac.jp 学科・氏名を記入してご連絡ください。

授業計画

学修課題

授業外学修課題にか かかる目安の時間

授業計画	学修課題	授業外学修課題にか かかる目安の時間
第1回 手話言語に関する基礎知識 見る言葉の特徴である手話単語の構成要素等から、手話言語と音声言語の違いを学びます。 実技では、手話であいさつの会話ができるまでを身につけます。	あいさつの手話表現を復習し習得する。	4時間
第2回 手話と指文字、名前の表現 手話と指文字の成り立ちについて、その歴史を学びます。 実技では、自分の名前及び様々な名前の手話表現と指文字を覚えます。	名前の手話表現及び指文字を覚える。	4時間
第3回 聞こえないことへの理解と数字の表し方 聞こえなくて困ること、情報障害・コミュニケーション障害について考えます。 レポート課題①を提出。 実技では、数字の手話を使って、年月日、時刻、年齢、人数、金額等を表現します。	数字の表現を覚える。	4時間
第4回 聞こえない人の生活と人物・家族の手話表現 聞こえない家族の映像を見て、生活の工夫や違いについて理解します。 実技では、人や家族の手話表現を学びます。	人物、家族等の表現ができるまで練習。	4時間
第5回 コミュニケーションの方法と場所や交通手段の手話表現 聞こえないことや手話をテーマにした映画やドラマから、コミュニケーション方法について考えます。レポート課題② 場所を表す手話表現や交通手段についても手話で会話する実技演習をします。	手話で交通手段を発表できるよう練習。	4時間
第6回 手話の具体的表現～スポーツ・趣味など 手話言語の特徴である具体的表現を学びます。 手話の文法特徴から、スポーツや食べ物等の手話を覚えます。 趣味についての会話も行います。	趣味について手話で紹介できるよう練習。	4時間
第7回 感情表現と疑問詞について 自分の気持ちを表す手話表現を覚えて会話します。 ①好き・嫌い、苦手・得意、上手い・下手等 ②嬉しい・楽しい、悲しい、怖い、苦しいなど 疑問詞を使った会話演習も行います。	感情表現の手話を覚える。	4時間
第8回 職場でのコミュニケーションと仕事に関する手話表現 聞こえない人の就労におけるコミュニケーション問題について動画等により考えます。 実技演習では、仕事に関する手話を表現します。 レポート課題③	仕事に関する手話を覚える。	4時間
第9回 1日の生活の流れを手話で紹介 起床から就寝までの1日の生活を手話で紹介します。 また、「手話言語及び聞こえない人への理解」に関する確認筆記テスト①も実施します。	手話言語等に関する知識を復習。	4時間
第10回 疑問詞を使用した手話会話 疑問詞を使って今までの手話会話の総復習と指文字の活用トレーニングを実施します。 自己紹介の会話演習も行います。	指文字をマスターする。	4時間
第11回 手話表現スピーチと質疑応答 1人ずつ手話で自己紹介のスピーチをします。 その内容に基づいて、手話で質問をして、手話で答えます。 伝わる度合いで評価します（実技テスト）。	手話でスピーチ（原稿無し）ができるまで練習。	4時間
第12回 手話の時制表現と空間活用	手話で各種予定を紹介できるよう練習。	4時間

	<p>手話言語の特徴で文法でもある「空間活用」について学びます。 実技演習では、1週間から1カ月の予定を手話で紹介し ます。</p>		
第13回	<p>手話検定試験にチャレンジ</p> <p>手話検定の5級試験問題を使用して、学習します。 各自、現在の自分の手話理解力・表現力を振り返ります。</p>	<p>検定試験の過去出題問題を解く。</p>	<p>4時間</p>
第14回	<p>手話コミュニケーション学習のまとめ</p> <p>手話で質疑応答コミュニケーションゲームをします。 また、講師の手話スピーチをどの程度理解できるか、手話 理解力確認のための筆記テスト②を実施します。</p>	<p>手話表現を見て、理解できるよう学習。</p>	<p>4時間</p>

授業科目名	暮らしと金融				
担当教員名	福永 栄一				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

人生にはお金が必要です。この授業ではお金をどうやって確保しどのように使うかという計画を作成することを学びます。人生の全体を見据えて、自分の夢や人生での目標を実現するために、いつ・どれだけのお金が必要かを確認し、そのお金をどうやって確保するかを計画します。そのために、「ライフプランニングと資金計画」と「リスクマネジメント」を中心に、家計にかかわる金融、税制、保険、年金制度などについて詳しく学びます。国家検定制度での3級FP技能士合格レベルの理解度を学びの目標とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

人生におけるお金の運用に関する知識の修得

目標：

人生にどのようなリスクがあり、どれくらいのお金が必要かを理解できる。

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力

自分の人生をお金を中心に、リスクを加味して設計できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業での課題	45 %	:	授業で取り組んだ課題にたいして、指示に従って取り組んでいるか、授業の内容を正確に反映して行っているか、内容を理解しているかなどを評価します。
確認問題	30 %	:	確認問題にチャレンジします。そこまでの授業で学んだ知識や技術を修得できたか、知識と技術を応用する力が身についたかなどを評価します。
期末試験	25 %	:	授業全体を通じて学んだ知識や技術を修得できたか、知識と技術を応用する力が身についたかなどを評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
滝澤ななみ	・ みんなが欲しかった！FPの教科書3級	・ TAC出版	・ 2023 年

参考文献等

適宜、授業に必要な資料・問題を配布します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をします。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日 2 限目 (10:40-12:20)

場所： 研究室 (西館 5 階62)

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 ファイナンシャルプランニングの概要 人生の目標をかなえるための総合的な資金計画のことがファイナンシャル・プランニングです。家計にかかわる金融、税制、不動産、住宅ローン、保険、教育資金、年金制度などがファイナンシャル・プランニングに関係することを学びます。 ライフプランニングと資金計画を学びます。	授業内容についてノートにまとめます。キーワード：家計、金融、税制、不動産、住宅ローン、保険、教育資金、年金制度	4時間
第2回 ライフプランニングの手法 ライフイベントと3大必要資金、ファイナンシャルプランニングの手法、資金計画の係数などについて学びます。	授業内容についてノートにまとめます。キーワード：ライフイベント、ファイナンシャルプランニング、資金計画	4時間
第3回 ライフプラン策定上の資金計画 教育資金プランニング、住宅取得プランニング、老後資金プランニングについて学びます。	授業内容についてノートにまとめます。キーワード：教育資金、住宅取得、老後資金、プランニング	4時間
第4回 社会保険：基本 社会保険の種類、公的保険、健康保険、高額療養費などについて学びます。	授業内容についてノートにまとめます。キーワード：公的医療保険、健康保険、出産育児一時金	4時間
第5回 社会保険 国民健康保険、後期高齢者医療制度、退職者向け医療保険などについて学びます。	授業内容についてノートにまとめます。キーワード：国民健康保険、後期高齢者、退職者、任意継続	4時間
第6回 公的年金の全体像 年金制度の全体像、国民年金の全体像、公的年金の全体像などについて学びます。	授業内容についてノートにまとめます。キーワード：国民年金、公的年金、老齢給付	4時間
第7回 公的年金の給付：基礎年金 老齢給付、老齢基礎年金、受給資格、老齢基礎年金の年金額などについて学びます。 確認課題にチャレンジします。	課題でできなかったところを復習します。できなかったキーワードを書きだして再度ノートにまとめます。	4時間
第8回 公的年金の給付 老齢給付、老齢厚生年金、定額部分・報酬比例部分の年金額、受給要件などについて学びます。	授業内容についてノートにまとめます。キーワード：厚生年金、定額部分、受給要件、障害給付	4時間
第9回 企業年金、年金と税金、カード 企業年金、確定拠出年金、付加年金、公的年金等にかかる税金、クレジットカードなどについて学びます。	授業内容についてノートにまとめます。キーワード：企業年金、確定拠出年金、付加年金、クレジットカード、ローン	4時間
第10回 保険の基本 リスク、保険の原則、契約者等の保護、クーリングオフ制度、ソルベンシー・マージン比率などについて学びます。	授業内容についてノートにまとめます。キーワード：リスク、生命保険、保険料、契約者	4時間
第11回 生命保険のしくみ 生命保険・保険料・配当金・のしくみ、契約手続きのポイント、保険料の払い込みなどについて学びます。	授業内容についてノートにまとめます。キーワード：保険料、配当金、契約、猶予期間	4時間
第12回 主な生命保険：定期保険 定期保険である平準定期保険、通減定期保険や終身保険、養老保険などについて学びます。	授業内容についてノートにまとめます。キーワード：平準、通減、通増、終身保険、養老保険	4時間
第13回 主な生命保険：特約付き保険など 定期保険特約付終身保険、団体保険、変額保険、こども保険などについて学びます。	授業内容についてノートにまとめます。キーワード：特約、団体保険、変額保険、こども保険	4時間

第14回

損害保険、第三分野の保険

損害保険料のしくみ、火災保険、地震保険、自動車保険、医療保険などについて学びます。確認課題にチャレンジします。

課題でできなかったところを復習します。できなかったキーワードを書きだして再度ノートにまとめます。

4時間

授業科目名	人権と社会				
担当教員名	榎井 縁				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義（遠隔）				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

民主主義社会は何よりも人権重視の社会でなければならないが、十分実現されていないのが現実である。こうした現状を少しでも変えていくためには、個人として社会としての「人権」への十分な認識を持つことが大切である。本講義では、社会思想や歴史的な観点から人類にとての人権の基本的認識を得た上で、現代社会の国際人権から、マイノリティ人権をはじめとする具体的人権問題についてグローバル（グローバル/ローカル）な視点で考え、自分事として捉えられるようにする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

「人権」とは何かを歴史的な文脈を踏まえて理解できる。国際人権の中で擁護されている「マイノリティの人権」を理解できる。

目標：

「人権」を歴史を踏まえた上で、国際的な視点から捉えることができる

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP6. 行動・実践

「人権」とは何かを歴史的な文脈を踏まえて理解できる。国際人権の中で擁護されている「マイノリティの人権」を理解できる。

「人権」を歴史を踏まえた上で、国際的な視点から捉えることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）
- ・ eラーニング、反転授業
- ・ 課題解決学習（PBL）

ワークシートによる小テスト（および次回の課題としての不正解問題の練習）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。遠隔授業なので課題の期限内提出をもって出席の扱いとする。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わず「不可」とする。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の課題の提出

： 授業内容について理解しているか、また自分自身の問題として理解を深めようとしているか、毎回の課題について出席と共にその理解度について評価する。

70 %

最終レポートの提出

： 授業終了後に自分で課題を選択して最終レポートとして提出されたものを評価する。

30 %

使用教科書

指定する

著者

横藤田誠・中坂恵美子

タイトル

・ 人権入門 憲法／人権／マイノリティ

出版社

・ 法律文化社

出版年

・ 2021 年

参考文献等

人権の精神と差別・貧困 内野正幸 明石書店
 現代社会と人権 安部頼孝 梓出版社
 地球市民の人権教育 肥下彰男 阿久澤麻理子 解放出版社
 よくわかる国際社会学 樽本英樹 ミネルヴァ書房
 レインズム・スタディーズ序説 鶴飼哲ほか 以文社。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 随時
 場所： メールにて
 備考・注意事項： classroomを使用してやりとりします

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 授業ガイダンス・オリエンテーション 授業のテーマ、到達目標を知ると同時に授業を受けるにあたっての姿勢、注意などを理解する	シラバスを熟読し、教科書全体に何が書かれているかを把握してくる	4時間
第2回 「人権」に関する意識の共有 自分がこれまで学んできた「人権」について振り返ってみると同時に、他の人が学んできた「人権」について聞き、その共通点と相違点について整理する	各人が今まで学校教育その他の体験を通して自分の中で培われてきた「人権」を振り返る	4時間
第3回 民主主義の原理と人権思想の発展①立憲主義の思想 ヨーロッパ市民社会の誕生の中で生まれてきた人権思想について歴史的に学ぶ	テキスト第1講を熟読する。イギリスのホブズ、ロックとフランスのルソーの社会契約説について、調べる	4時間
第4回 民主主義の原理と人権思想の発展②自由権から社会権への発展 国家権力に対して生まれた人権の歴史が自由権から社会権へと発展していった過程について学ぶ	配付資料の第1章を熟読する。資本主義の発展の中で生まれてきた社会権（生存権）について、調べる	4時間
第5回 日本における人権の歴史①明治憲法の内実 明治以降、日本の近代化の中で大日本帝国憲法がどのように成立したのかを歴史的に学ぶ	テキスト第2講を熟読してくる。日本における明治以降の自由民権運動から大日本帝国憲法時代まで人権の流れについて、調べる	4時間
第6回 日本における人権の歴史②昭和前期の超国家主義 日本が戦争突入する中で、明治憲法成立過程の思想が利用されたことや「抑圧の移譲」が起きていたことなどを学ぶ	配付資料の第3章を熟読する。戦争を加速させていくような法が次々と成立していった過程について調べる	4時間
第7回 日本国憲法の誕生・国際人権の誕生とその影 敗戦後の日本で目指された2つのD (Demilitarization, Democratization)の中で二歩国憲法が基本的人権をどのように定めたのかを知らるとともに、日本の民主化から取り残された地域の現代につながる課題についても学ぶ	テキスト第2講を熟読する。沖縄における米軍基地問題に関して調べてくる	4時間
第8回 世界人権宣言 国際人権保障について学び、世界人権宣言の内容とその意義について理解する	テキスト第4講を熟読する。世界人権宣言の内容について調べる	4時間
第9回 女と男：セックスとジェンダーをめぐる人権 女性の権利に関する歴史の変遷とジェンダーについて、また性の多様性について理解する	テキスト第11講を熟読する。性の多様性の内容について調べてくる	4時間
第10回 子どもの権利 子どもの権利条約の内容を理解し、現代社会における権利の主体としての子どもについてどのような課題があるかを考える	テキスト第12講を熟読する。子どもの権利条約を読み、子どもの権利と関係するようなニュース（記事）をピックアップしてくる	4時間
第11回 障害者権利宣言（nothing about us without us!） 障害者差別、障害者の権利宣言について学ぶ。特にnothing about us without usというスローガンが出された経緯について知る	テキスト第13講を熟読する。障害者の権利宣言の内容について調べてみる。	4時間
第12回 障がい者の権利について考える マスメディアにとりあげられる障害者について、当事者側からの視点を入れ批判的に読み解いてみる（動画のテキストから）	マスメディアに登場する障害者（ドキュメンタリーやドラマ、映画など）にどのような傾向があるのか調べてみる	4時間
第13回 人種差別と日本	人種差別撤廃条約の成立の経緯と、その内容について調べる	4時間

	人種差別撤廃条約の内容を理解し、世界で起きている移民排斥や日本でのヘイトスピーチと人権について考える		
第14回	わたしにとっての BLACK LIVES MATTER BLACK LIVES MATTER を通して、人類が直面している人種差別の根源を考える。また、自分との関係を振り返ってみる	BLACKLIVESMATTERについて自分なりに調べてみる	4時間

授業科目名	社会学概論				
担当教員名	西 徳宏				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義（遠隔）				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この授業では、社会学の基礎概念や独特の「社会的なものの方」について理解することを目的とし、他の社会諸科学との理論的学問的特徴の違いを明らかにする。具体的には、社会学の基礎概念を体系的に習得するため、家族、地域、職場・労働・社会集団などで具体的なテーマを取り上げ、関連づけて解説する。社会学の基礎理論を学ことで、身の回りに起こっている様々な社会現象を読み解く具体的な基礎知識を習得することが目標である。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

グローバル化する現代社会の諸問題を理解し、理論と知識を持ってその解決に向けて自ら考え、取り組む姿勢を身につけている。

目標：

社会学の基礎理論について、それが誕生した時代背景も踏まえ理解している。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

身近な社会問題への感受性を高めるとともに、論理的な思考力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回の授業を視聴すること。毎回の提出が確認できない場合は、出席放棄とみなし、成績評価を不可とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業中のリアクションペーパー

評価の基準

： 授業の内容について基本的な事柄を理解することができている。自分の意見について言及している。

50 %

定期試験（筆記試験）

： これまでの授業で得た知識を応用して、自らの主張を展開し、適切に論述することができている。

50 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学習が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その会の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
また、本科目はオンデマンドによる授業配信のため、自律的な学修姿勢が求められることを理解すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 指定なし

場所： オンライン

備考・注意事項： オフィスアワーの利用、もしくは授業外で質問をしたい場合はメールで連絡を取り、面談時間を予約すること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション 社会学とは 社会学とはいかなる学問なのかを紹介し、各回の授業のテーマとその概要、授業の目標、方法、成績評価などについて説明する。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第2回 社会学の誕生 コント 社会学は近代社会の成立とともに生まれた新しい学問である。第2回講義では、それまで空気のような「当たり前」の存在であった「社会」に関心が向けられ、学問としての構想が練られていった背景を理解すべく、オーギュスト・コントに着目する。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第3回 社会と個人の関係をどう見るか1 デュルケム 目に見えない「社会」をどのようにとらえたらいいのだろうか。ここではのちの社会学に大きな影響力を与えた学者のうち、デュルケムに着目し、その方法論について学ぶ。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第4回 社会と個人の関係をどう見るか ウェーバー 目に見えない「社会」をどのようにとらえたらいいのだろうか。ここではのちの社会学に大きな影響力を与えた学者のうち、ウェーバーに着目し、その方法論について学ぶ。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第5回 社会はどのように秩序立っているのか パーソズとマートン 1億二千万人が暮らす日本社会。これだけ多くの人々がある程度秩序だって生きる背景には、どのような社会的構造があるのか。この点を捉えるためにパーソズとマートンの理論を学んでいく。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第6回 資本主義社会とはどのような社会なのか マルクス 私たちが生きる資本主義社会にはどのような問題があるのか。マルクスの理論をもとに学ぶ。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第7回 監視カメラに囲まれた社会を考える フーコーの権力論 駅や商店街を歩くといたるところで目にする監視カメラ。使うことが当たり前になったポイントカードやICカード。ここでは人々が監視され、個人情報が管理される「当たり前」の社会を捉えなおすために、フーコーの権力論を学んでいく。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第8回 自分らしい生き方の背後にある選択原理 ブルデューの社会学 自分らしい服装や習い事、お金の使い方、音楽の趣味などは、自分一人で選んだ結果である。しかし、本当にそうなのか？ここではそういった常識的なもののみかたをくつがえすべく、ブルデューの社会学を学ぶ。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第9回 後期近代の理論 リスク社会 私たちが今生きている現代は、18世紀以降に訪れた近代社会が成熟し、進展した段階にある後期近代として位置づけられる。第9回から第10回では後期近代の理論を取り扱う。第9回では、ベックの議論を取り上げる。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第10回 後期近代の理論 個人化・液状化 第10回ではギデنزとバウマンの議論に基づきながら、現代社会におけるアイデンティティの特徴や、個人化が進展した結果生じる諸問題について学んでいく。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第11回 男として、女としての生きづらさを考える ジェンダー論 日本は「ジェンダー格差指数」では世界でも低位に位置づいており、世界の国々の中でもとりわけ男女間の格差が大きい国となっている。そしてこの格差はなかなか改善されないままに在る。ここではこうした日本社会を捉えなおす視覚を獲得すべく、ジェンダー論者の議論を摂取し、学んでいく。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第12回 国際社会とエスニシティ 近年、日本社会の国際化が急激に進んでいる。第11回では国際社会と多様化するエスニシティの現状をもとに、今後の日本社会がどのように変化していくのかを考えていく。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第13回 新たな社会の構築に向けて 市民社会を考える1 自分たちが暮らす社会をより良いものに変えていくことは可能なのか。第13回と第14回では新たな社会を紡ぎあげていく方法について学ぶ。	配布資料をもとに復習すること。	4時間
第14回 新たな社会の構築に向けて 市民社会を考える2 自分たちが暮らす社会をより良いものに変えていくことは可能なのか。第13回と第14回では新たな社会を紡ぎあげていく方法について学ぶ。また第1から第14までの講義内容をまとめ、総括を行う。そして現代社会を取り巻く様々な事象に対してこれまで学んだ理論の数々をどのように応用して理解していけるのかを考えていく。	配布資料をもとに復習すること。	4時間

授業科目名	人間と宗教				
担当教員名	森山 徹				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義（遠隔）				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	平成22年4月～平成30年3月 中学高等学校にて「宗教科」教員として指導				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

世界にはいろいろな「宗教」があり、今もなお多くの人々を惹きつけている。それは時に苦しみの中にある人々の救いとなり、また権力と結びついて争いの原因ともなってきた。現代に生きる私たちもまた、信じるか否かに関わらず、すでに「宗教」と様々な形で関係し、否応なく巻き込まれている。本講義では、この「宗教」の基盤となっている各宗教の始祖たちの思想の断片に焦点を当て、それらを歴史的思想的に理解するだけでなく、「今」「ここ」に生きている「わたし」との関わりにおいて再解釈する。このような作業によって、一方で「宗教」が持つ力とそれを意識化する視点を獲得し、他方で授業に参加する一人ひとりが「わたし」を通して深く人間を理解する機会を提供することが本科目の目的である。

また、Google Classroomや毎回の授業へのコメント・シートを活用し、受講生の考えや疑問を共有・検討するアクティブラーニングもとり入れる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP10. 忠恕の心

具体的内容：

現存する世界の主要な宗教に関する知識を歴史的思想的に学ぶ。

諸宗教の中心思想を内面的に把握し、反省的に解釈する。

目標：

主要な宗教の特徴を理解し、説明することができる。

諸宗教の中心的思想を内面的に理解し、自己の経験と象徴的に結びつけることができる。

宗教的知識や思想を深く理解し、検討できる。

倫理的・道徳的価値観を深め、広げることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・ 問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

毎回の小レポート

評価の基準

： 内容の妥当性・論理性・説得性について独自のルーブリックに基づいて5段階で評価します。

50 %

学期末レポート

： 内容の妥当性・論理性・説得性について独自のルーブリックに基づいて評価します。

50 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・ リチャード・ホロウェイ 『若い読者のための宗教史』 上杉隼人・片桐恵理訳、イェール大学出版局、2016年。
- その他の参考文献については、適宜授業時に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、授業および授業外学修時間（毎回約4時間）が、合計90時間求められる。それなので、授業外での学修課題に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかか る目安の時間
第1回 ガイダンスとイントロダクション 「人間と宗教」について <ul style="list-style-type: none"> ・授業の目的、課題、評価、注意点等を説明 ・「宗教」の様々な側面を「人間」との関係から概観 ・「宗教[religion]」の語源となっている「再び結びつける」という意味を「わたし」という視点から解釈 ・授業内容を的確に理解し、自分の考えと経験を反省的に書き起こす 	授業内容の主題を反芻し、その視点から折に触れて反省的に自己の経験を再解釈する。・その際に生まれた視点やアイデアや疑問をノートにまとめ、コメントやレポート作成時に活用する。	4時間
第2回 わたしとガウタマ・シッタールタ 「苦しみ」について <ul style="list-style-type: none"> ・授業のコメントを共有、前回の補足や質問への応答 ・授業の目的、課題、評価、注意点等を再度説明 ・シッタールタが誕生した地理的歴史的状况を確認 ・シッタールタの前半生を概観 ・四門出遊の出来事とその解説 ・「苦しみ」の個性性と普遍性に焦点を当てて解釈 ・授業内容を的確に理解し、自分の考えと経験を反省的に書き起こす 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の主題を反芻し、その視点から折に触れて反省的に自己の経験を再解釈する。・その際に生まれた視点やアイデアや疑問をノートにまとめ、コメントやレポート作成時に活用する。 	4時間
第3回 わたしとガウタマ・シッタールタ 「つながり」について <ul style="list-style-type: none"> ・授業のコメントを共有、前回の補足や質問への応答 ・シッタールタの後半生1を概観 ・悟りの出来事とその後の歩みについて解説 ・「縁起」を解釈 ・授業内容を的確に理解し、自分の考えと経験を反省的に書き起こす 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の主題を反芻し、その視点から折に触れて反省的に自己の経験を再解釈する。・その際に生まれた視点やアイデアや疑問をノートにまとめ、コメントやレポート作成時に活用する。 	4時間
第4回 わたしと孔子 「天命」について <ul style="list-style-type: none"> ・授業のコメントを共有、前回の補足や質問への応答 ・孔子が生まれた地理的歴史的状况を確認 ・孔子の前半生を概観 ・大司寇失脚の出来事とその解説 ・「五十にして天命を知る」という語の解釈 ・授業内容を的確に理解し、自分の考えと経験を反省的に書き起こす 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の主題を反芻し、その視点から折に触れて反省的に自己の経験を再解釈する。・その際に生まれた視点やアイデアや疑問をノートにまとめ、コメントやレポート作成時に活用する。 	4時間
第5回 わたしと孔子 「仁と礼」について <ul style="list-style-type: none"> ・授業のコメントを共有、前回の補足や質問への応答 ・孔子の後半生および死後を概観 ・礼と仁、および徳治主義の解説 ・「礼と仁」の解釈 ・授業内容を的確に理解し、自分の考えと経験を反省的に書き起こす 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の主題を反芻し、その視点から折に触れて反省的に自己の経験を再解釈する。・その際に生まれた視点やアイデアや疑問をノートにまとめ、コメントやレポート作成時に活用する。 	4時間
第6回 わたしとソクラテス 「自分を知ること」について <ul style="list-style-type: none"> ・授業のコメントを共有、前回の補足や質問への応答 ・ソクラテスが生まれた地理的歴史的状况を確認 ・ソクラテスの前半生を概観 ・デルフォイの神託の出来事とその解説 ・「汝自身を知れ」という語の解釈 ・授業内容を的確に理解し、自分の考えと経験を反省的に書き起こす 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の主題を反芻し、その視点から折に触れて反省的に自己の経験を再解釈する。・その際に生まれた視点やアイデアや疑問をノートにまとめ、コメントやレポート作成時に活用する。 	4時間
第7回 わたしとソクラテス 「法と正義」について <ul style="list-style-type: none"> ・授業のコメントを共有、前回の補足や質問への応答 ・ソクラテスの後半生を概観 ・ソクラテスの裁判の解説 ・「法と正義」の解釈 ・授業内容を的確に理解し、自分の考えと経験を反省的に書き起こす 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の主題を反芻し、その視点から折に触れて反省的に自己の経験を再解釈する。・その際に生まれた視点やアイデアや疑問をノートにまとめ、コメントやレポート作成時に活用する。 	4時間
第8回 わたしとモーセ 「召命」について <ul style="list-style-type: none"> ・授業のコメントを共有、前回の補足や質問への応答 ・モーセが生まれた地理的歴史的状况を確認 ・モーセの前半生を概観 ・シナイ山での召命およびエジプトへの帰還の出来事とその解説 ・「召命」についての解釈 ・授業内容を的確に理解し、自分の考えと経験を反省的に書き起こす 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の主題を反芻し、その視点から折に触れて反省的に自己の経験を再解釈する。・その際に生まれた視点やアイデアや疑問をノートにまとめ、コメントやレポート作成時に活用する。 	4時間
第9回 わたしとモーセ 「律法」について	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の主題を反芻し、その視点から折に触れて反省的に自己の経験を再解釈する。・その際に生まれた視点やアイデアや疑問をノートにまとめ、コメントやレポート作成時に活用する。 	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のコメントを共有、前回の補足や質問への応答 ・モーセの後半生を概観 ・週エジプトおよびシナイ山での十戒授与の出来事とその解説 ・「律法」の解釈 ・授業内容を的確に理解し、自分の考えと経験を反省的に書き起こす 		
第10回	<p>わたしとイエス 「敵を愛すること」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のコメントを共有、前回の補足や質問への応答 ・イエスが生まれた地理的歴史的状况を確認 ・イエスの前半生を概観 ・律法学者や祭司たちとの論争の出来事とその解説 ・「敵を愛せ」という語の解釈 ・授業内容を的確に理解し、自分の考えと経験を反省的に書き起こす 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の主題を反芻し、その視点から折に触れて反省的に自己の経験を再解釈する。・その際に生まれた視点やアイデアや疑問をノートにまとめ、コメントやレポート作成時に活用する。 	4時間
第11回	<p>わたしとイエス 「ゆるし」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のコメントを共有、前回の補足や質問への応答 ・イエスの後半生を概観 ・十字架刑での死とイエスの復活を告げ始める弟子たちの解説 ・「ゆるし」についての解釈 ・授業内容を的確に理解し、自分の考えと経験を反省的に書き起こす 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の主題を反芻し、その視点から折に触れて反省的に自己の経験を再解釈する。・その際に生まれた視点やアイデアや疑問をノートにまとめ、コメントやレポート作成時に活用する。 	4時間
第12回	<p>わたしとムハンマド 「一なる神」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のコメントを共有、前回の補足や質問への応答 ・ムハンマドが生まれた地理的歴史的状况を確認 ・ムハンマドの前半生を概観 ・ムハンマドが受けた啓示の出来事とその解説 ・「一なる神」についての解釈 ・授業内容を的確に理解し、自分の考えと経験を反省的に書き起こす 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の主題を反芻し、その視点から折に触れて反省的に自己の経験を再解釈する。・その際に生まれた視点やアイデアや疑問をノートにまとめ、コメントやレポート作成時に活用する。 	4時間
第13回	<p>わたしとムハンマド 「平等」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のコメントを共有、前回の補足や質問への応答 ・ムハンマドの後半生を概観 ・ムハンマドの闘争と人々の改宗の出来事についての解説 ・「平等」についての解釈 ・授業内容を的確に理解し、自分の考えと経験を反省的に書き起こす 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の主題を反芻し、その視点から折に触れて反省的に自己の経験を再解釈する。・その際に生まれた視点やアイデアや疑問をノートにまとめ、コメントやレポート作成時に活用する。 	4時間
第14回	<p>わたしと現代 「グローバル社会で生きること」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のコメントを共有、前回の補足や質問への応答 ・私たちが生きる現代の状況を確認 ・グローバル社会と宗教との関わりについて解説 ・宗教を学ぶ意義について解釈 ・授業内容を的確に理解し、自分の考えと経験を反省的に書き起こす 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の主題を反芻し、その視点から折に触れて反省的に自己の経験を再解釈する。・その際に生まれた視点やアイデアや疑問をノートにまとめ、コメントやレポート作成時に活用する。 	4時間

授業科目名	日本国憲法				
担当教員名	小宮山 直子				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この授業では、まず日本国憲法の成立過程から学びます。そして、憲法の基礎的知識を条文や憲法判例を通して習得し、社会における多様な問題について、憲法の視点から、自分の力で考える能力を身につけることを目標とします。「憲法」「法」は難しいというイメージがあるかもしれませんが、授業では、できるだけ身近な素材を取りあげて検討していきます。授業を通して、憲法とわたしたちの日常生活との関わりについて、そして、憲法改正の問題について考える機会になります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

憲法の意義、日本における憲法の歴史、日本国憲法の内容・諸問題を条文や判例を通して学ぶ。

目標：

日本国憲法の基本原理及び基礎知識を修得し、社会を生きる力とする。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

わたしたちの日常生活と憲法との関係を理解し、社会における諸問題について自分の意見を述べることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験

： 全期間の内容を範囲とした試験を行う。憲法に関する基礎知識を理解している、その基礎知識を用いて提示された課題について自身の意見を含めて論述することができるかという観点を中心に評価します。

60 %

授業内レポート・小テスト

： 各授業の中間・最後に、授業内容に関する復習課題、もしくは小テストを行い、憲法に関する重要語句が理解できているかについて評価します。

40 %

使用教科書

指定する

著者

曾我部真裕

タイトル

・ スタディ憲法（第2版）（最新版）

出版社

・ 法律文化社

出版年

・ 2023 年

参考文献等

芦部信喜『憲法（第7版）』岩波書店
 駒村圭吾編『プレステップ憲法』弘文堂
 『別冊ジュリスト 憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』有斐閣
 『セレクト六法』岩波書店
 その他の文献については適宜授業内で提示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

新聞などの各メディアを通じて、多様な社会問題に関心をもつよう心がけましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後
 場所： 講義室
 備考・注意事項： 授業前後に講義室で質問に応じます。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 「憲法」とは？ 受講上の注意点などについて説明する。私たちの生活と「憲法」の関係を考えてみる。憲法を含む、日本法の全体構造および日本国憲法の構造を学習する。	今回の授業のポイントを確認・整理する。特に日本法全体における憲法の位置づけを確認する。次回授業に該当するテキストの部分を通読する。	4時間
第2回 「世界」「日本」の「憲法」の成立と歩み 欧米の「憲法」の歴史を概観する。「立憲主義」という言葉の意味を考える。日本において「憲法」はどのように誕生したのか？大日本帝国憲法の特徴とともに、日本国憲法の成立過程及び現在までの歩みを学ぶ。	今回の授業のポイントを確認・整理する。特に立憲主義の特徴について各自でまとめる。次回授業に該当するテキストの部分を通読する。	4時間
第3回 「日本国憲法」の基本方針・基本構造 日本国憲法の基本原理および基本構造（統治の基礎と人権の基礎）を確認する。日本国憲法における「天皇」制と国民主権。	今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：日本国憲法の基本構造、憲法の三大原理、個人の尊重、天皇制と国民主権、憲法改正。次回授業に該当するテキストの部分を通読する。	4時間
第4回 統治の基礎－1（国会） 国会の役割を中心に、日本の統治機構の基本について学ぶ。さらに三権分立の意義について検討する。	今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：国会の仕組、国会議員の特権、選挙など。次回授業に該当するテキストの部分を通読する。	4時間
第5回 統治の基礎－2（裁判所） 裁判・裁判所の仕組みを中心に考察する。違憲審査制を理解する	今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：最高裁判所と下級裁判所、違憲審査制、司法権の独立。次回授業に該当するテキストの部分を通読する。	4時間
第6回 憲法のもとに保障される人権とは？ 日本国憲法の人権規定の基本にある考え方を学ぶ。人権規定の種類・分類を学び、人権の意義と全体像を確認する。	今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：「人権」の歴史。次回授業に該当するテキストの部分を通読する。	4時間
第7回 信教の自由とは？ 自由権（1）——自由権とは？信仰する自由そして政教分離の原則の意義について考える。	今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：思想良心の自由、信教の自由、政教分離の原則。次回授業に該当するテキストの部分を通読する。	4時間
第8回 表現の自由が保障される理由は？ 自由権（2）——「表現活動」をめぐる判例や近年の動向を通して、表現の自由の重要性を検討する。	今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：自己実現、自己統治、知る権利。次回授業に該当するテキストの部分を通読する。	4時間
第9回 刑事手続き上の権利 適正手続の保障など、刑事手続に関する権利を検討する。裁判員制度の概要・諸問題を考える。	今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：刑事手続、被疑者・被告の権利、裁判員裁判。次回授業に該当するテキストの部分を通読する。	4時間
第10回 社会権 社会権——社会権の歴史を学ぶ。生存権の意義と、日本の貧困問題を考える。教育を受ける権利、労働者の権利。	今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：社会権の歴史、生存権、貧困、教育権の意義、労働者の権利、正規雇用と非正規雇用。次回授業に該当するテキストの部分を通読する。	4時間
第11回 法の下での平等 憲法上の「平等」の意味は？14条・24条をめぐる近年の重要判例を学びつつ、家族をめぐる法や諸問題（夫婦別姓、同性婚など）を憲法を通して検討する。ジェンダーと法。	今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：平等をめぐる重要判例（夫婦別姓、同性婚など）ジェンダー。次回授業に該当するテキストの部分を通読する。	4時間
第12回 自分のことはすべて自分で決められるのか？ 新しい人権と「自己決定権」について考えてみる。こどもの権利について検討する。	今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：新しい人権、自己決定権、重要判例。次回授業に該当するテキストの部分を通読する。	4時間

第13回	これまでの「平和」・これからの「平和」について考える	今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：「平和」と9条。次回授業に該当するテキストの部分を通読する。	4時間
	戦後から現在までの「9条」をめぐる様々な動向・多様な意見を確認し、今後の日本の「平和」と憲法の意義を考えてみる。		
第14回	憲法改正とは？改正をめぐる諸問題	今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：憲法改正、国民投票。これまでの授業内容を再度見直し、授業で取り上げた憲法に関する重要判例も確認する。	4時間
	憲法改正をめぐる動向と諸問題を検討する。これまでの講義内容全体を復習する。憲法の重要判例も再度確認する。		

授業科目名	文学と歴史				
担当教員名	白瀬 浩司				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

あなたは絵本が好きですか？ さほど好きではないですか？
 保育者をめざす人であっても、絵本そのものを《楽しむ対象や素材》というより、余った時間の埋め合わせや保育活動のための《つなぎのアイテム》と見ている人もいます。
 ようです。
 本科目では、絵本の歴史や絵本が各世代の読者に対して果たす役割について理解するとともに、選定した絵本を用いながら個々の絵本の物語世界を文字情報と絵画情報の双方を手がかりに読み解いていきます。絵本にこめられたメッセージをしっかりと受けとめられる読者（そして保育者）をめざしましょう。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

絵本の素材となった物語、あるいは現存する絵本に関する幅広い知識・教養を身につける。
 絵本・童話の特徴・形式や読み聞かせの技法について理解すること、対象作品を正しく読解すること。

目標：

物語絵本の歴史（西洋）、絵本の素材となった日本の物語の歴史について、大まかに文学史的な流れを理解する。

絵本・童話の物語世界を文字情報・絵画情報を手がかりに正しく読み取ることができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP6. 行動・実践

対象を正しく理解した上で、そこに内包される課題を見出すことができる。

理解した対象について、適切な形で伝達・表現することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がない場合、最終レポートの提出がない場合は放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業ワークシート	：	各回（11回）に提出するワークシートの記述内容により、よく理解できている＝3点、概ね理解できている＝2点、理解がやや不十分である＝1点とします。
30 %		
授業ワークシート（小レポート課題）	：	授業時に提出するワークシートのうち3回分を小レポートとし、提示された課題に関する記述内容と理解度により評価します。10点×3回
30 %		
受講態度	：	グループ報告、各回の授業への参加態度（発言・グループ討議）、課題への取り組み姿勢、授業資料ファイルの整理状況により、評価します。
10 %		
最終課題（定期試験）	：	課題に対する理解と、記述内容により評価します。なお、基本的な文章スキルにかかわる評価項目については、講義時に提示します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

※『ベーシック絵本入門』（ミネルヴァ書房、2013年）
 ※『はじめて学ぶ日本の絵本史』Ⅰ～Ⅲ巻（ミネルヴァ書房、2001～2002年）
 その他の文献については、適宜、授業時に紹介します。
 なお、14回の全体的な授業構成は基本的に動きませんが、事例として扱う絵本は最新情報を照会しつつ変更する場合のあることをご承知おきください。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業ワークシート」によって本時の授業の振り返りを行うとともに、次回の授業の予告を踏まえて予習に取り組むこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3限

場所： 西館（図書館横）5階研究室

備考・注意事項： その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：shirase@g.osaka-seikei.ac.jp）。なお、Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 絵本とは何か—基本概念と表現特性、西洋の絵本史概説 絵本に関する基本的な概念と、絵本の持つ表現特性について学びます。また、西洋の絵本の歴史について概説します。	配布資料を読み返すとともに、絵本の種類に関する小課題に取り組む。	4時間
第2回 絵本の種類—子どもにとっての絵本、日本の絵本史概説 絵本の種類について実物を見ながら確認する（絵だけの絵本、字だけの絵本も含む）とともに、子どもの成長・発達に絵本が果たす役割について概略を学びます。また、日本の絵本の歴史について概説します。	授業時の配布資料を読み返し、赤ちゃん絵本に関する小課題に取り組む。	4時間
第3回 乳児と絵本—赤ちゃん絵本を《見る》こと、《読む》こと 複数の絵本に目を通し、いわゆる（赤ちゃん絵本）が乳児の発達にいかに関わるのか、その特徴について理解するとともに、保育現場でどのように活かしていくかを学びます。	講義資料を読み返すとともに、次回に扱う絵本に目を通しておく。	4時間
第4回 幼児と絵本、小中学生と絵本、大人と絵本 複数の絵本に目を通し、子ども（幼児・児童・生徒）から大人にとっての絵本との出会いについて学びます。病院の院内学級、グループケアや終末期医療の現場での絵本の読み聞かせ実践の事例にも触れていきます。	配布資料を読み返すとともに、昔話絵本に関する小課題に取り組む。	4時間
第5回 昔話絵本を《読む》 日本の昔話を題材にした絵本を取り上げ、その概要を理解するとともに、中世に書かれて近世に出版された昔話絵本の翻字・解説をしていきます。江戸期の絵本は、いわゆる変体仮名で書かれていますので、文化的な歴史の姿に触れることにもなります。	講義時の配布資料で復習をするともに、絵本『にゃーご』を事前に読んでおく。	4時間
第6回 絵本に込められたメッセージを《読む》—基礎篇・事例研究①『にゃーご』 絵本『にゃーご』（宮西達也）を事例として取り上げ、文字情報・絵画情報を確認しながらペア作業・個人作業を行い、同絵本に込められたメッセージを読み解いていきます。	配布資料で復習をするともに、絵本『だいじょうぶ だいじょうぶ』を事前に読んでおく。	4時間
第7回 絵本に込められたメッセージを《読む》—基礎篇・事例研究②『だいじょうぶ だいじょうぶ』 絵本『だいじょうぶ だいじょうぶ』（いとうひろし）を事例として取り上げ、文字情報・絵画情報を確認しながらペア作業・個人作業を行い、同絵本に込められたメッセージを読み解いていきます。	講義時の配布資料で復習をおこない、絵本『手ぶくろを買いに』を事前に読んでおく。	4時間
第8回 絵本に込められたメッセージを《読む》—基礎篇・事例研究③『手ぶくろを買いに』 絵本『手ぶくろを買いに』（新美南吉）を事例として取り上げ、文字情報・絵画情報を確認しながらペア作業・個人作業を行い、同絵本に込められたメッセージを読み解いていきます。	配布資料を読み返し、絵本『ぐるんぱのようちえん』に目を通す。	4時間
第9回 映像化された絵本作品を《読む》—事例研究①『ぐるんぱのようちえん』 絵本を原作としていても、それが映像作品となった場合、読者・視聴者の受ける印象は異なる場合があります。映像メディアによる表現の特色と、それに照らしつつ、改めて絵本の特質を捉え返していきます。今回は『ぐるんぱのようちえん』（西内ミナミ・文／堀内誠一・絵）の絵本作品と映像作品を対象として検討します。	講義時の配布資料で復習をおこない、絵本『はらべこあおむし』に目を通す。	4時間
第10回 映像化された絵本作品を《読む》—事例研究②『はらべこあおむし』	配布資料を読み返すとともに、絵本『おまえうま そうだな』に目を通す。	4時間

	<p>絵本を原作としていても、それが映像作品となった場合、読者・視聴者の受ける印象は異なる場合があります。映像メディアによる表現の特色と、それに照らしつつ、改めて絵本の特質を捉え返していきます。今回は『はらぺこあおむし』（エリック=カール・作/もりひさし・訳）の絵本作品と映像作品を対象として検討します。</p>		
第11回	<p>映像化された絵本作品を《読む》—事例研究③『おまえうまそうだな』</p> <p>絵本を原作としていても、それが映像作品となった場合、読者・視聴者の受ける印象は異なる場合があります。映像メディアによる表現の特色と、それに照らしつつ、改めて絵本の特質を捉え返していきます。今回は『おまえうまそうだな』（宮西達也）の絵本作品と映像作品を対象として検討します。</p>	授業時の配布資料を読み返し、絵本『ことりをすきになった山』に目を通す。	4時間
第12回	<p>絵本に込められたメッセージを《読む》—応用篇・演習①『ことりをすきになった山』</p> <p>文字情報と絵画情報によって紡ぎ出される物語世界を捉え、作品にこめられたメッセージを一人ひとりが自力で読み解く演習を行います。今回は『ことりをすきになった山』（アリス=マクレーラン・作/エリック=カール・絵/ゆあさふみえ・訳）を対象として取り上げます。</p>	配布資料を読み返すとともに、絵本『せかいいち うつくしい ぼくの村』に目を通す。	4時間
第13回	<p>絵本に込められたメッセージを《読む》—応用篇・演習②『せかいいち うつくしい ぼくの村』</p> <p>文字情報と絵画情報によって紡ぎ出される物語世界を捉え、作品にこめられたメッセージを一人ひとりが自力で読み解く演習を行います。今回は『せかいいち うつくしい ぼくの村』（小林豊）を対象として取り上げます。</p>	配布資料を読み返し、絵本『おじさんのかさ』に目を通す。	4時間
第14回	<p>現代を生きる私たちは絵本といかに関わるか—応用篇・演習③『おじさんのかさ』</p> <p>文字情報と絵画情報によって紡ぎ出される物語世界を捉え、作品にこめられたメッセージを一人ひとりが自力で読み解く演習を行います。今回は『おじさんのかさ』（佐野洋子）を対象として取り上げます。また、授業全体をふり返りつつ、絵本の歴史や、現代における私たちと絵本との関わりについてまとめていきます。</p>	ファイリングした配布資料を用いて半期の授業の振り返りを行い、最終課題（定期試験）に備える。	4時間

授業科目名	心理学概論				
担当教員名	水谷 聡秀				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義（遠隔）				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公益財団法人の研究センターでデータ分析の業務委託を請け負う（第1回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

心理学入門として、心のしくみについて基礎的な内容を学びます。身体を動かすこと、見たり聞いたりすること、ものをつくったり考えたりすること、人と関わること。私たちが日常の中で行っていることなみについてその基礎となる心理メカニズムを学びます。また、生を受けて誕生し、子供から大人になって、老いていき、死を迎えるという、人の一生を視野に入れて、人が人と関わり、自分を育てていく、その心理メカニズムの基礎も学びます。
なお、Google Classroomで授業を行い、原則的に毎回ウェブ上で小レポートを記入してもらい、意見の共有などを行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1. 幅広い教養やスキル	心理学の幅広い領域から学ぶ。	心理学の知識を問われときには答えられ、日常や社会にどのように応用できるか述べることができる。
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	心理学の中心的領域の概要と基礎理論を学ぶ。	心理学の中心的領域の概要と基礎理論を学んだことについて問われた場合には正確に答えることができる。
汎用的な力		
1. DP4. 課題発見		日常や社会（家族、地域、企業、芸術、国際関係など）の生活（人間関係、仕事の効率化、教育など）に関連づけて述べられる。
2. DP8. 意思疎通		授業で学んだことを分かりやすく説明できる。
3. DP10. 忠恕の心		日常や社会の生活において徳（愛情、親切、向上心、知恵など）が備わるよう適切に努力できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）
- ・eラーニング、反転授業
- ・ディベート、討論
- ・その他（以下に概要を記述）
 - ・調査、アセスメントなどを実施して測定を体験をする。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他（以下に概要を記述）
 - 提出後の授業で、全体的な傾向あるいは特定の学生の小レポート等を取り上げてコメントする。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席（参加）すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とする。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

振り返り・小レポート提出	42 %	：	毎回、小レポート等を記述して時間内、あるいは期日までに提出したもので評価する。
小テスト（電子上）	48 %	：	心理学の基礎知識と応用力で判断する。
期末テスト（レポート提出）		：	授業で学んだこと活かして十分に論じていることができていくかで判断する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
サトウタツヤ・渡邊芳之	・心理学・入門 - 心理学はこんなに面白い 改訂版	・有斐閣	・2019 年

参考文献等

鈴木 直人(監修) 『心理学概論 第2版』 ナカニシヤ出版、2014年。
その他の参考文献については必要に応じて授業中に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業時間の前後
場所： Google Classroom

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション・心へのアプローチ 授業の進め方などを確認し、心理学では心がどのように研究されているかを学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、心へのアプローチについて予習・復習する。	4時間
第2回 知覚のしくみ (1) 目でものを見ること 恒常性、立体視、錯視などの現象に加えて、網膜や脳から解明されつつある視覚機能を学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、視覚について予習・復習する。	4時間
第3回 知覚のしくみ (2) 味わうということ 音の高さや大きさ、味の知覚などの視覚以外の知覚機能について幅広く学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、視覚以外の知覚について予習・復習する。	4時間
第4回 認知 (1) 身体と認知 身体感覚と運動、アフォーダンス、表情などについて学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、身体と認知について予習・復習する。	4時間
第5回 認知 (2) 記憶の仕組み 短期記憶、長期記憶、記憶の種類について学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、記憶の仕組みについて予習・復習する。	4時間
第6回 認知 (3) 思考の方法 認知バイアス、ヒューリスティックスについて学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、思考の方法について予習・復習する。	4時間
第7回 心理学の視点から自分を見つめる 自己認知 (自己概念、自尊心)、性格 (知能検査、性格検査、遺伝と環境) について学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、自己認知について予習・復習する。	4時間
第8回 発達 (1) 新生児期・乳児期 赤ちゃんが認識する顔、声、言葉の発達などについて学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、赤ちゃんの心について予習・復習する。	4時間
第9回 発達 (2) 幼児期・児童期 幼児や児童の言葉の発達、親子関係、友人関係について学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、幼児から児童の心について予習・復習する。	4時間
第10回 発達 (3) 青年期以降 青年期のアイデンティティ、高齢期の心理などについて学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、青年期以降の心について予習・復習する。	4時間
第11回 社会 (1) 社会の中での人をどのようにとらえるか 社会認知、集団、群衆について学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、社会認知や集団について予習・復習する。	4時間
第12回 社会 (2) 社会の中でコミュニケーション 非言語コミュニケーション、対人感情、援助行動、攻撃行動について学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、他者との相互作用について予習・復習する。	4時間
第13回 臨床 (1) 心の不調をどう理解するか 心の不調について検査や面談で診断が行われることや、さまざまな療法があることを学びます。	教科書や配布資料などを熟読し、心の不調について予習・復習する。	4時間
第14回 臨床 (2) 心についてみつめる	教科書や配布資料などを熟読し、臨床から心について予習・復習する。	4時間

精神分析学、マズローの欲求五段階説、ポジティブ心理学
などについて幅広く学びます。

授業科目名	文学と歴史				
担当教員名	浅野 法子				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

文学作品は作家の表現活動を形にしたものであるとともに、時代の産物でもあります。そこには社会情勢や文化土壌、作家の思想性が反映され、人類の歴史が凝縮されています。
本授業では、「子ども」をキーワードに日本の近現代の文学作品を読み解くことを試みます。文学に表象された社会背景や作家の自伝的要素を抽出し、文学にみる児童観の変遷も検証します。発表やグループワークやレポート作成の方法も学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

日本文学と歴史に関する幅広い教養を身につける。

目標：

文学作品を読み、歴史的背景がわかる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP8. 意思疎通

文学作品を分析できる。

グループで課題解決ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	20 %	：	ミニ発表の取り組みや、グループワークへの貢献度、授業態度などを総合的に評価します。
授業外課題	30 %	：	内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
提出物（振り返りシート）	30 %	：	毎回の授業で振り返りメモの提出を課します。授業内容を理解し、自分で考えられていれば、2ポイント（加点あり）、理解不足は1ポイント。
試験	20 %	：	内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3限

場所： 研究室（西館5階）

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 授業ガイダンス——自分史をまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方 ・発表の分担 ・自分史として年譜を作成する ・児童観のいろいろ 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第2回 はじめに：物語について 物語について、日本のもっとも古い物語とされる竹取物語を事例に考察する。 <ul style="list-style-type: none"> ・作品の背景 ・派生作品のいろいろ 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第3回 小川未明の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・年譜を読む ・作品講読：「金の輪」 ・発表者による分析発表 ・文学史での位置づけについて考える 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第4回 新美南吉の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・年譜を読む ・作品講読：「久助君の話」 ・発表者による分析発表 ・文学史での位置づけについて考える 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第5回 宮澤賢治の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・年譜を読む ・作品講読：「セロ弾きのゴーシュ」 ・発表者による分析発表 ・文学史での位置づけについて考える 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第6回 児童文学作品に描かれた子ども①松谷みよ子の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・年譜を読む ・作品講読：「ちいさいモモちゃん」 ・発表者による分析発表 ・文学史での位置づけについて考える 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第7回 児童文学作品に描かれた子ども②那須正幹の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・年譜を読む ・作品講読：「ズッコケ三人組」 ・発表者による分析発表 ・文学史での位置づけについて考える 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第8回 児童文学作品に描かれた子ども③灰谷健次郎の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・年譜を読む ・作品講読：「兎の眼」 ・発表者による分析発表 ・文学史での位置づけについて考える 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第9回 児童文学作品に描かれた子ども④岡田淳の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・年譜を読む ・作品講読：「放課後の時間割」 ・発表者による分析発表 ・文学史での位置づけについて考える 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第10回 ヤングアダルト作品に描かれた子ども①森絵都の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・作品講読 ・発表者による分析発表 ・文学史での位置づけについて考える 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第11回 ヤングアダルト作品に描かれた子ども②上橋菜穂子の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・作品講読 ・発表者による分析発表 ・文学史での位置づけについて考える 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第12回 番外編①擬人化された動物の物語 <ul style="list-style-type: none"> ・作品講読 ・発表者による分析発表 ・文学史での位置づけについて考える 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間

第13回	番外編②絵本に描かれた子ども ・作品講読 ・発表者による分析発表 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第14回	番外編③アニメーションの中の子ども・まとめ ・作品講読 ・発表者による分析発表 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間

授業科目名	日本の食文化				
担当教員名	草尾 賀子				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

2013年4月に「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録され、欧米諸国から日本食・和食は健康によいと評価され、日本食レストランも流行しています。しかし、皆さんの食生活は本当に健康的と言えるでしょうか。この授業では、外国と日本の食事を比較することで、日本の食事の良さを理解し、将来において豊かで健康的な食生活を送ることができるように授業を進めていきます。これまで受けつられてきた日本の食事についての伝統や文化を知ります。「文化としての日本食」「食べる楽しみの日本食」「作る楽しみの日本食」を学び、今後の食生活を豊かなものにしてください。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

日常の食生活を振り返る機会を持ち、日本の伝統食や食事情を理解します。さらには、全ての人々が健康に過ごすためにどのように行動すべきかを考える力を養う。

目標：

基礎知識を習得し、自分自身の食生活が豊かで健康維持できるように設計すること、日本の食料自給率を向上させる行動を意識する。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP6. 行動・実践

自分の食生活を振り返り、改善すべきことを見出し、改善方法を考えることができる。

我が国の食事情を理解し、持続可能な社会のための食行動ができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の小レポート	：	毎回の授業開始時にプリントを配布します。授業内に必要事項を書き込み、授業のまとめを記入して、画像で提出します。 5点×14回×0.5=35点	35 %
授業外課題	：	授業外課題（行事食7点）、（郷土食8点）	15 %
定期試験	：	全授業の総まとめとしての100点満点の定期試験を実施し、50点に換算します。	50 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

フードコーディネーター教本3級テキスト2024／日本フードコーディネーター協会／柴田書店ISBN978-4388154586
12か月のしきたり／新谷尚紀／PHP研究所 ISBN978-4-569-69615-7

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業内課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日4限（15：00-16：40）

場所： フードコーディネーター研究室（本館3階）

備考・注意事項： 質問などは授業の前後に直接またはメールkusao@g.osaka-seikei.ac.jpにて受け付けます。
授業や会議以外の時間にはフードコーディネーター研究室にいますので、在室の場合は対応します。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 今日の朝ごはんから、日本の食事を考えましょう <ul style="list-style-type: none"> ・今朝の朝ごはん ・旅館の朝食に共通する食材 ・家庭の和朝食に共通する食材 ・家庭の洋朝食に共通する食材 ・朝食の役割 ・理想的な朝ごはんとは ・日本の朝食に使われる食材について 	次の週末までの7日間、朝食の献立を意識して、改善できたことをまとめます。	4時間
第2回 和食の献立構成と盛り付け、並べ方 <ul style="list-style-type: none"> ・和食の献立構成と組み合わせ ・陰陽五行 ・食材の旬について ・盛り付けと器使い ・料理の並べ方 	春の一汁三菜の献立を作成し、ラフスケッチして次回提出	4時間
第3回 日本の年中行事とその行事食・お菓子 <ul style="list-style-type: none"> ・年中行事とは ・正月料理とその意味 ・五節句のお祝い料理とその意味 ・その他の行事とその行事食・お菓子 	①今後大切にしたい行事食とは②お家の郷土料理をインタビューしてくることを、来週の授業開始時に記入	4時間
第4回 日本の郷土料理①—北海道～東海地方まで <ul style="list-style-type: none"> ・北海道：石狩鍋、ジンギスカン鍋 など ・東北：いものおづけばつと、わんこそば、きりたんぼ など ・関東：柳川鍋、ひしこ押し寿司 など ・信越：のっぺい汁、ぶり大根 など ・東海：みそ煮込みうどん、ぬまづ井 など 	お家の方に、郷土料理をインタビューしてきましょう。	4時間
第5回 日本の郷土料理を知りましょう②—近畿地方～沖縄まで <ul style="list-style-type: none"> ・近畿：鮎ずし、伊瀬うどん、三輪そうめん など ・中国：豆腐めし、わに刺し、ままかり など ・四国：たらいうどん、あん餅雑煮、宝楽焼き、皿鉢料理 など ・九州：白魚料理、卓袱料理、からし蓮根、さつまあげ など ・沖縄：カーサムーチャー、ラフテー など 	授業で深く取り上げなかった郷土料理について一つ選びその由来を調べましょう。	4時間
第6回 世界の三大宗教と食の関わり <ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教の行事と食事について ・キリスト教の行事と日本文化との関わり ・イスラム教と食事について ・仏教と食事について ・神仏への供物と私たちの食の関わり ・ヒンズー教と食事について 	1週間に小麦を使ったお料理やお菓子を食べたかを記録することが課題です。	4時間
第7回 米と小麦の食文化 <ul style="list-style-type: none"> ・米が、どのように日本で作られてきたか ・米の栄養的特徴 ・小麦が、どのように日本で作られてきたか ・米と小麦の違い ・パン発祥と歴史 ・食べてみたい米料理と小麦料理やお菓子について 	お家でよく食べる野菜をたくさん使った料理と食材を記録してきます。	4時間
第8回 身近な野菜の歴史と食文化 <ul style="list-style-type: none"> ・日常的に食べている野菜と日本の原産野菜 ・身近な野菜の花について ・京都の伝統野菜 ・大阪の伝統野菜 ・奈良の伝統野菜 ・他の地域の伝統野菜を解説します。 ・食べたい伝統野菜について 	1週間に大豆を使ったお料理やお菓子を食べたかを記録することが課題です。	4時間
第9回 大豆の食文化・豆の種類、栄養について	1週間に食べた魚料理を記録することが課題です。	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な豆の名前について ・食べている豆の加工品 ・豆の種類について ・大豆の伝来の歴史や種類について ・大豆の栄養的な特徴を理解 ・小豆の伝来の歴史や種類について ・世界の豆料理 ・食べたい豆料理やお菓子について 		
第10回	身近な魚介類の特徴と料理について <ul style="list-style-type: none"> ・魚の名前の漢字と切り身のクイズ ・養殖魚と天然魚 ・日本の近海魚の料理 ・漁業と魚肉料理の歴史を知ります。 ・旬の魚とその料理 ・世界の魚料理と日本の魚料理の違い ・藻類の調理方法 ・食べたい魚料理について 	1週間に飲んだお茶とお菓子の種類を記録することが課題です。	4時間
第11回	お茶の歴史と文化 <ul style="list-style-type: none"> ・日常に飲んでいるお茶の種類 ・茶葉の歴史について ・茶葉の生産方法と分類について ・日本茶の特徴と種類について ・日本茶の生産地と特徴 ・世界のお茶の製法とお茶の飲み方 ・飲みたいお茶について 	1週間に食べた外食の回数を記録することが課題です。	4時間
第12回	変化する日本の食事情 <ul style="list-style-type: none"> ・日本の家庭の食事の現状 ・日本の外食・中食産業の経年変化 ・日本と世界各国の冷凍食品利用状況 ・生鮮食品と加工食品（輸入食品を含む）の表示法について ・日本と世界各国の食料自給率について ・日本の食料自給率を向上させる工夫について考える。 ・今後の食事設計について 	1週間に食べた寿司の種類と回数を記録することが課題です。	4時間
第13回	魚の保存とすしの発展 <ul style="list-style-type: none"> ・魚の生食と保存性 ・食品に含まれる水の化学的特性を解説します。 ・食品の腐敗と微生物の特性を理解します。 ・代表的な食中毒や寄生虫症の特性 ・寿司の発祥から発展の歴史 ・今後の魚の生食について 	自身のお箸の使い方が間違っていないか、気にして過ごしましょう。	4時間
第14回	日本のおもてなし料理とマナー <ul style="list-style-type: none"> ・精進料理について ・懐石料理について ・会席料理について ・普茶料理、卓袱料理について ・日本料理のマナー 	定期試験に向けて、授業プリントを復習しておくこと	4時間

授業科目名	ホスピタリティー論				
担当教員名	米谷 徳恵				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	ブライダルコーディネーター及びホテルでの勤務を経験、現在は観光業はじめ医療、介護、理美容業において人的サービスにおけるコンサルティングを生業としている。ホテルマンや接客サービス最前線のスタッフ指導、リーダーシップ、管理職等の研修を行い、学生が今後就職を考える業種においてどのような人材が望まれているかを含め指導できる。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

サービス産業の事業経営の両輪は、ホスピタリティとマーケティングです。本講義では、その一つであるホスピタリティの本質を、実際に接客現場で経験する事例などを題材に理解を深めます。ホスピタリティは業界、業種、職種を問わず普遍的、かつ多様性(ダイバーシティ)を生かしながら社会で共生していくためのスキルでもあります。またグローバル社会をふまえ、和のおもてなしをベースにしたホスピタリティについても共に学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

ホスピタリティに関する基本知識
サービス業におけるサービス、マーケティング知識

目標：

コミュニケーション、接客の場面で、その知識を行動で実践できる。
サービスの理論を理解する事により、人的サービスの幅を広げることができる。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践
2. DP8. 意思疎通
3. DP10. 忠恕の心

学修したホスピタリティを学内学外を問わず実践できる。
協同学習や討論の中で、円滑なコミュニケーションを取ることができる。
ホスピタリティの学修と実践を通じて、心を共有できる人間に成長できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験	60 %	：	授業内容を良く理解できていること。基礎知識を用い、社会人になってからの自己目標を明確かつ前向きな取り組みの形で表現できているかという観点から評価する。
課題レポート	30 %	：	授業への取り組み度、理解度に加え、文章作成力の向上を評価します。
授業とグループワークへの参加度	10 %	：	受講意欲や講師の質問に対する回答、ワーク中の積極的な意見発表、リーダーシップを科目独自のルーブリックによって評価、配点します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献は授業の中で随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。
日々ホスピタリティを意識した生活を心がけ、学んだことを実践することにより、その理解力や観察力が研ぎ澄まされ、自己成長につながります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業のある教室

備考・注意事項： 質問は、kometani.n@ark.ocn.ne.jp に質問を送ってください。送る際には、タイトルに学績番号、氏名を明記し送信すること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション、ホスピタリティに関する基礎知識 講師紹介に続き、授業の進め方、学修内容、評価方法について確認。グループワークの後、ホスピタリティとは何か？講師より一つの習得の道筋を提示。4～5名のグループを作り、課題について討議し発表。 高い学修成果を上げるための目標の設定と管理の方法について学ぶ。	サービス現場の観察ポイントを決め、良い事例、悪い事例を収集し報告書を作成する。	4時間
第2回 ホスピタリティの原点を知る ホスピタリティの語源にさかのぼり、その本質を掴めるようホスピタリティの基本知識や事例について学ぶ。 欧米的発想と日本的発想の違いに触れながら、ホスピタリティの領域を学習する。	レポートにまとめる。	4時間
第3回 ホスピタリティとサービスの違い ホスピタリティとサービスの違いから、サービスについて学習する。 サービスの種類からホスピタリティの位置づけ、CS活動との関わりを考察する。	サービス現場事例の収集継続。サービスとホスピタリティの違いを調べ、今までの収集事例を分類してみる。	4時間
第4回 ホスピタリティとおもてなし おもてなしは日本におけるホスピタリティであるといった考え方が正しいのか、利休7則から本来のおもてなしとは何かを研究する。	次回授業内容におけるサービス現場事例の収集をする。	4時間
第5回 産業とホスピタリティ①ホテルなど宿泊業のホスピタリティ ホテルを中心とした宿泊業における事例を挙げて、その取り組みやホスピタリティについて学ぶ。ラグジュアリーホテル、シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテル、バジェットホテルなど種類に応じたホスピタリティがあることを学習する。	授業で学んだ内容をレポートにまとめる。次回授業内容におけるサービス現場事例の収集をする。	4時間
第6回 宿泊産業とホスピタリティ②日本旅館などのホスピタリティ 日本旅館など、宿泊産業における事例を挙げてその取り組みやホスピタリティについて研究する。「加賀屋」はじめ老舗旅館の事例をもとに、日本旅館ならではのホスピタリティ実践について学習する。	授業で学んだ内容をレポートにまとめる。次回授業内容におけるサービス現場事例の収集をする。	4時間
第7回 運輸業とホスピタリティ 運輸業には、鉄道、航空、船舶と観光産業には欠かせない業種である。それぞれが観光産業としてホスピタリティを利益にするための取り組みについて学習する。	授業で学んだ内容をレポートにまとめる。次回授業内容におけるサービス現場事例の収集をする。	4時間
第8回 テーマパークとホスピタリティ 「東京ディズニーリゾート」、「USJ」などのテーマパークやレジャーランドのホスピタリティに関して運営会社の取り組みなどを研究し学習する。	授業で学んだ内容をレポートにまとめる。次回授業内容におけるサービス現場事例の収集をする。	4時間
第9回 飲食業（レストラン、ファーストフード店）とホスピタリティ 町のレストランからマクドナルドのようなファーストフード店におけるホスピタリティを考える。ホスピタリティがマニュアル化されている進化する飲食業界についてアルバイト先としている学生もいることから、スタッフとしての視点なども含め相互交流を図り、学習を深める。	授業で学んだ内容をレポートにまとめる。次回授業内容におけるサービス現場事例の収集をする。	4時間
第10回 理美容業界とホスピタリティ 美容室に行かない学生はいない。顧客視点をもってどのようにお店選びをしているのかなど、理美容業界のホスピタリティを考察する。 プライダル業界とは関係が深いことから、これからのプライダルについても考察を深めていく。	授業で学んだ内容をレポートにまとめる。次回授業内容におけるサービス現場事例の収集をする。	4時間
第11回 医薬業とホスピタリティ	授業で学んだ内容をレポートにまとめる。次回授業内容におけるサービス現場事例の収集をする。	4時間

	ホスピタリティと同じ語源をもつホスピス、ホスピタルと学習してきた「ホスピタリティ」について現場でどのように実践されているのか、患者視点をもって考察する。		
第12回	<p>ホスピタリティとSDGsとの関連</p> <p>対人や接客に関する概念が変わってきている。サステイナブルな生活様式に即したおもてなしについて考察する。新しい宿泊形態や施設、新しい旅のスタイルの展開、AI時代のホスピタリティはどうなっていくのか等、グループワークの中でそれぞれの問題点や今後の課題について討論・整理し発表する。</p>	今後日本のサービス産業のホスピタリティはどうあるべきか	4時間
第13回	<p>ホスピタリティ実践のための主体を考える</p> <p>グループ毎に、自分たちの極めたいホスピタリティ、またその主体について考察し、次週の発表・プレゼンテーションに備えてグループワークを行う。</p>	自己の考えをまとめてレポートを作成する。	4時間
第14回	<p>総括としてのプレゼンテーション</p> <p>各グループでの提案と討議を整理し、プレゼンテーションを行う。コメントを適宜発表し意見交換し、ホスピタリティについて総括する。</p>	学生生活や就職活動、将来に生かせるよう、自身で今後のための目標を整理する。	4時間

授業科目名	キャリアベーシック				
担当教員名	田中 哲平				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

短大での2年間の学びをスムーズに始められるように、学びの基盤となるスキル・能力を身につけること、即ち情報収集力（「聞き取る力」「読み取る力」）、言語能力（「書く力」「話す力」）、構成能力（「伝える力」「プレゼンテーション能力」）の習得を目指します。さらに社会人の基礎となる共働力を持った人材を育てます。そのために、授業全般を通じて建学の精神である「桃李成蹊」と行動指針である「忠恕」やSDGsの観点を利用して授業を構成します

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

建学の精神をベースにした人間力、情報収集力、言語能力、構成能力、共働力を身につける。

目標：

2年間の学修の基礎を形成し、卒業へ向けた学びをスムーズに進めていけるようになる。

汎用的な力

1. DP10. 忠恕の心
2. DP4. 課題発見
3. DP5. 計画・立案力
4. DP9. 役割理解・連携行動
5. DP7. 完遂

相手を思いやり、礼儀、マナーなどの人間力をつける。

収集した資料から課題を発見できる。

収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる。

集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。

自分の担当カ箇所について指定の課題に従ってレポートを完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。毎回、学修内容に沿った授業内課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に夏休みの課題として「読書感想文」を課します。感想文の評価は引き続き受講するキャリアデザインにて評価いたします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業参加度	10 %	：	授業態度は、授業への取り組みや参加度を全14回の授業を通じて10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
発表（第13回）	10 %	：	第13回目の発表を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
課題（第1, 3, 7, 12, 14回）		：	計5回分の課題（授業時間外の事後課題）に対して、各回10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

論文課題（第10回）	50 %	:	論文課題に対して15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
定期試験	15 %	:	定期試験時に実施するレポート作成を15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
	15 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

毎回資料を配布いたします。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧な復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	主に木曜日
場所：	各授業担当者の研究室
備考・注意事項：	備考・注意事項：オフィスアワー以外の時間も受け付けますので、いつでも訪ねてください。しかし会議等で不在のこともあります。事前に予約指定いただけると確かです。

授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 キャリアベーシックとは何か 建学の精神・PBMP・LDC・言葉遣い教育・人間力（聞く話す読む書く協働する）など、授業の前提と目的を確認する。これからの短大の学び、ひいては社会での学びの基礎となるように多様な視点への気づき、言葉や文章についての理解を深める。	授業内容を振り返り、課題①に取り組む【課題①】自分のキャリアを考える	4時間
第2回 情報を言語化して伝える（文章力①） 特定の図形や画像や絵文字などを言葉で伝える演習を通して、詳細な言語化、伝達の順序、解釈の差異など、「文章力」の基礎基本を理解する。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第3回 レポート課題の基礎を知る（文章力②） 比較検討による情報源の選定、ファクトチェック、事実と意見の区別、引用ルールなど、情報収集の要点を知り、SDGsなどを利用しながらレポート課題の基礎を学ぶ。研究倫理教育についてもこの回に実施する。	授業内容を振り返り、課題②に取り組む【課題②】研究倫理教育実施後のレポート課題	4時間
第4回 メディア・リテラシーとは何か（情報収集力の基礎） さまざまなメディアによる情報があふれる中からの情報の収集にかかわる考えを学ぶ。また世界的に活躍するクリエイターなどの講演映像を視聴し、話の趣旨や意図を考察する。さらにグループディスカッションや調査を通して解釈を深め、「情報収集力」の総合的な演習とする。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第5回 社会の課題を調べる～SDGsとは～（情報収集・情報分析、考える力①） 社会が抱える課題を反映したSDGsへの理解を深めるため、成立の背景にある現状・課題について理解し、未来の社会を想像し、グループで話し合う。	授業内容を振り返り、SDGsへの理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第6回 社会の課題を調べる～SDGsを自分ゴトに～（情報収集・情報分析、考える力②） 世界の子供たちの直面する社会問題を理解し、社会の課題とSDGsの目標とのつながりを考え、自分たちにできることや自分の役割についてグループで話し合う	授業を振り返り、SDGsへの自分の関わり方について理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第7回 社会の課題を調べる～SDGs達成のためにできること～（情報収集・情報分析、考える力③） 自分と自分を取り巻く社会の課題について調べ、社会の課題とSDGsの目標とのつながりを考え、自分たちが身近なところでできることを考える	授業内容を振り返り、課題③に取り組む【課題③】私のアジェンダ2030	4時間
第8回 時事問題を調査する（書く力①） 各学科の専門性、各学生の興味関心に応じて、現代の時事問題を調査する。ワークシートに基づいて、概要の整理、専門家の見解の要約をおこなう。	授業を振り返り、現代の時事問題について理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第9回 時事問題を考察する（書く力②） 第8回で調べた時事問題について、調べた内容を基に自分の意見をまとめる。	前回の時事問題について調べた内容を基に、自分の意見をまとめ、ワークシートを完成させる	4時間
第10回 論文を作成する（書く力③）	授業内で作成した論文課題の内容を精査する	4時間

	第8、9回でまとめたワークシートをもとに、時事問題の論文を授業内で作成する。論文を作成することで、文章表現・構成、論理展開などを理解する「書く力」の総合的な演習とする。【論文課題】		
第11回	推薦図書を選定する（読む力①） 図書館で推薦図書を選定するために、興味のある本を3冊ほど選ぶ。その際に、図書館に置いている本の種類、データベースを使用した本の検索方法などを学ぶ。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第12回	推薦図書の書評カードを製作する（読む力②） 自身の選択した推薦図書について、内容を要約し、その魅力を伝える書評カードを製作することで、「読む力」の総合的な演習とする。	授業内容を振り返り、課題④に取り組む【課題④】書評カード	4時間
第13回	ビブリオ・バトル（読む力③） 作成した書評カードをもとに、本の魅力をグループでプレゼンテーションしあう「ビブリオ・バトル」を行う。クラス内で代表者を選出し、学内の本選へ推薦する。【発表】	ビブリオ・バトルを通して学んだことを、授業内メモを参考に、要点と自身の考えや意見をレポート用紙にまとめる。	4時間
第14回	専門家の講演を聞く 各学科の専門性に応じたゲストスピーカーを招いて、講演を聞く。講演のメモ、要約、調査などを通して、自分の意見や問いを考え、記述する。	授業内容を振り返り、課題⑤に取り組む【課題⑤】講演内容をまとめる	4時間

授業科目名	キャリアベーシック				
担当教員名	榎本 秀之・吉田 忍				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

短大での2年間の学びをスムーズに始められるように、学びの基盤となるスキル・能力を身につけること、即ち情報収集力（「聞き取る力」「読み取る力」）、言語能力（「書く力」「話す力」）、構成能力（「伝える力」「プレゼンテーション能力」）の習得を目指します。さらに社会人の基礎となる共働力を持った人材を育てます。そのために、授業全般を通じて建学の精神である「桃李成蹊」と行動指針である「忠恕」やSDGsの観点を利用して授業を構成します

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

建学の精神をベースにした人間力、情報収集力、言語能力、構成能力、共働力を身につける。

目標：

2年間の学修の基礎を形成し、卒業へ向けた学びをスムーズに進めていけるようになる。

汎用的な力

1. DP10. 忠恕の心
2. DP4. 課題発見
3. DP5. 計画・立案力
4. DP9. 役割理解・連携行動
5. DP7. 完遂

相手を思いやり、礼儀、マナーなどの人間力をつける。

収集した資料から課題を発見できる。

収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる。

集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。

自分の担当カ箇所について指定の課題に従ってレポートを完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。
 毎回、学修内容に沿った授業内課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に夏休みの課題として「読書感想文」を課します。感想文の評価は引き続き受講するキャリアデザインにて評価いたします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業参加度	10 %	：	授業態度は、授業への取り組みや参加度を全14回の授業を通じて10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
発表（第13回）	10 %	：	第13回目の発表を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
課題（第1, 3, 7, 12, 14回）		：	計5回分の課題（授業時間外の事後課題）に対して、各回10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

論文課題（第10回）	50 %	:	論文課題に対して15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
定期試験	15 %	:	定期試験時に実施するレポート作成を15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
	15 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

毎回資料を配布いたします。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	主に木曜日
場所：	各授業担当者の研究室
備考・注意事項：	備考・注意事項：オフィスアワー以外の時間でも受け付けますので、いつでも訪ねてください。しかし会議等で不在のこともあります。事前に予約指定いただけると確かです。

授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 キャリアベーシックとは何か 建学の精神・PBMP・LDC・言葉遣い教育・人間力（聞く話す読む書く協働する）など、授業の前提と目的を確認する。これからの短大の学び、ひいては社会での学びの基礎となるように多様な視点への気づき、言葉や文章についての理解を深める。	授業内容を振り返り、課題①に取り組む【課題①】自分のキャリアを考える	4時間
第2回 情報を言語化して伝える（文章力①） 特定の図形や画像や絵文字などを言葉で伝える演習を通して、詳細な言語化、伝達の順序、解釈の差異など、「文章力」の基礎基本を理解する。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第3回 レポート課題の基礎を知る（文章力②） 比較検討による情報源の選定、ファクトチェック、事実と意見の区別、引用ルールなど、情報収集の要点を知り、SDGsなどを利用しながらレポート課題の基礎を学ぶ。研究倫理教育についてもこの回に実施する。	授業内容を振り返り、課題②に取り組む【課題②】研究倫理教育実施後のレポート課題	4時間
第4回 メディア・リテラシーとは何か（情報収集力の基礎） さまざまなメディアによる情報があふれる中からの情報の収集にかかわる考えを学ぶ。また世界的に活躍するクリエイターなどの講演映像を視聴し、話の趣旨や意図を考察する。さらにグループディスカッションや調査を通して解釈を深め、「情報収集力」の総合的な演習とする。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第5回 社会の課題を調べる～SDGsとは～（情報収集・情報分析、考える力①） 社会が抱える課題を反映したSDGsへの理解を深めるため、成立の背景にある現状・課題について理解し、未来の社会を想像し、グループで話し合う。	授業内容を振り返り、SDGsへの理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第6回 社会の課題を調べる～SDGsを自分ゴトに～（情報収集・情報分析、考える力②） 世界の子供たちの直面する社会問題を理解し、社会の課題とSDGsの目標とのつながりを考え、自分たちにできることや自分の役割についてグループで話し合う	授業を振り返り、SDGsへの自分の関わり方について理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第7回 社会の課題を調べる～SDGs達成のためにできること～（情報収集・情報分析、考える力③） 自分と自分を取り巻く社会の課題について調べ、社会の課題とSDGsの目標とのつながりを考え、自分たちが身近なところでできることを考える	授業内容を振り返り、課題③に取り組む【課題③】私のアジェンダ2030	4時間
第8回 時事問題を調査する（書く力①） 各学科の専門性、各学生の興味関心に応じて、現代の時事問題を調査する。ワークシートに基づいて、概要の整理、専門家の見解の要約をおこなう。	授業を振り返り、現代の時事問題について理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第9回 時事問題を考察する（書く力②） 第8回で調べた時事問題について、調べた内容を基に自分の意見をまとめる。	前回の時事問題について調べた内容を基に、自分の意見をまとめ、ワークシートを完成させる	4時間
第10回 論文を作成する（書く力③）	授業内で作成した論文課題の内容を精査する	4時間

	第8、9回でまとめたワークシートをもとに、時事問題の論文を授業内で作成する。論文を作成することで、文章表現・構成、論理展開などを理解する「書く力」の総合的な演習とする。【論文課題】		
第11回	推薦図書を選定する（読む力①） 図書館で推薦図書を選定するために、興味のある本を3冊ほど選ぶ。その際に、図書館に置いている本の種類、データベースを使用した本の検索方法などを学ぶ。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第12回	推薦図書の書評カードを製作する（読む力②） 自身の選択した推薦図書について、内容を要約し、その魅力を伝える書評カードを製作することで、「読む力」の総合的な演習とする。	授業内容を振り返り、課題④に取り組む【課題④】書評カード	4時間
第13回	ビブリオ・バトル（読む力③） 作成した書評カードをもとに、本の魅力をグループでプレゼンテーションしあう「ビブリオ・バトル」を行う。クラス内で代表者を選出し、学内の本選へ推薦する。【発表】	ビブリオ・バトルを通して学んだことを、授業内メモを参考に、要点と自身の考えや意見をレポート用紙にまとめる。	4時間
第14回	専門家の講演を聞く 各学科の専門性に応じたゲストスピーカーを招いて、講演を聞く。講演のメモ、要約、調査などを通して、自分の意見や問いを考え、記述する。	授業内容を振り返り、課題⑤に取り組む【課題⑤】講演内容をまとめる	4時間

授業科目名	キャリアベーシック				
担当教員名	田原 彩				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

短大での2年間の学びをスムーズに始められるように、学びの基盤となるスキル・能力を身につけること、即ち情報収集力（「聞き取る力」「読み取る力」）、言語能力（「書く力」「話す力」）、構成能力（「伝える力」「プレゼンテーション能力」）の習得を目指します。さらに社会人の基礎となる共働力を持った人材を育てます。そのために、授業全般を通じて建学の精神である「桃李成蹊」と行動指針である「忠恕」やSDGsの観点を利用して授業を構成します

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

建学の精神をベースにした人間力、情報収集力、言語能力、構成能力、共働力を身につける。

目標：

2年間の学修の基礎を形成し、卒業へ向けた学びをスムーズに進めていけるようになる。

汎用的な力

1. DP10. 忠恕の心
2. DP4. 課題発見
3. DP5. 計画・立案力
4. DP9. 役割理解・連携行動
5. DP7. 完遂

相手を思いやり、礼儀、マナーなどの人間力をつける。

収集した資料から課題を発見できる。

収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる。

集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。

自分の担当カ箇所について指定の課題に従ってレポートを完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。毎回、学修内容に沿った授業内課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に夏休みの課題として「読書感想文」を課します。感想文の評価は引き続き受講するキャリアデザインにて評価いたします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業参加度	10 %	：	授業態度は、授業への取り組みや参加度を全14回の授業を通じて10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
発表（第13回）	10 %	：	第13回目の発表を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
課題（第1, 3, 7, 12, 14回）		：	計5回分の課題（授業時間外の事後課題）に対して、各回10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

論文課題（第10回）	50 %	:	論文課題に対して15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
定期試験	15 %	:	定期試験時に実施するレポート作成を15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
	15 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

毎回資料を配布いたします。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 草尾：月4 田原：金4 瀬川：金1

場所： 各授業担当者の研究室

備考・注意事項： 備考・注意事項：オフィスアワー以外の時間でも受け付けますので、いつでも訪ねてください。しかし会議等で不在のこともあります。事前に予約指定いただけると確かです。

授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 キャリアベーシックとは何か 建学の精神・PBMP・LDC・言葉遣い教育・人間力（聞く話す読む書く協働する）など、授業の前提と目的を確認する。これからの短大の学び、ひいては社会での学びの基礎となるように多様な視点への気づき、言葉や文章についての理解を深める。	授業内容を振り返り、課題①に取り組む【課題①】自分のキャリアを考える	4時間
第2回 情報を言語化して伝える（文章力①） 特定の図形や画像や絵文字などを言葉で伝える演習を通して、詳細な言語化、伝達の順序、解釈の差異など、「文章力」の基礎基本を理解する。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第3回 レポート課題の基礎を知る（文章力②） 比較検討による情報源の選定、ファクトチェック、事実と意見の区別、引用ルールなど、情報収集の要点を知り、SDGsなどを利用しながらレポート課題の基礎を学ぶ。研究倫理教育についてもこの回に実施する。	授業内容を振り返り、課題②に取り組む【課題②】研究倫理教育実施後のレポート課題	4時間
第4回 メディア・リテラシーとは何か（情報収集力の基礎） さまざまなメディアによる情報があふれる中からの情報の収集にかかわる考えを学ぶ。また世界的に活躍するクリエイターなどの講演映像を視聴し、話の趣旨や意図を考察する。さらにグループディスカッションや調査を通して解釈を深め、「情報収集力」の総合的な演習とする。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第5回 社会の課題を調べる～SDGsとは～（情報収集・情報分析、考える力①） 社会が抱える課題を反映したSDGsへの理解を深めるため、成立の背景にある現状・課題について理解し、未来の社会を想像し、グループで話し合う。	授業内容を振り返り、SDGsへの理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第6回 社会の課題を調べる～SDGsを自分ゴトに～（情報収集・情報分析、考える力②） 世界の子供たちの直面する社会問題を理解し、社会の課題とSDGsの目標とのつながりを考え、自分たちにできることや自分の役割についてグループで話し合う	授業を振り返り、SDGsへの自分の関わり方について理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第7回 社会の課題を調べる～SDGs達成のためにできること～（情報収集・情報分析、考える力③） 自分と自分を取り巻く社会の課題について調べ、社会の課題とSDGsの目標とのつながりを考え、自分たちが身近なところでできることを考える	授業内容を振り返り、課題③に取り組む【課題③】私のアジェンダ2030	4時間
第8回 時事問題を調査する（書く力①） 各学科の専門性、各学生の興味関心に応じて、現代の時事問題を調査する。ワークシートに基づいて、概要の整理、専門家の見解の要約をおこなう。	授業を振り返り、現代の時事問題について理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第9回 時事問題を考察する（書く力②） 第8回で調べた時事問題について、調べた内容を基に自分の意見をまとめる。	前回の時事問題について調べた内容を基に、自分の意見をまとめ、ワークシートを完成させる	4時間
第10回 論文を作成する（書く力③）	授業内で作成した論文課題の内容を精査する	4時間

	第8、9回でまとめたワークシートをもとに、時事問題の論文を授業内で作成する。論文を作成することで、文章表現・構成、論理展開などを理解する「書く力」の総合的な演習とする。【論文課題】		
第11回	推薦図書を選定する（読む力①） 図書館で推薦図書を選定するために、興味のある本を3冊ほど選ぶ。その際に、図書館に置いている本の種類、データベースを使用した本の検索方法などを学ぶ。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第12回	推薦図書の書評カードを製作する（読む力②） 自身の選択した推薦図書について、内容を要約し、その魅力を伝える書評カードを製作することで、「読む力」の総合的な演習とする。	授業内容を振り返り、課題④に取り組む【課題④】書評カード	4時間
第13回	ビブリオ・バトル（読む力③） 作成した書評カードをもとに、本の魅力をグループでプレゼンテーションしあう「ビブリオ・バトル」を行う。クラス内で代表者を選出し、学内の本選へ推薦する。【発表】	ビブリオ・バトルを通して学んだことを、授業内メモを参考に、要点と自身の考えや意見をレポート用紙にまとめる。	4時間
第14回	専門家の講演を聞く 各学科の専門性に応じたゲストスピーカーを招いて、講演を聞く。講演のメモ、要約、調査などを通して、自分の意見や問いを考え、記述する。	授業内容を振り返り、課題⑤に取り組む【課題⑤】講演内容をまとめる	4時間

授業科目名	キャリアベーシック				
担当教員名	平野 明日香				
学年・コース等	1回生 経営会計 コース・医療事務 コース	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

短大での2年間の学びをスムーズに始められるように、学びの基盤となるスキル・能力を身につけること、即ち情報収集力（「聞き取る力」「読み取る力」）、言語能力（「書く力」「話す力」）、構成能力（「伝える力」「プレゼンテーション能力」）の習得を目指します。さらに社会人の基礎となる共働力をを持った人材を育てます。そのために、授業全般を通じて建学の精神である「桃李成蹊」と行動指針である「忠恕」やSDGsの観点を利用して授業を構成します

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

建学の精神をベースにした人間力、情報収集力、言語能力、構成能力、共働力を身につける。

目標：

2年間の学修の基礎を形成し、卒業へ向けた学びをスムーズに進めていけるようになる。

汎用的な力

1. DP10. 忠恕の心
2. DP4. 課題発見
3. DP5. 計画・立案力
4. DP9. 役割理解・連携行動
5. DP7. 完遂

相手を思いやり、礼儀、マナーなどの人間力をつける。

収集した資料から課題を発見できる。

収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる。

集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。

自分の担当カ箇所について指定の課題に従ってレポートを完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。
毎回、学修内容に沿った授業内課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に夏休みの課題として「読書感想文」を課します。感想文の評価は引き続き受講するキャリアデザインにて評価いたします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業参加度	：	授業態度は、授業への取り組みや参加度を全14回の授業を通じて10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
10 %		
発表（第13回）	：	第13回目の発表を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
10 %		
課題（第1, 3, 7, 12, 14回）	：	計5回分の課題（授業時間外の事後課題）に対して、各回10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

論文課題（第10回）	50 %	:	論文課題に対して15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
定期試験	15 %	:	定期試験時に実施するレポート作成を15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
	15 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

毎回資料を配布いたします。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜日 2 限目（10:40-14:50）
場所：	各授業担当者の研究室
備考・注意事項：	備考・注意事項：オフィスアワー以外の時間も受け付けますので、いつでも訪ねてください。しかし会議等で不在のこともあります。事前に予約指定いただくと確かです。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 キャリアベーシックとは何か 建学の精神・PBMP・LDC・言葉遣い教育・人間力（聞く話す読む書く協働する）など、授業の前提と目的を確認する。これからの短大の学び、ひいては社会での学びの基礎となるように多様な視点への気づき、言葉や文章についての理解を深める。	授業内容を振り返り、課題①に取り組む【課題①】自分のキャリアを考える	4時間
第2回 情報を言語化して伝える（文章力①） 特定の図形や画像や絵文字などを言葉で伝える演習を通して、詳細な言語化、伝達の順序、解釈の差異など、「文章力」の基礎基本を理解する。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第3回 レポート課題の基礎を知る（文章力②） 比較検討による情報源の選定、ファクトチェック、事実と意見の区別、引用ルールなど、情報収集の要点を知り、SDGsなどを利用しながらレポート課題の基礎を学ぶ。研究倫理教育についてもこの回に実施する。	授業内容を振り返り、課題②に取り組む【課題②】研究倫理教育実施後のレポート課題	4時間
第4回 メディア・リテラシーとは何か（情報収集力の基礎） さまざまなメディアによる情報があふれる中からの情報の収集にかかわる考えを学ぶ。また世界的に活躍するクリエイターなどの講演映像を視聴し、話の趣旨や意図を考察する。さらにグループディスカッションや調査を通して解釈を深め、「情報収集力」の総合的な演習とする。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第5回 社会の課題を調べる～SDGsとは～（情報収集・情報分析、考える力①） 社会が抱える課題を反映したSDGsへの理解を深めるため、成立の背景にある現状・課題について理解し、未来の社会を想像し、グループで話し合う。	授業内容を振り返り、SDGsへの理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第6回 社会の課題を調べる～SDGsを自分ゴトに～（情報収集・情報分析、考える力②） 世界の子供たちの直面する社会問題を理解し、社会の課題とSDGsの目標とのつながりを考え、自分たちにできることや自分の役割についてグループで話し合う	授業を振り返り、SDGsへの自分の関わり方について理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第7回 社会の課題を調べる～SDGs達成のためにできること～（情報収集・情報分析、考える力③） 自分と自分を取り巻く社会の課題について調べ、社会の課題とSDGsの目標とのつながりを考え、自分たちが身近なところでできることを考える	授業内容を振り返り、課題③に取り組む【課題③】私のアジェンダ2030	4時間
第8回 時事問題を調査する（書く力①） 各学科の専門性、各学生の興味関心に応じて、現代の時事問題を調査する。ワークシートに基づいて、概要の整理、専門家の見解の要約をおこなう。	授業を振り返り、現代の時事問題について理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第9回 時事問題を考察する（書く力②） 第8回で調べた時事問題について、調べた内容を基に自分の意見をまとめる。	前回の時事問題について調べた内容を基に、自分の意見をまとめ、ワークシートを完成させる	4時間
第10回 論文を作成する（書く力③）	授業内で作成した論文課題の内容を精査する	4時間

	第8、9回でまとめたワークシートをもとに、時事問題の論文を授業内で作成する。論文を作成することで、文章表現・構成、論理展開などを理解する「書く力」の総合的な演習とする。【論文課題】		
第11回	推薦図書を選定する（読む力①） 図書館で推薦図書を選定するために、興味のある本を3冊ほど選ぶ。その際に、図書館に置いている本の種類、データベースを使用した本の検索方法などを学ぶ。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第12回	推薦図書の書評カードを製作する（読む力②） 自身の選択した推薦図書について、内容を要約し、その魅力を伝える書評カードを製作することで、「読む力」の総合的な演習とする。	授業内容を振り返り、課題④に取り組む【課題④】書評カード	4時間
第13回	ビブリオ・バトル（読む力③） 作成した書評カードをもとに、本の魅力をグループでプレゼンテーションしあう「ビブリオ・バトル」を行う。クラス内で代表者を選出し、学内の本選へ推薦する。【発表】	ビブリオ・バトルを通して学んだことを、授業内メモを参考に、要点と自身の考えや意見をレポート用紙にまとめる。	4時間
第14回	専門家の講演を聞く 各学科の専門性に応じたゲストスピーカーを招いて、講演を聞く。講演のメモ、要約、調査などを通して、自分の意見や問いを考え、記述する。	授業内容を振り返り、課題⑤に取り組む【課題⑤】講演内容をまとめる	4時間

授業科目名	キャリアベーシック				
担当教員名	谷口 信子・橋本 弘子				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

短大での2年間の学びをスムーズに始められるように、学びの基盤となるスキル・能力を身につけること、即ち情報収集力（「聞き取る力」「読み取る力」）、言語能力（「書く力」「話す力」）、構成能力（「伝える力」「プレゼンテーション能力」）の習得を目指します。さらに社会人の基礎となる共働力を持った人材を育てます。そのために、授業全般を通じて建学の精神である「桃李成蹊」と行動指針である「忠恕」やSDGsの観点を利用して授業を構成します

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

建学の精神をベースにした人間力、情報収集力、言語能力、構成能力、共働力を身につける。

目標：

2年間の学修の基礎を形成し、卒業へ向けた学びをスムーズに進めていけるようになる。

汎用的な力

1. DP10. 忠恕の心
2. DP4. 課題発見
3. DP5. 計画・立案力
4. DP9. 役割理解・連携行動
5. DP7. 完遂

相手を思いやり、礼儀、マナーなどの人間力をつける。

収集した資料から課題を発見できる。

収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる。

集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。

自分の担当カ箇所について指定の課題に従ってレポートを完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。毎回、学修内容に沿った授業内課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に夏休みの課題として「読書感想文」を課します。感想文の評価は引き続き受講するキャリアデザインにて評価いたします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業参加度	10 %	：	授業態度は、授業への取り組みや参加度を全14回の授業を通じて10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
発表（第13回）	10 %	：	第13回目の発表を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
課題（第1, 3, 7, 12, 14回）		：	計5回分の課題（授業時間外の事後課題）に対して、各回10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

論文課題（第10回）	50 %	:	論文課題に対して15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
定期試験	15 %	:	定期試験時に実施するレポート作成を15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
	15 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

毎回資料を配布いたします。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧な復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	主に木曜日
場所：	各授業担当者の研究室
備考・注意事項：	備考・注意事項：オフィスアワー以外の時間でも受け付けますので、いつでも訪ねてください。しかし会議等で不在のこともあります。事前に予約指定いただけると確かです。

授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 キャリアベーシックとは何か 建学の精神・PBMP・LDC・言葉遣い教育・人間力（聞く話す読む書く協働する）など、授業の前提と目的を確認する。これからの短大の学び、ひいては社会での学びの基礎となるように多様な視点への気づき、言葉や文章についての理解を深める。	授業内容を振り返り、課題①に取り組む【課題①】自分のキャリアを考える	4時間
第2回 情報を言語化して伝える（文章力①） 特定の図形や画像や絵文字などを言葉で伝える演習を通して、詳細な言語化、伝達の順序、解釈の差異など、「文章力」の基礎基本を理解する。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第3回 レポート課題の基礎を知る（文章力②） 比較検討による情報源の選定、ファクトチェック、事実と意見の区別、引用ルールなど、情報収集の要点を知り、SDGsなどを利用しながらレポート課題の基礎を学ぶ。研究倫理教育についてもこの回に実施する。	授業内容を振り返り、課題②に取り組む【課題②】研究倫理教育実施後のレポート課題	4時間
第4回 メディア・リテラシーとは何か（情報収集力の基礎） さまざまなメディアによる情報があふれる中からの情報の収集にかかわる考えを学ぶ。また世界的に活躍するクリエイターなどの講演映像を視聴し、話の趣旨や意図を考察する。さらにグループディスカッションや調査を通して解釈を深め、「情報収集力」の総合的な演習とする。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第5回 社会の課題を調べる～SDGsとは～（情報収集・情報分析、考える力①） 社会が抱える課題を反映したSDGsへの理解を深めるため、成立の背景にある現状・課題について理解し、未来の社会を想像し、グループで話し合う。	授業内容を振り返り、SDGsへの理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第6回 社会の課題を調べる～SDGsを自分ゴトに～（情報収集・情報分析、考える力②） 世界の子供たちの直面する社会問題を理解し、社会の課題とSDGsの目標とのつながりを考え、自分たちにできることや自分の役割についてグループで話し合う	授業を振り返り、SDGsへの自分の関わり方について理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第7回 社会の課題を調べる～SDGs達成のためにできること～（情報収集・情報分析、考える力③） 自分と自分を取り巻く社会の課題について調べ、社会の課題とSDGsの目標とのつながりを考え、自分たちが身近なところでできることを考える	授業内容を振り返り、課題③に取り組む【課題③】私のアジェンダ2030	4時間
第8回 時事問題を調査する（書く力①） 各学科の専門性、各学生の興味関心に応じて、現代の時事問題を調査する。ワークシートに基づいて、概要の整理、専門家の見解の要約をおこなう。	授業を振り返り、現代の時事問題について理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第9回 時事問題を考察する（書く力②） 第8回で調べた時事問題について、調べた内容を基に自分の意見をまとめる。	前回の時事問題について調べた内容を基に、自分の意見をまとめ、ワークシートを完成させる	4時間
第10回 論文を作成する（書く力③）	授業内で作成した論文課題の内容を精査する	4時間

	第8、9回でまとめたワークシートをもとに、時事問題の論文を授業内で作成する。論文を作成することで、文章表現・構成、論理展開などを理解する「書く力」の総合的な演習とする。【論文課題】		
第11回	推薦図書を選定する（読む力①） 図書館で推薦図書を選定するために、興味のある本を3冊ほど選ぶ。その際に、図書館に置いている本の種類、データベースを使用した本の検索方法などを学ぶ。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第12回	推薦図書の書評カードを製作する（読む力②） 自身の選択した推薦図書について、内容を要約し、その魅力を伝える書評カードを製作することで、「読む力」の総合的な演習とする。	授業内容を振り返り、課題④に取り組む【課題④】書評カード	4時間
第13回	ビブリオ・バトル（読む力③） 作成した書評カードをもとに、本の魅力をグループでプレゼンテーションしあう「ビブリオ・バトル」を行う。クラス内で代表者を選出し、学内の本選へ推薦する。【発表】	ビブリオ・バトルを通して学んだことを、授業内メモを参考に、要点と自身の考えや意見をレポート用紙にまとめる。	4時間
第14回	専門家の講演を聞く 各学科の専門性に応じたゲストスピーカーを招いて、講演を聞く。講演のメモ、要約、調査などを通して、自分の意見や問いを考え、記述する。	授業内容を振り返り、課題⑤に取り組む【課題⑤】講演内容をまとめる	4時間

授業科目名	キャリアベーシック				
担当教員名	紺谷 武・楠井 淳子・向井 秀幸・塩田 桃子				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

短大での2年間の学びをスムーズに始められるように、学びの基盤となるスキル・能力を身につけること、即ち情報収集力（「聞き取る力」「読み取る力」）、言語能力（「書く力」「話す力」）、構成能力（「伝える力」「プレゼンテーション能力」）の習得を目指します。さらに社会人の基礎となる共働力を持った人材を育てます。そのために、授業全般を通じて建学の精神である「桃李成蹊」と行動指針である「忠恕」やSDGsの観点を利用して授業を構成します

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

建学の精神をベースにした人間力、情報収集力、言語能力、構成能力、共働力を身につける。

目標：

2年間の学修の基礎を形成し、卒業へ向けた学びをスムーズに進めていけるようになる。

汎用的な力

1. DP10. 忠恕の心
2. DP4. 課題発見
3. DP5. 計画・立案力
4. DP9. 役割理解・連携行動
5. DP7. 完遂

相手を思いやり、礼儀、マナーなどの人間力をつける。

収集した資料から課題を発見できる。

収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる。

集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。

自分の担当カ箇所について指定の課題に従ってレポートを完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。
 毎回、学修内容に沿った授業内課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に夏休みの課題として「読書感想文」を課します。感想文の評価は引き続き受講するキャリアデザインにて評価いたします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業参加度	10 %	：	授業態度は、授業への取り組みや参加度を全14回の授業を通じて10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
発表（第13回）	10 %	：	第13回目の発表を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
課題（第1, 3, 7, 12, 14回）		：	計5回分の課題（授業時間外の事後課題）に対して、各回10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

論文課題（第10回）	50 %	:	論文課題に対して15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
定期試験	15 %	:	定期試験時に実施するレポート作成を15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
	15 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

毎回資料を配布いたします。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧な復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	主に木曜日
場所：	各授業担当者の研究室
備考・注意事項：	備考・注意事項：オフィスアワー以外の時間でも受け付けますので、いつでも訪ねてください。しかし会議等で不在のこともあります。事前に予約指定いただけると確かです。

授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 キャリアベーシックとは何か 建学の精神・PBMP・LDC・言葉遣い教育・人間力（聞く話す読む書く協働する）など、授業の前提と目的を確認する。これからの短大の学び、ひいては社会での学びの基礎となるように多様な視点への気づき、言葉や文章についての理解を深める。	授業内容を振り返り、課題①に取り組む【課題①】自分のキャリアを考える	4時間
第2回 情報を言語化して伝える（文章力①） 特定の図形や画像や絵文字などを言葉で伝える演習を通して、詳細な言語化、伝達の順序、解釈の差異など、「文章力」の基礎基本を理解する。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第3回 レポート課題の基礎を知る（文章力②） 比較検討による情報源の選定、ファクトチェック、事実と意見の区別、引用ルールなど、情報収集の要点を知り、SDGsなどを利用しながらレポート課題の基礎を学ぶ。研究倫理教育についてもこの回に実施する。	授業内容を振り返り、課題②に取り組む【課題②】研究倫理教育実施後のレポート課題	4時間
第4回 メディア・リテラシーとは何か（情報収集力の基礎） さまざまなメディアによる情報があふれる中からの情報の収集にかかわる考えを学ぶ。また世界的に活躍するクリエイターなどの講演映像を視聴し、話の趣旨や意図を考察する。さらにグループディスカッションや調査を通して解釈を深め、「情報収集力」の総合的な演習とする。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第5回 社会の課題を調べる～SDGsとは～（情報収集・情報分析、考える力①） 社会が抱える課題を反映したSDGsへの理解を深めるため、成立の背景にある現状・課題について理解し、未来の社会を想像し、グループで話し合う。	授業内容を振り返り、SDGsへの理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第6回 社会の課題を調べる～SDGsを自分ゴトに～（情報収集・情報分析、考える力②） 世界の子供たちの直面する社会問題を理解し、社会の課題とSDGsの目標とのつながりを考え、自分たちにできることや自分の役割についてグループで話し合う	授業を振り返り、SDGsへの自分の関わり方について理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第7回 社会の課題を調べる～SDGs達成のためにできること～（情報収集・情報分析、考える力③） 自分と自分を取り巻く社会の課題について調べ、社会の課題とSDGsの目標とのつながりを考え、自分たちが身近なところでできることを考える	授業内容を振り返り、課題③に取り組む【課題③】私のアジェンダ2030	4時間
第8回 時事問題を調査する（書く力①） 各学科の専門性、各学生の興味関心に応じて、現代の時事問題を調査する。ワークシートに基づいて、概要の整理、専門家の見解の要約をおこなう。	授業を振り返り、現代の時事問題について理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第9回 時事問題を考察する（書く力②） 第8回で調べた時事問題について、調べた内容を基に自分の意見をまとめる。	前回の時事問題について調べた内容を基に、自分の意見をまとめ、ワークシートを完成させる	4時間
第10回 論文を作成する（書く力③）	授業内で作成した論文課題の内容を精査する	4時間

	第8、9回でまとめたワークシートをもとに、時事問題の論文を授業内で作成する。論文を作成することで、文章表現・構成、論理展開などを理解する「書く力」の総合的な演習とする。【論文課題】		
第11回	推薦図書を選定する（読む力①） 図書館で推薦図書を選定するために、興味のある本を3冊ほど選ぶ。その際に、図書館に置いている本の種類、データベースを使用した本の検索方法などを学ぶ。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第12回	推薦図書の書評カードを製作する（読む力②） 自身の選択した推薦図書について、内容を要約し、その魅力を伝える書評カードを製作することで、「読む力」の総合的な演習とする。	授業内容を振り返り、課題④に取り組む【課題④】書評カード	4時間
第13回	ビブリオ・バトル（読む力③） 作成した書評カードをもとに、本の魅力をグループでプレゼンテーションしあう「ビブリオ・バトル」を行う。クラス内で代表者を選出し、学内の本選へ推薦する。【発表】	ビブリオ・バトルを通して学んだことを、授業内メモを参考に、要点と自身の考えや意見をレポート用紙にまとめる。	4時間
第14回	専門家の講演を聞く 各学科の専門性に応じたゲストスピーカーを招いて、講演を聞く。講演のメモ、要約、調査などを通して、自分の意見や問いを考え、記述する。	授業内容を振り返り、課題⑤に取り組む【課題⑤】講演内容をまとめる	4時間

授業科目名	キャリアベーシック				
担当教員名	百々 徹				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

短大での2年間の学びをスムーズに始められるように、学びの基盤となるスキル・能力を身につけること、即ち情報収集力（「聞き取る力」「読み取る力」）、言語能力（「書く力」「話す力」）、構成能力（「伝える力」「プレゼンテーション能力」）の習得を目指します。さらに社会人の基礎となる共働力を持った人材を育てます。そのために、授業全般を通じて建学の精神である「桃李成蹊」と行動指針である「忠恕」やSDGsの観点を利用して授業を構成します

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

建学の精神をベースにした人間力、情報収集力、言語能力、構成能力、共働力を身につける。

目標：

2年間の学修の基礎を形成し、卒業へ向けた学びをスムーズに進めていけるようになる。

汎用的な力

1. DP10. 忠恕の心
2. DP4. 課題発見
3. DP5. 計画・立案力
4. DP9. 役割理解・連携行動
5. DP7. 完遂

相手を思いやり、礼儀、マナーなどの人間力をつける。

収集した資料から課題を発見できる。

収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる。

集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。

自分の担当カ箇所について指定の課題に従ってレポートを完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。毎回、学修内容に沿った授業内課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に夏休みの課題として「読書感想文」を課します。感想文の評価は引き続き受講するキャリアデザインにて評価いたします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業参加度	10 %	：	授業態度は、授業への取り組みや参加度を全14回の授業を通じて10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
発表（第13回）	10 %	：	第13回目の発表を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
課題（第1, 3, 7, 12, 14回）		：	計5回分の課題（授業時間外の事後課題）に対して、各回10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

論文課題（第10回）	50 %	:	論文課題に対して15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
定期試験	15 %	:	定期試験時に実施するレポート作成を15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
	15 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

毎回資料を配布いたします。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜日午後
場所：	各授業担当者の研究室
備考・注意事項：	備考・注意事項：オフィスアワー以外の時間でも受け付けますので、いつでも訪ねてください。しかし会議等で不在のこともあります。事前に予約指定いただけると確かです。

授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 キャリアベーシックとは何か 建学の精神・PBMP・LDC・言葉遣い教育・人間力（聞く話す読む書く協働する）など、授業の前提と目的を確認する。これからの短大の学び、ひいては社会での学びの基礎となるように多様な視点への気づき、言葉や文章についての理解を深める。	授業内容を振り返り、課題①に取り組む【課題①】自分のキャリアを考える	4時間
第2回 情報を言語化して伝える（文章力①） 特定の図形や画像や絵文字などを言葉で伝える演習を通して、詳細な言語化、伝達の順序、解釈の差異など、「文章力」の基礎基本を理解する。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第3回 レポート課題の基礎を知る（文章力②） 比較検討による情報源の選定、ファクトチェック、事実と意見の区別、引用ルールなど、情報収集の要点を知り、SDGsなどを利用しながらレポート課題の基礎を学ぶ。研究倫理教育についてもこの回に実施する。	授業内容を振り返り、課題②に取り組む【課題②】研究倫理教育実施後のレポート課題	4時間
第4回 メディア・リテラシーとは何か（情報収集力の基礎） さまざまなメディアによる情報があふれる中からの情報の収集にかかわる考えを学ぶ。また世界的に活躍するクリエイターなどの講演映像を視聴し、話の趣旨や意図を考察する。さらにグループディスカッションや調査を通して解釈を深め、「情報収集力」の総合的な演習とする。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第5回 社会の課題を調べる～SDGsとは～（情報収集・情報分析、考える力①） 社会が抱える課題を反映したSDGsへの理解を深めるため、成立の背景にある現状・課題について理解し、未来の社会を想像し、グループで話し合う。	授業内容を振り返り、SDGsへの理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第6回 社会の課題を調べる～SDGsを自分ゴトに～（情報収集・情報分析、考える力②） 世界の子供たちの直面する社会問題を理解し、社会の課題とSDGsの目標とのつながりを考え、自分たちにできることや自分の役割についてグループで話し合う	授業を振り返り、SDGsへの自分の関わり方について理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第7回 社会の課題を調べる～SDGs達成のためにできること～（情報収集・情報分析、考える力③） 自分と自分を取り巻く社会の課題について調べ、社会の課題とSDGsの目標とのつながりを考え、自分たちが身近なところでできることを考える	授業内容を振り返り、課題③に取り組む【課題③】私のアジェンダ2030	4時間
第8回 時事問題を調査する（書く力①） 各学科の専門性、各学生の興味関心に応じて、現代の時事問題を調査する。ワークシートに基づいて、概要の整理、専門家の見解の要約をおこなう。	授業を振り返り、現代の時事問題について理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第9回 時事問題を考察する（書く力②） 第8回で調べた時事問題について、調べた内容を基に自分の意見をまとめる。	前回の時事問題について調べた内容を基に、自分の意見をまとめ、ワークシートを完成させる	4時間
第10回 論文を作成する（書く力③）	授業内で作成した論文課題の内容を精査する	4時間

	第8、9回でまとめたワークシートをもとに、時事問題の論文を授業内で作成する。論文を作成することで、文章表現・構成、論理展開などを理解する「書く力」の総合的な演習とする。【論文課題】		
第11回	推薦図書を選定する（読む力①） 図書館で推薦図書を選定するために、興味のある本を3冊ほど選ぶ。その際に、図書館に置いている本の種類、データベースを使用した本の検索方法などを学ぶ。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第12回	推薦図書の書評カードを製作する（読む力②） 自身の選択した推薦図書について、内容を要約し、その魅力を伝える書評カードを製作することで、「読む力」の総合的な演習とする。	授業内容を振り返り、課題④に取り組む【課題④】書評カード	4時間
第13回	ビブリオ・バトル（読む力③） 作成した書評カードをもとに、本の魅力をグループでプレゼンテーションしあう「ビブリオ・バトル」を行う。クラス内で代表者を選出し、学内の本選へ推薦する。【発表】	ビブリオ・バトルを通して学んだことを、授業内メモを参考に、要点と自身の考えや意見をレポート用紙にまとめる。	4時間
第14回	専門家の講演を聞く 各学科の専門性に応じたゲストスピーカーを招いて、講演を聞く。講演のメモ、要約、調査などを通して、自分の意見や問いを考え、記述する。	授業内容を振り返り、課題⑤に取り組む【課題⑤】講演内容をまとめる	4時間

授業科目名	情報システム論				
担当教員名	久保 覚司				
学年・コース等	1回生 医療事務 コース	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大学・大学病院において情報システム管理者として業務に従事した経験あり				

開放科目の指示：「可」

授業概要

この授業は、社会人として必要となる知識、特に医療事務員として医療機関で働く際に必要となる情報スキルを身につけることを目的としています。医療の現場ではすでにコンピュータの活用が進んでおり、業務の遂行には不可欠なものとなっています。そのため単にコンピュータの操作を知っているだけでは不十分であり、自由に使いこなす能力が要求されます。そこで本授業では、現場で即戦力として通用するコンピュータ利用能力を身につけます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1. 幅広い教養やスキル	コンピュータに関する基礎知識	情報システムで使われる、用語の意味を理解できる
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	情報システムに関する基礎知識	情報システムを活用するために必要なセキュリティやネットワーク等の基礎知識を理解できる
汎用的な力		
1. DP4. 課題発見		

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績を「一」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業への取組と課題	： 授業への積極性や課題の提出状況等を評価します。
30 %	
課題確認	： 授業で学んだ内容に関する課題（小テスト）を課し、評価します。
30 %	
期末試験	： 授業全体を通じて学んだ内容を修得できているかを評価します。検定試験に準じた問題を出題します。
40 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし
(適宜資料を配布します)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 不明な点があったら、メールにてお問い合わせください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 コンピュータの取り扱い(1) コンピュータの基本操作について学びます。 特にキー配列を覚え、タッチタイピングの練習を行います。	シラバスを事前に確認しておく。資料と問題をしっかり復習し、完答できるようにしておく。	4時間
第2回 コンピュータの取り扱い(2) コンピュータの基本操作について学びます。 特にショートカットキーを覚え、効率的に入力できるように練習を行います。	シラバスを事前に確認しておく。資料と問題をしっかり復習し、完答できるようにしておく。	4時間
第3回 コンピュータの取り扱い(3)、小テスト① コンピュータの基本操作について学びます。 また、OS (OperatingSystem) 特にWindowsについての特徴を学びます。 タイピングの小テストを実施します。	シラバスを事前に確認しておく。資料と問題をしっかり復習し、完答できるようにしておく。	4時間
第4回 セキュリティ対策とプライバシー保護(1) 情報を活用する上で欠かせないセキュリティ対策について学びます。 特に、セキュリティの定義、セキュリティ対策、情報漏洩のリスクについて取り組みます。	シラバスを事前に確認しておく。資料と問題をしっかり復習し、完答できるようにしておく。	4時間
第5回 セキュリティ対策とプライバシー保護(2) 情報を活用する上で欠かせない個人情報の取り扱いについて学びます。 特に、個人情報保護、権利の保護と管理について取り組みます。	シラバスを事前に確認しておく。資料と問題をしっかり復習し、完答できるようにしておく。	4時間
第6回 セキュリティ対策とプライバシー保護(3)、小テスト セキュリティ対策とプライバシー保護について復習します。 医療機関での実例を取り上げて解説します。 セキュリティ対策とプライバシー保護に関する小テストを実施します。	シラバスを事前に確認しておく。資料と問題をしっかり復習し、完答できるようにしておく。	4時間
第7回 医療情報システム(1) 保健医療情報システムの基礎知識として、システムの歴史及び概要について学びます。 病院内は様々な情報システムが稼働しており、各々連携しています。 これまでどのような変遷を辿ってきたのか、歴史的背景を法律を交えて説明します。	シラバスを事前に確認しておく。資料と問題をしっかり復習し、完答できるようにしておく。	4時間
第8回 医療情報システム(2) 保健医療情報システムの基礎知識として、病院情報システム及び地域医療情報システムについて学びます。	シラバスを事前に確認しておく。資料と問題をしっかり復習し、完答できるようにしておく。	4時間
第9回 医療情報システム(3) 保健医療情報システムの基礎知識として、病院情報システム及び地域医療情報システムについて学びます。	シラバスを事前に確認しておく。資料と問題をしっかり復習し、完答できるようにしておく。	4時間
第10回 医療情報システム(4)、小テスト 保健医療情報システムの基礎知識として、医療分野における情報化推進及び標準化について学びます。 医療情報システムに関する小テストを実施します。	シラバスを事前に確認しておく。資料と問題をしっかり復習し、完答できるようにしておく。	4時間
第11回 医療事務コンピュータについて(1) 教育用レセプトコンピュータソフトを使ってレセプト作成を学びます。 基本的な操作方法について説明します。	シラバスを事前に確認しておく。資料と問題をしっかり復習し、完答できるようにしておく。	4時間
第12回 医療事務コンピュータについて(2)	シラバスを事前に確認しておく。資料と問題をしっかり復習し、完答できるようにしておく。	4時間

	<p>教育用レセプトコンピュータソフトを使ってレセプト作成を学びます。 診療所のレセプトを作成する練習を行います。</p>		
<p>第13回</p>	<p>医療事務コンピュータについて(3)</p>	<p>シラバスを事前に確認しておく。資料と問題をしっかり復習し、完答できるようにしておく。</p>	<p>4時間</p>
	<p>教育用レセプトコンピュータソフトを使ってレセプト作成を学びます。 診療所のレセプトを作成する練習を行います。</p>		
<p>第14回</p>	<p>医療事務コンピュータについて(4)</p>	<p>シラバスを事前に確認しておく。資料と問題をしっかり復習し、完答できるようにしておく。</p>	<p>4時間</p>
	<p>教育用レセプトコンピュータソフトを使ってレセプト作成を学びます。 診療所のレセプトを作成する練習を行います。</p>		

授業科目名	情報システム論				
担当教員名	福永 栄一				
学年・コース等	1回生 経営会計 コース	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	企業内で情報システムの開発・運用を行っていました。（全14回）				

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

この授業は、社会で働く際に必須アイテムとなっている情報システムの基礎知識を修得することを目的としています。ビジネス社会はコンピュータによって短期間に多くの仕事を行い、大きな成果を生み出すように発展しました。これからのビジネス社会では、今まで以上に情報システムを使って、効率よく効果的に仕事することが求められます。そのために必要な考え方と知識を学びます。情報システムや関連する技術や知識を具体的にイメージできるようになることを目標とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1. 幅広い教養やスキル	コンピュータに関する基礎知識	情報システムで使われる、用語の意味を理解できる。
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	情報システムに関する基礎知識	情報システムを活用するために必要なセキュリティやネットワーク等の基礎知識を理解できる。
汎用的な力		
1. DP4. 課題発見		ビジネスで情報システムを活用する力

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業への取組と課題	評価の基準
45 %	授業に集中して取組んだか、アクティブに取り組んだか、周りの学生やクラスに協力したか、授業内容を確実に理解したか、課題に教員の指示通り取組み成果物を作りあげたかなどを評価します。
30 %	確認課題にチャレンジします。そこまでの授業で学んだ知識や技術を修得できたか、それを応用する力が身についたか、それをイメージして表現できるかなどを評価します。レポート作成、問題などの方法で確認します。
25 %	授業全体を通じて学んだ知識や技術を修得できたか、それを応用する力が身についたか、それをイメージして表現できるかなどを評価します。レポート作成、問題などの方法で確認します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
坂下 夕里	・ かんたん合格 ITパスポート 教科書&必須問題 令和6年度	・ インプレス	・ 2023 年

参考文献等

必要に応じて講義中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をします。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	金曜日 2 限目 (10:40-12:20)
場所：	研究室 (西館 5 階62)
備考・注意事項：	アポイントのある方を優先します。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 企業 企業にとって業務を効率化するためのシステムを導入することは必須であり、ITの活用が企業利益を大きく左右することを学びます。この授業の学びを通じて企業やITを自分でイメージできるようになることを目標とすることを確認します。ITを活用するすべての社会人・これから社会人となる学生が備えておくべき、ITに関する基礎的な知識(ITパスポートで問われる内容)を修得することを確認します。	これから勉強するためのノートを準備し、今日学んだこと、授業で身に着ける知識や目標を整理します。	4時間
第2回 経営戦略 経営戦略とはどんなことか、なぜ必要か、どうやって策定するのかなどを学びます。経営理念とはなにか、「ヒト・モノ・カネ・情報」という経営資源をどう活用するのかなどを学びます。	経営戦略、経営理念などを復習し、ノートを整理します。	4時間
第3回 マーケティング マーケティングとはどんなことか、なぜ必要か、どうやって実行するのかなどを学びます。マーケティングの種類やそれぞれの特徴、マーケティングミックスなどを学びます。	マーケティング、マーケティングミックスなどを復習し、ノートを整理します。	4時間
第4回 組織 組織とはどうゆうものか、なぜ組織が必要か、どうやって組織を作るのかなどを学びます。組織の種類やそれぞれの特徴、人材や雇用などを学びます。	組織、人材、雇用などを復習し、ノートを整理します。	4時間
第5回 情報システムの活用 情報システムとは何か、なぜ情報システムが必要か、どうすれば情報システムを活用できるのかなどを学びます。情報システム戦略や経営管理システムなどを学びます。	情報システムや経営管理システムなどを復習し、ノートを整理します。	4時間
第6回 e-ビジネスとAI・IoT e-ビジネスとは何か、どんなe-ビジネスがあるのか、e-ビジネスの特徴などを学びます。AIとIoTの活用について学びます。	e-ビジネス、AIなどを復習し、ノートを整理します。	4時間
第7回 前半の振り返りとまとめ ここまでの学びを振り返り、経営やITのイメージを確認します。さらに知識を増やし、イメージをより明確に・正しくします。具体的には、自分のこれらのイメージを説明するためのレポートや資料(図や絵：プレゼンテーション用資料)を作成します。まとめながら周りの学生と見比べ・相談して、そこで指摘された意見や考えも反映して作成します。周りの学生も積極的に意見し考え方を伝えます。	自分が作った絵や図を見直し・追加修正します。	4時間
第8回 イメージ化した内容の発表 作成したレポートや資料(図や絵：プレゼンテーション用資料)を発表します。全員で発表を採点評価し、より良くなるようなコメントを出し合います。	発表結果を振り返って絵や図を見直し・追加修正します。	4時間
第9回 企業と法律 企業に関連する法律を学びます。経営のための法律、個人情報に関する法律、労働に関する法律、消費者を保護する法律などを学びます。	学んだ法律を復習し、ノートを整理します。	4時間
第10回 ITに関する法律 企業のITに関する法律を学びます。不正アクセス禁止法、サイバーセキュリティ基本法などを学びます。	学んだ法律を復習し、ノートを整理します。	4時間
第11回 知的財産権 知的財産権に関する法律を学びます。著作権、産業財産権、ソフトウェアのライセンスに関連する考え方を学びます。	学んだ法律を復習し、ノートを整理します。	4時間

第12回	標準化 標準化とは何か、なぜ標準化しないといけないのか、標準化の効果は何か、標準化の手法、標準化規格などを学びます。	標準化やその効果、手法などを復習し、ノートを整理します。	4時間
第13回	セキュリティ セキュリティとは何か、なぜセキュリティが重要なのか、情報資産が抱える脅威、セキュリティ対策、人的脅威、物理的脅、不正のメカニズムなどを学びます。	セキュリティ、情報資産が抱える脅威などを復習し、ノートを整理します。	4時間
第14回	全体振り返り 全体の学びを振り返り、経営やITのイメージを確認します。さらに知識を増やし、イメージをより明確に・正しくします。具体的には、自分のこれらのイメージを説明するためのレポートや資料（図や絵：プレゼンテーション用資料）を作成します。まとめながら周りの学生と見比べ・相談して、そこで指摘された意見や考えも反映して作成します。周りの学生も積極的に意見し考え方を伝えます。	自分が作った絵や図を見直し・追加修正します。	4時間

授業科目名	情報処理概論				
担当教員名	吉田 澄江				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義・演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	コンピュータスクールにてマネージャー職および Microsoft Office講師。企業の広報部にて広告媒体を企画・デザイン・制作。(全14回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

コンピュータ (Windows) の基本操作を理解していることを前提とし、学内におけるコンピュータ・ネットワーク環境の知識と操作を学んだうえで、情報社会に対応するスキルとして①情報モラルとセキュリティ②Eメールとインターネットのマナーとルールを習得する。また、ビジネス活用できるスキルとして①タッチタイピングの習得 (各々のレベルに応じて目標を設定) ②Word・Excel・PowerPointの実践的な使い方を習得。Word・Excel・PowerPointは、実際にビジネスの現場で使われる題材を使用し、実践的に学習する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

情報リテラシー

目標：

情報社会を生き抜くためのルールやマナー、セキュリティの知識、Windowsの操作からインターネットを利用した情報収集、Officeの活用まで、情報化社会に対応する能力を身に付ける。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

パソコンの実習を通して、情報を適切に活用し課題を解決する知識や技能を養い、実践に活かせるスキルを習得する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

単元ごとの課題	：	タイピング×2、Word×4、Excel×4、PowerPoint×2（計12ファイル）
	50 %	
アプリケーションごとの実技テスト	：	Word（ビジネス文書作成）、Excel（関数とグラフを含む課題作成）
	20 %	
授業への取り組み状況	：	授業内外において、積極的に課題に取り組む姿勢があるかどうかを評価する
	15 %	
試験（実技）	：	PowerPoint（プレゼンテーションを作成）
	15 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

情報リテラシー 総合編/FOM出版、その他授業内で適宜紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

※配布プリントを使って操作手順を学び（講義）、実践力を養うためにできるだけ多くの練習課題に取り組む（演習）。受講生のレベルに応じて、検定問題などの個別課題も用意する。授業は毎回課題のステップアップ形式で進めるので、欠席・遅刻をしないこと。
 ※半期2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
 ※毎回の授業開始前にパソコンを起動し、ログインしておくこと。
 ログインに必要なユーザIDとパスワードを初回授業から必ず持参してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後
 場所： 授業の教室
 備考・注意事項： 授業前後に質問対応します。
 その他連絡が必要な場合はEメールで。（吉田：yoshida-s@g.osaka-seikei.ac.jp）

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション/コンピュータの活用1 ・学内におけるコンピュータ環境の概要説明と使用方法 ・Windowsの基本操作確認 ・ドライブ、フォルダ、ファイルの説明、課題の保存・提出先について ・タイピングの基本/キーと指の対応 ・タイピングソフトを使った練習法 ・タイピングスキルチェック（10分間入力）	キーと指の対応を復習/タイピング練習 4時間
第2回	コンピュータの活用2～情報化社会に対応するスキル～ ・ローマ字入カスビードアップ術 ・効率のよい入力を行うための変換技 ・ショートカットキーを使いこなす ・情報モラルとセキュリティ ・インターネットを使いこなす ・Eメールのルールとマナー	タイピング練習/Word基本操作の予習 4時間
第3回	Word1～ビジネス文書を作成する（基本編）～ ・入力と編集の基本 ・文字と段落の書式設定 ・ビジネス文書の基本フォーマット	Word課題①（ビジネス文書基本編）の復習 4時間
第4回	Word2～表作成とビジネス文書（応用編）～ ・表の挿入と編集（野線/網掛け/デザイン編集） ・表を含むビジネス文書作成	Word課題②（ビジネス文書応用編）の復習 4時間
第5回	Word3～Wordを使ってチラシやポスターを作成する～ ・表現力をアップする機能 ・オブジェクトの利用（図形作成/クリップアート/ワードアート） ・オブジェクトを利用した文書作成	Word課題③（チラシ作成）の復習 4時間
第6回	Word4～実践テクニックと地図作成～ ・Word実践テクニック（テンプレートの活用/線種とページ野線と網掛けの設定/図表と組織図） ・実践テクニックを活用したビジネス文書作成 ・地図作成とPDF変換	Word課題④（地図作成～PDF保存）の復習 4時間
第7回	Word5～実技テストと解説～ ・Word実技テスト ・実技テスト解説 ・ここまで学んだWord課題の復習と提出確認	Word実技テスト復習/Excel基本操作の予習 4時間
第8回	Excel1～Excelの基本操作と表作成～ ・データ入力の基礎と手順 ・シートとセルの操作、書式設定 ・表の作成と編集	Excel課題①（売上表・管理表作成）の復習 4時間
第9回	Excel2～絶対参照/相対参照と関数を理解する～ ・演算処理 ・絶対参照と相対参照の違い ・関数の使い方と活用	Excel課題②（絶対参照と相対参照）の復習 4時間
第10回	Excel3～複雑な関数と実践テクニック～ ・Excel実践テクニック（関数の応用/リスト/条件付き書式など）	Excel課題③（関数の活用課題）の復習 4時間
第11回	Excel4～グラフの作成とデザイン編集～ ・グラフの用途と種類、基本構成について ・各種グラフを作成する ・色々なデザインにアレンジする	Excel課題④（様々なグラフ作成）の復習 4時間
第12回	Excel5～実技テストと解説～ ・Excel実技テスト ・実技テスト解説 ・ここまで学んだExcel課題の復習と提出確認	Excel実技テストの復習/PowerPoint基本操作の予習 4時間
第13回	PowerPoint1～基本操作とプレゼンテーション作成～ ・PowerPointの基本操作 ・基本的なプレゼンテーションの作成 ・オブジェクト（表、グラフ、図形、グラフィック）を活用したプレゼンテーションの作成	PowerPoint課題①（プレゼンテーション作成基本編）の復習 4時間
第14回	PowerPoint2～スライド作成の応用とプレゼンテーション実施のコツ～	PowerPoint課題②（アニメーションや特殊効果を含むプレゼンテーション作成応用編）の復習 4時間

- ・様々な特殊効果（アニメーション・画面切り替え効果）をマスターする
 - ・プレゼンテーション実施のコツ
 - ・スライドのカスタマイズ
-

授業科目名	情報処理概論				
担当教員名	坂下 理穂				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業の初期段階では、在学中にネットワーク環境を問題なく使いこなせるようになるため、PCの基本操作やメール、LANの基本構造について習得する。さらに在学中および卒業後に必ず必要となるパソコンのアプリケーションソフト（特にWord、Excel、PowerPoint）の最も基本的な操作について習得する。将来のアパレル・ファッション業界およびイラスト・アニメ・デザイン業界での業務を考慮し、情報収集力とプレゼンテーションのスキルも身につけるため、最終段階において上記アプリケーションソフトを総合的に利用し、特定の課題に対するプレゼンテーションを実施する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

パソコンの基礎的操作を通じ、与えられた課題に対して、必要な情報についてwebを通して入手出来るようになる。

目標：

Word、Excel、PowerPointの基本操作を通じ、情報収集に基づく整理とプレゼンテーションを行う。

汎用的な力

1. DP7. 完遂

企画したテーマを達成するために、情報収集力を駆使し最後まで課題を最後まで完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業開始前にPCを起動しておくこと。
原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の課題内容への取組み状況	25 %	：	指示された内容について取り組んでいるかを判定する
毎回の提出物の評価	20 %	：	指定の課題に対して的確に実践できているかを判定する
プレゼンテーション力	25 %	：	指定課題内容を含んでいるか、分かりやすい発表を行っているかを判定する
定期試験	30 %	：	養われるべき力が到達目標に達しているかどうかを実技テストで判定する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・Microsoft Excel 2021 基礎 Office 2021/Microsoft 365 対応 (よくわかる)富士通ラーニングメディア (FOM出版) ISBN-10: 4938927918, ISBN-13: 978-4938927912, 2022/8/1
- ・Microsoft Word 2021 基礎 Office 2021/Microsoft 365 対応 (よくわかる)富士通ラーニングメディア (FOM出版) , ISBN-10: 4938927926, ISBN-13: 978-4938927929, 2022/8/1
- ・Microsoft PowerPoint 2021 基礎 Office 2021/Microsoft 365 対応 (よくわかる)富士通ラーニングメディア (FOM出版), ISBN-10: 4938927934, ISBN-13: 978-4938927936, 2022/9/16

履修上の注意・備考・メッセージ

授業開始前にPCを起動しておくこと。
 本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日
 場所： 授業実施教室
 備考・注意事項： 質問は授業の前後に応じる。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかると目安の時間
第1回 学内PC環境の概要説明 (コンピュータスキルの向上に向けて) 学内におけるコンピュータやネットワーク環境の概要説明と使用方法について理解する。 授業における課題提出の方法を理解する。	メールの使用法、学内のオンラインシステムを理解する。	4時間
第2回 Wordの操作1 (文書の保存と印刷) 基本的な文書の作成および保存、印刷の手法を習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	メニューバーやツールバー (リボン) の使い方を復習しておく。	4時間
第3回 Wordの操作2 (文書作成) 文書作成におけるテクニック、表作成と書式操作について習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	単語登録、特殊記号、インデント、行間設定など文書作成の基本テクニックを復習しておく。	4時間
第4回 Wordの操作3 (資料作成と応用機能) 文書作成における頻度の高い応用機能について習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	縦書きと横書き、段組み、文字の修飾など、機能性のある手法を復習しておく。	4時間
第5回 Wordの操作4 (提出用レポートの作成) これまでの操作を総合して、実際に授業内で提出する模擬レポートの作成を行う。 授業内容をもとに指定された提出課題を作成する。	ページ番号、図の挿入の方法などを復習しておく。	4時間
第6回 Excelの操作1 (入力とシートの理解) 基本操作として、セルへのデータ入力、修正、移動、コピーについて習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	メニューバーやツールバー (リボン) の使い方を復習しておく。	4時間
第7回 Excelの操作2 (演算・関数) 演算として数式の入力、関数使用・作成について習得する。 Excelを用いて表作成に関数機能を利用する能力を習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	表計算の基礎となる演算方法を復習しておく。	4時間
第8回 Excelの操作3 (グラフと資料の作成) グラフ作成方法について習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	種々のグラフ作成と表示方法や機能について復習しておく。	4時間
第9回 PowerPointの操作1 (デザインの基本) 基本操作として文字入力および体裁の変換方法について習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	メニューバーやツールバー (リボン) の使い方を復習しておく。	4時間
第10回 PowerPointの操作2 (図形描画の基本) 図形描画の手法について習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	オートシェイプ機能やレイアウトの基本ツールについて復習しておく。	4時間
第11回 PowerPointの操作3 (プレゼンテーションの手法) プレゼンテーション機能について学ぶ。 PowerPointにExcelで作成した表やグラフを貼り付けることができる技術を習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	背景設定やアニメーションの機能について復習しておく。	4時間
第12回 プレゼンテーション準備1 (Word, Excel, PowerPointの総合理解) プレゼンテーション課題の提示と、それをもとにした情報収集およびPowerPointによる簡単なプレゼンテーションの準備。	インターネットを用いた情報収集と編集およびプレゼンテーションファイル作成を復習しておく。	4時間
第13回 プレゼンテーション準備2 (Word, Excel, PowerPointの総合理解)	インターネットを用いた情報収集と編集およびプレゼンテーションファイル作成を復習しておく。	4時間

	プレゼンテーション課題の提示と、それをもとにした情報収集およびPowerPointによる簡単なプレゼンテーションの準備を引き続き行う。		
第14回	プレゼンテーション準備2（オンライン会議の方法） 作成したプレゼンテーション資料をオンライン会議で発表することを想定した場合の操作方法を習得する。また、オンライン会議の運営方法などを習得する。	オンライン会議での発表操作方法について復習しておく。	4時間

授業科目名	情報処理概論				
担当教員名	島田 愛				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	DTP及びWEB、EC関連のデザイン制作に携わり、令和1年より独立してデザイン業務にあたる。大学にて情報教育の講師として活動。(全14回)				

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

本科目では、ビジネスシーンで欠かすことのできないオフィスソフト（Word）（Excel）（PowerPoint）を用いて、文書作成、表計算、プレゼンテーション資料の作成について学びます。それぞれのソフトウェアの基本的な操作方法を習得し、的確に作業をするために必要な知識と技能を身に付けます。また、情報ネットワークを利用する上で不可欠である情報モラルやセキュリティについても学びます。学生生活のみならず、社会人となつてからの仕事も見据えて取り組んでいきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル
- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

- 社会常識
情報処理の専門技能

目標：

- ビジネスシーンで求められる作法、資料作成上の常識を身につけ、実践できる
ビジネスで使用するソフトウェアを操作・活用できる

汎用的な力

- DP6. 行動・実践
- DP8. 意思疎通

- 各種ソフトの使い方や表現の工夫ができ、実践的な使い方ができる
ソフトの使い方のみではなく、分かりやすい文章表現やデザインで表現できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内でのPC操作修得状況	：	授業内で行う演習課題の完成度をもとに評価する。
	30 %	
授業内課題	：	Microsoft Office Word Excelのソフトを使用した授業内理解度確認課題を実施し、評価する。
	30 %	
定期試験	：	Microsoft Office PowerPointのソフトを使用した試験を実施し、評価する。
	40 %	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
noa出版	・イチからしっかり学ぶ!Office基礎と情報モラルOffice3	・noa出版	・2019 年

参考文献等

特に無し

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業時間前後

場所： 授業実施教室

備考・注意事項： 各クラス、担当講師より授業内で通達する。

授業計画

学修課題

授業外学修課題にかかる目安の時間

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション Windows基本操作 <ul style="list-style-type: none"> Windowsの基本操作 ウィンドウ構成やファイルとフォルダの管理について理解できる Wordの基本操作 起動や終了、画面構成や保存方法が理解できる タッチタイピング ホームポジションが理解できる ファンクションキーを使った効率的な変換方法が理解できる 文字の修正や、間違えた操作を元に戻すことができる 	テキストの2から28ページまでを授業前に読み理解しておくこと。	4時間
第2回 情報モラルとセキュリティ <ul style="list-style-type: none"> 学内ネットワークを利用する上で必要になるマナーやセキュリティ 個人情報と、個人情報の保護について理解できる メールに関するマナーについて理解できる インターネット上での情報発信について理解できる 著作権や著作権保護について理解できる インターネット上での情報発信やSNSの注意点について理解できる コンピュータウイルスやスパイウェア、不正アクセスやフィッシング詐欺について理解できる 	テキストの249から287ページまでを授業前に読み理解しておくこと。	4時間
第3回 Excel 表計算① 基本操作 <ul style="list-style-type: none"> Excelの基本操作 起動や終了、画面構成や保存方法が理解できる 範囲指定の方法や、データの入力・修正や削除が理解できる セル内データの取り扱いについて理解できる フォントの設定や、表示形式について理解できる セル内の書式設定や配置の変更が理解できる 行の高さ、列の幅の変更、自動調整が理解できる 罫線を使用した表の作成ができ、デザイン性の高い作表機能が理解できる 	テキストの99から113ページまでを授業前に読み理解しておくこと。	4時間
第4回 Excel 表計算② 基礎的な数式・関数 <ul style="list-style-type: none"> 数式の基本操作 演算記号や、四則演算について理解できる オートフィルや、データのコピーについて理解できる 再計算機能について理解できる 列、行、シートを挿入したりコピーできる 相対参照と絶対参照と複合参照の概念が理解できる 基本関数の使い方が理解できる 	テキストの113から135ページまでを授業前に読み理解しておくこと。	4時間
第5回 Excel 表計算③ 関数 <ul style="list-style-type: none"> ビジネスで使われる計算式の作成 基本関数の使い方が理解できる IF関数などを使った数式の作成 テーブル機能やスタイルオプション、集計方法について理解できる オートフィルタオプションなど、データベース機能の概念がわかる ワークシートの印刷や、印刷範囲、改ページプレビューについて理解できる 	テキストの135から152ページまでを授業前に読み理解しておくこと。	4時間
第6回 Excel 表計算④ グラフ作成 <ul style="list-style-type: none"> 関数を使った計算式の作成 関数のネストや数式作成のテクニックが理解できる 目的に合わせた、グラフの種類・特徴・用途が理解できる グラフの作成と編集が理解できる 縦棒グラフ、円グラフ、レーダーチャート、複合グラフの作成 グラフツールを使用して、グラフの編集ができる グラフの構成要素の取り扱いや、デザインやレイアウトを理解しデザイン性の高いグラフが作成できる グラフの場所の移動や、グラフの印刷が理解ができる 	テキストの153から176ページまでを授業前に読み理解しておくこと。	4時間
第7回 Excel 総合確認 これまでの振り返りと復習	テキストにてここまで学習したExcel操作を確認しておくこと。	4時間
第8回 Word 文書作成① 基本操作	テキストの29から59ページまでを授業前に読み理解しておくこと。	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> Wordの基本操作 <ul style="list-style-type: none"> 範囲選択の仕方や簡単な書式設定が理解できる Wordを使った文書作成 <ul style="list-style-type: none"> 範囲選択の方法や、文字書式と段落書式について理解できる 記号や特殊文字の入力、行頭文字やリストの概念がわかる 印刷イメージの確認や拡大縮小印刷や割付け印刷が理解できる 作表機能 <ul style="list-style-type: none"> セル、行、列、表の概念がわかる 段落罫線やページ罫線が理解できる デザイン性のある表が作成できる オブジェクト <ul style="list-style-type: none"> 図や図形、テキストボックスなどの概念がわかる 文字列の折り返しやオブジェクトの配置が理解できる 		
第9回	Word 文書作成② 様々な文書の書式 <ul style="list-style-type: none"> レポートやビジネス文書の基本 <ul style="list-style-type: none"> ページ設定やヘッダーとフッター 文字数と行数の変更 表紙の挿入とページ番号の挿入と書式設定ができる 改ページの挿入・セクション区切りの挿入と活用方法 図表番号や引用文献の挿入が理解できる 脚注や文末脚注が理解できる スタイルの適用と変更、更新などの活用方法 スペルチェックと文章校正が理解できる 	テキストの60から72ページまでを授業前に読み理解しておくこと。	4時間
第10回	Word 文書作成③ 書式設定・挿入 <ul style="list-style-type: none"> レポートやビジネス文書の応用 <ul style="list-style-type: none"> タイトル行の折り返しや、罫線の書式設定などデザイン性の高い作表ができる SmartArtグラフィックを使ったオブジェクトの活用方法 目次の挿入やフィールドの更新が理解できる 置換機能の活用方法 透かし挿入が理解できる オートコレクトの活用方法 Excelとの連携について理解できる 	テキストの73から98ページまでを授業前に読み理解しておくこと。	4時間
第11回	Word 総合確認 これまでの振り返りと復習	テキストにてここまで学習したWord操作を確認しておくこと。	4時間
第12回	PowerPoint スライド作成① 基本操作 <ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションの概要 <ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションツールの種類と特徴を理解できる プレゼンテーションの流れを理解できる プレゼンテーションの表現手段やコミュニケーションが理解できる PowerPointの基本操作 <ul style="list-style-type: none"> 画面構成やプレゼンテーションの新規作成ができる スライドのサイズ変更ができる スライドのデザインを変更することができる プレースホルダを使った文字の入力ができる 新しいスライドを挿入や、スライドの移動やコピーができる 	テキストの177から219ページまで読み、理解しておくこと。	4時間
第13回	PowerPoint スライド作成② データの挿入 <ul style="list-style-type: none"> デザイン性の高いスライドの編集が理解できる スライドへ、ワードアートやSmartArtなどのオブジェクトを挿入できる オブジェクトへの効果的な色とスタイルの編集ができる 画像の挿入し、適切に配置することができる Excelとの連携について理解できる <ul style="list-style-type: none"> 数値をアピールする表とグラフの挿入 図形やテキストボックスを使った効果的なプレゼンテーションが理解できる 	テキストの222から248ページまで読み、理解しておくこと。	4時間
第14回	PowerPoint スライド作成③ アニメーション・プレゼンテーション設定 <ul style="list-style-type: none"> ビジュアルコンテンツの作成 <ul style="list-style-type: none"> 画面の切り替え効果の設定ができる アニメーション効果の設定と編集ができる オブジェクトへの効果的なアニメーションの適用 スライドショーの実行やペンをを使った書き込みができる ノートや配布資料について理解できる スライド資料の印刷 メディアの活用や発表で魅せるプレゼンテーションが理解できる 	テキストの222から248ページまで読み、理解しておくこと。	4時間

授業科目名	キャリアベーシック				
担当教員名	瀬川 悠紀子				
学年・コース等	1回生 調理コース・FCコース	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

短大での2年間の学びをスムーズに始められるように、学びの基盤となるスキル・能力を身につけること、即ち情報収集力（「聞き取る力」「読み取る力」）、言語能力（「書く力」「話す力」）、構成能力（「伝える力」「プレゼンテーション能力」）の習得を目指します。さらに社会人の基礎となる共働力を持った人材を育てます。そのために、授業全般を通じて建学の精神である「桃李成蹊」と行動指針である「忠恕」やSDGsの観点を利用して授業を構成します

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

建学の精神をベースにした人間力、情報収集力、言語能力、構成能力、共働力を身につける。

目標：

2年間の学修の基礎を形成し、卒業へ向けた学びをスムーズに進めていけるようになる。

汎用的な力

1. DP10. 忠恕の心
2. DP4. 課題発見
3. DP5. 計画・立案力
4. DP9. 役割理解・連携行動
5. DP7. 完遂

相手を思いやり、礼儀、マナーなどの人間力をつける。

収集した資料から課題を発見できる。

収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる。

集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。

自分の担当カ箇所について指定の課題に従ってレポートを完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。毎回、学修内容に沿った授業内課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に夏休みの課題として「読書感想文」を課します。感想文の評価は引き続き受講するキャリアデザインにて評価いたします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業参加度	10 %	：	授業態度は、授業への取り組みや参加度を全14回の授業を通じて10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
発表（第13回）	10 %	：	第13回目の発表を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
課題（第1, 3, 7, 12, 14回）		：	計5回分の課題（授業時間外の事後課題）に対して、各回10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

論文課題（第10回）	50 %	:	論文課題に対して15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
定期試験	15 %	:	定期試験時に実施するレポート作成を15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
	15 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

毎回資料を配布いたします。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 田原：金4 瀬川：月2

場所： 各授業担当者の研究室

備考・注意事項： 備考・注意事項：オフィスアワー以外の時間も受け付けますので、いつでも訪ねてください。しかし会議等で不在のこともあります。事前に予約指定いただけると確かです。

授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 キャリアベーシックとは何か 建学の精神・PBMP・LDC・言葉遣い教育・人間力（聞く話す読む書く協働する）など、授業の前提と目的を確認する。これからの短大の学び、ひいては社会での学びの基礎となるように多様な視点への気づき、言葉や文章についての理解を深める。	授業内容を振り返り、課題①に取り組む【課題①】自分のキャリアを考える	4時間
第2回 情報を言語化して伝える（文章力①） 特定の図形や画像や絵文字などを言葉で伝える演習を通して、詳細な言語化、伝達の順序、解釈の差異など、「文章力」の基礎基本を理解する。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第3回 レポート課題の基礎を知る（文章力②） 比較検討による情報源の選定、ファクトチェック、事実と意見の区別、引用ルールなど、情報収集の要点を知り、SDGsなどを利用しながらレポート課題の基礎を学ぶ。研究倫理教育についてもこの回に実施する。	授業内容を振り返り、課題②に取り組む【課題②】研究倫理教育実施後のレポート課題	4時間
第4回 メディア・リテラシーとは何か（情報収集力の基礎） さまざまなメディアによる情報があふれる中からの情報の収集にかかわる考えを学ぶ。また世界的に活躍するクリエイターなどの講演映像を視聴し、話の趣旨や意図を考察する。さらにグループディスカッションや調査を通して解釈を深め、「情報収集力」の総合的な演習とする。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第5回 社会の課題を調べる～SDGsとは～（情報収集・情報分析、考える力①） 社会が抱える課題を反映したSDGsへの理解を深めるため、成立の背景にある現状・課題について理解し、未来の社会を想像し、グループで話し合う。	授業内容を振り返り、SDGsへの理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第6回 社会の課題を調べる～SDGsを自分ゴトに～（情報収集・情報分析、考える力②） 世界の子供たちの直面する社会問題を理解し、社会の課題とSDGsの目標とのつながりを考え、自分たちにできることや自分の役割についてグループで話し合う	授業を振り返り、SDGsへの自分の関わり方について理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第7回 社会の課題を調べる～SDGs達成のためにできること～（情報収集・情報分析、考える力③） 自分と自分を取り巻く社会の課題について調べ、社会の課題とSDGsの目標とのつながりを考え、自分たちが身近なところでできることを考える	授業内容を振り返り、課題③に取り組む【課題③】私のアジェンダ2030	4時間
第8回 時事問題を調査する（書く力①） 各学科の専門性、各学生の興味関心に応じて、現代の時事問題を調査する。ワークシートに基づいて、概要の整理、専門家の見解の要約をおこなう。	授業を振り返り、現代の時事問題について理解を深め、ワークシートを完成させる	4時間
第9回 時事問題を考察する（書く力②） 第8回で調べた時事問題について、調べた内容を基に自分の意見をまとめる。	前回の時事問題について調べた内容を基に、自分の意見をまとめ、ワークシートを完成させる	4時間
第10回 論文を作成する（書く力③）	授業内で作成した論文課題の内容を精査する	4時間

	第8、9回でまとめたワークシートをもとに、時事問題の論文を授業内で作成する。論文を作成することで、文章表現・構成、論理展開などを理解する「書く力」の総合的な演習とする。【論文課題】		
第11回	推薦図書を選定する（読む力①） 図書館で推薦図書を選定するために、興味のある本を3冊ほど選ぶ。その際に、図書館に置いている本の種類、データベースを使用した本の検索方法などを学ぶ。	授業内容を振り返り、ワークシートを完成させる	4時間
第12回	推薦図書の書評カードを製作する（読む力②） 自身の選択した推薦図書について、内容を要約し、その魅力を伝える書評カードを製作することで、「読む力」の総合的な演習とする。	授業内容を振り返り、課題④に取り組む【課題④】書評カード	4時間
第13回	ビブリオ・バトル（読む力③） 作成した書評カードをもとに、本の魅力をグループでプレゼンテーションしあう「ビブリオ・バトル」を行う。クラス内で代表者を選出し、学内の本選へ推薦する。【発表】	ビブリオ・バトルを通して学んだことを、授業内メモを参考に、要点と自身の考えや意見をレポート用紙にまとめる。	4時間
第14回	専門家の講演を聞く 各学科の専門性に応じたゲストスピーカーを招いて、講演を聞く。講演のメモ、要約、調査などを通して、自分の意見や問いを考え、記述する。	授業内容を振り返り、課題⑤に取り組む【課題⑤】講演内容をまとめる	4時間

授業科目名	海外語学演習（英語）				
担当教員名	麻島 徳子				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期・春期集中	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この授業は海外語学留学に行く学生のために、留学生生活をスムーズに開始し、現地での大学生活に適応して、積極的かつ有意義に留学期間を過ごすことができるよう事前に学ぶことで、成果をもって日本に帰国することができるようにすることが目標です。留学先の国について、生活習慣、食事、マナー、言語、気候などあらゆる角度から学び、現地での生活、学習などについて、学生自ら情報を収集することができるように指導します。なお、本科目は語学留学と事前・事後学修を含めて単位を修得するものです。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

語学の基礎知識：留学を円滑に行うことができるよう、必要となる知識を身に付けることができる。

目標：

留学の基礎知識：出発前、留学中、帰国後それぞれ、必要な知識、情報、心構えなどについて理解を深め、学生自ら積極的に行動することができる。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践
2. DP7. 完遂

主体性：異文化理解の知識を養い、海外生活における判断力・思考力を主体性をもって高めることができる。

積極性：海外の生活習慣を学び、英会話の基礎知識を養い、観察力・適応力をもって、自主的かつ積極的に留学生活を送ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

1. 原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。
2. 具体的な渡航先については2024年6月以降に揭示予定です。
3. 新型コロナウイルスの世界的な感染拡大状況によっては変更または中止の可能性もあります。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

事前授業における参加状況	：	授業内での積極的な発言および取り組み状況。ワークへの積極的参加と課題シート記入の適切性について3段階で評価する。	
	30	%	
留学中の生活・学習状況	：	現地大学のクラス・グレードおよび学生の研修報告シート。	
	40	%	
事後授業における到達状況	：	レポート課題とプレゼンテーションにおいて、文書表現の正確性、データ整理の適切性、プレゼン資料の表現力、明確性、伝達力により評価する。	
	30	%	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

教科書は使用せずプリントを配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
 授業では、プレゼンテーション、グループワーク等、授業担当者の言葉だけでなく、他の学生の発表、意見に積極的に耳を傾けてください。
 海外語学研修に参加する学生のみが履修可能。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜1限
 場所： 研究室（西館5階）
 備考・注意事項： 授業の前後にも質問に応じる。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 海外留学について学ぶ 留学の意義、目的などについて説明。	各自、留学の意味、目的について考える	4時間
第2回 英語の基礎的な学力を確認する 現在の英語力の確認。英語で自己紹介してみよう。	英語による自己紹介の復習、不明点のチェック	4時間
第3回 英語の会話文例を学ぶ 会話文例を学び、暗誦練習。 参加者同士、英語で自己紹介練習など行う。	会話文例の復習、不明点のチェック	4時間
第4回 海外の生活習慣・文化について理解する 海外の生活習慣と文化の特徴について学び、理解する。 質問、疑問点を積極的に出して、日本とどのように異なるのか考え、異文化理解を図る。	海外生活に関する復習、不明点のチェック	4時間
第5回 海外語学留学（23日間） 留学先の大学・語学学校における研修。	留学先の大学・語学学校の課題	4時間
第6回 語学留学で習得したことを整理する 語学留学を終えて、さまざまな体験を整理し、語学力において習得できたこと、また実際の生活を通して感じ得たことを、異文化理解の観点からまとめる。	語学研修全体に対する復習、まとめ	4時間

授業科目名	キャリアデザイン				
担当教員名	百々 徹				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目は本学の建学の精神である「桃李成蹊」と行動指針である「忠恕」を通じて社会で活躍できる人に成長するための学びの基礎となる科目です。前期科目のキャリアベーシックに続き、SDGsの観点を利用し自らの考えを提案・探求しながら考えを深化するなど、学びの楽しさを身に付けます。授業ではアクティブラーニングを主とし、課題発見力やコミュニケーション力を身に付け、自らのライフプランや将来像などこれからのキャリアに関しての意識を持つことができる内容で構成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

社会人として必要な人間性や社会性を醸成するために、主として「提案」「探求」をテーマに展開する。

目標：

課題発見力やコミュニケーション力を身に付け、自らのライフプランや将来像などこれからのキャリアに関しての意識を持つことができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP9. 役割理解・連携行動
4. DP7. 完遂

収集した資料から将来のキャリアに関する課題や社会の課題を発見し発表できる。

収集した資料や発見した課題から、新しいプランを提案し積極的に取り組むことができる。

集団やチームの中で自分の役割を理解し協働できる。

授業からの学びや探究活動を通じ得たものをまとめてプレゼン発表をすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・ 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ デイバート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後にテーマに従って課題の発表を行います。優秀者はプレゼン大会に出場します。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業参加度	:	授業態度は、授業への取り組みや参加度を全14回の授業を通じて10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
10 %		
プレゼン発表（第14回）	:	第14回目の発表を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
10 %		
課題（第1, 2, 10, 11, 13回）	:	計5回分の課題（授業時間外の事後課題）に対して、各回10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
50 %		
論文課題（第8回）	:	論文課題に対して15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

15 %

定期試験

： 定期試験時に実施するレポート作成を15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

15 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

その都度指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。毎回テーマに沿った課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に課題に沿った文章を作成し発表します。優秀者はプレゼン大会に出場します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 主に木曜日

場所： 各授業担当者の研究室

備考・注意事項： オフィスアワー以外の時間も受け付けますので、いつでも訪ねてください。しかし会議等で不在のこともあります。事前に予約指定いただくと確かです。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 外部講師による講演① (SDGsの全体像を理解する) ・外部講師による講演を聞きSDGsの背景や全体像について理解を深める。 ・講演を通じてメモやワークに取り組み考えをまとめる。	SDGsに関する学びを振り返り、レポートにまとめる。【課題①】講演レポート	4時間
第2回 外部講師による講演② (SDGsの各課題について深く学ぶ) ・外部講師による講演を聞きSDGsの各課題に関する理解を深める。 ・講演を通じてメモやワークに取り組み考えをまとめる	SDGsに関する学びを振り返り、レポートにまとめる。【課題②】講演レポート	4時間
第3回 問いの立て方を学ぶ ・自ら問いを立て、その答えを探求する。 ・これらの探求活動を通じて探求の理解を深める。	問いの立て方について復習する	4時間
第4回 社会の課題 (少子化問題) について問いを立てて考えを深める ・少子化問題の現状を知る。 ・少子化問題について理解を深める。 ・上記について講義及びグループワークを実施し、ワークシートに取り組み発表する。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する。	4時間
第5回 社会の課題 (環境問題) について問いを立てて考えを深める ・環境問題の現状を知る。 ・環境問題について理解を深める。 ・上記について講義及びグループワークを実施し、ワークシートに取り組み発表する。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する	4時間
第6回 社会の課題を理解する ・SDGsの気になる目標を選び、その目標が必要になった背景にある社会課題やその現状を知る。 ・調べる中で出てきた問いについてもさらに調べることで理解を深める。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する。	4時間
第7回 自分には何が出来るか考える ・第6回で選んだSDGsの目標に対して、自分は何が出来るかを考え、提案書を作成する。 ・次回の論文作成に向けて提案の意見交換をする。	授業を振り返り、提案書を完成させる	4時間
第8回 社会の課題に対してできることを発信する ・これまでの授業を通じて発信する内容を振り返る ・これまでの提案書を元に論文を授業内で作成する。【論文課題】	授業内で作成した論文課題の内容を精査する	4時間
第9回 自己の課題を理解する ・自分の視点・物事の見方の癖を知り、自己の理解を深める。 ・PROGテストの結果を利用して客観的把握をする。 ・他者の視点を借りた客観的把握をする。	授業内容を振り返り、自己の客観的把握を深めワークシートを完成させる	4時間
第10回 自己の課題を理解し、自己を向上させるための具体的な行動を考える	【課題③】 マンダラチャートを作成させる	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・授業外学修課題を振り返り、グループで共有する。 ・前回の授業内容と授業外学修課題を振り返り、自身の弱みを克服したり、強みをさらに伸ばすためにできることを考え、マンダラチャートの作成に取り組む。9マス思考に取り組むための多様な観点を知ることによって具体的な行動を多様にする。 		
第11回	自分の専門分野を探求する <ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業と授業外学修課題を振り返り、グループで共有する。 ・自分自身の興味関心と各学科の特性に沿った課題を結び付け問いを立てて調査する。 ・これらの探求活動を通じて探求の理解を深める。 	【課題④】探求レポートを完成させる。	4時間
第12回	探求レポートをスライドにまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・授業外学修課題で完成させた探求レポートの内容をスライドにまとめる。 ・探求レポートを要約し簡潔にポイントを示すなど、最も伝えたいポイントを強調したりするなど工夫しながら、スライドの質を高める。 ・作成したスライドを使って、グループで発表する。 	これまでの授業を振り返り、学びをまとめておく。	4時間
第13回	プレゼンテーションをまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・「これまでの学びとこれからのわたし」をテーマにプレゼンテーションにまとめて発表することを目標として授業を進行する。 ・まず、これまでの授業（社会問題への取り組み、マンダラチャートの作成、探究活動）を振り返り、学びをまとめる。 ・社会で活躍できる人の特徴などを挙げながら、継続的な学びの姿勢を理解するなど、ワークシートに取り組みながらプレゼンテーションの作成に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【課題⑤】プレゼンシートを完成させる。次回のプレゼンに向けて発表準備をおこなう。 	4時間
第14回	プレゼンテーションを発表する <ul style="list-style-type: none"> ・13回で作成したスライドを利用して、それぞれ発表する。 <p>※優秀者はプレゼン大会に出場します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンで得た感想や他者の発表を聞いて比較も含めた課題に取り組む 【発表】	発表した内容をまとめる	4時間

授業科目名	キャリアデザイン				
担当教員名	瀬川 悠紀子				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目は本学の建学の精神である「桃李成蹊」と行動指針である「忠恕」を通じて社会で活躍できる人に成長するための学びの基礎となる科目です。前期科目のキャリアベーシックに続き、SDGsの観点を利用し自らの考えを提案・探求しながら考えを深化するなど、学びの楽しさを身に付けます。授業ではアクティブラーニングを主とし、課題発見力やコミュニケーション力を身に付け、自らのライフプランや将来像などこれからのキャリアに関しての意識を持つことができる内容で構成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

社会人として必要な人間性や社会性を醸成するために、主として「提案」「探求」をテーマに展開する。

目標：

課題発見力やコミュニケーション力を身に付け、自らのライフプランや将来像などこれからのキャリアに関しての意識を持つことができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP9. 役割理解・連携行動
4. DP7. 完遂

収集した資料から将来のキャリアに関する課題や社会の課題を発見し発表できる。

収集した資料や発見した課題から、新しいプランを提案し積極的に取り組むことができる。

集団やチームの中で自分の役割を理解し協働できる。

授業からの学びや探究活動を通じ得たものをまとめてプレゼン発表をすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ デイバート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後にテーマに従って課題の発表を行います。優秀者はプレゼン大会に出場します。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業参加度	:	授業態度は、授業への取り組みや参加度を全14回の授業を通じて10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
10 %		
プレゼン発表（第14回）	:	第14回目の発表を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
10 %		
課題（第1, 2, 10, 11, 13回）	:	計5回分の課題（授業時間外の事後課題）に対して、各回10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
50 %		
論文課題（第8回）	:	論文課題に対して15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

15 %

定期試験

： 定期試験時に実施するレポート作成を15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

15 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

その都度指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。毎回テーマに沿った課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に課題に沿った文章を作成し発表します。優秀者はプレゼン大会に出場します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜1限

場所： 各授業担当者の研究室

備考・注意事項： オフィスアワー以外の時間も受け付けますので、いつでも訪ねてください。しかし会議等で不在のこともあります。事前に予約指定いただくと確かです。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 外部講師による講演① (SDGsの全体像を理解する) ・外部講師による講演を聞きSDGsの背景や全体像について理解を深める。 ・講演を通じてメモやワークに取り組み考えをまとめる。	SDGsに関する学びを振り返り、レポートにまとめる。【課題①】講演レポート	4時間
第2回 外部講師による講演② (SDGsの各課題について深く学ぶ) ・外部講師による講演を聞きSDGsの各課題に関する理解を深める。 ・講演を通じてメモやワークに取り組み考えをまとめる	SDGsに関する学びを振り返り、レポートにまとめる。【課題②】講演レポート	4時間
第3回 問いの立て方を学ぶ ・自ら問いを立て、その答えを探求する。 ・これらの探求活動を通じて探求の理解を深める。	問いの立て方について復習する	4時間
第4回 社会の課題 (少子化問題) について問いを立てて考えを深める ・少子化問題の現状を知る。 ・少子化問題について理解を深める。 ・上記について講義及びグループワークを実施し、ワークシートに取り組み発表する。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する。	4時間
第5回 社会の課題 (環境問題) について問いを立てて考えを深める ・環境問題の現状を知る。 ・環境問題について理解を深める。 ・上記について講義及びグループワークを実施し、ワークシートに取り組み発表する。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する	4時間
第6回 社会の課題を理解する ・SDGsの気になる目標を選び、その目標が必要になった背景にある社会課題やその現状を知る。 ・調べる中で出てきた問いについてもさらに調べることで理解を深める。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する。	4時間
第7回 自分には何ができるか考える ・第6回で選んだSDGsの目標に対して、自分は何ができるかを考え、提案書を作成する。 ・次回の論文作成に向けて提案の意見交換をする。	授業を振り返り、提案書を完成させる	4時間
第8回 社会の課題に対してできることを発信する ・これまでの授業を通じて発信する内容を振り返る ・これまでの提案書を元に論文を授業内で作成する。【論文課題】	授業内で作成した論文課題の内容を精査する	4時間
第9回 自己の課題を理解する ・自分の視点・物事の見方の癖を知り、自己の理解を深める。 ・PROGテストの結果を利用して客観的把握をする。 ・他者の視点を借りた客観的把握をする。	授業内容を振り返り、自己の客観的把握を深めワークシートを完成させる	4時間
第10回 自己の課題を理解し、自己を向上させるための具体的な行動を考える	【課題③】 マンダラチャートを作成させる	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・授業外学修課題を振り返り、グループで共有する。 ・前回の授業内容と授業外学修課題を振り返り、自身の弱みを克服したり、強みをさらに伸ばすためにできることを考え、マンダラチャートの作成に取り組む。9マス思考に取り組むための多様な観点を知ることによって具体的な行動を多様にする。 		
第11回	自分の専門分野を探求する <ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業と授業外学修課題を振り返り、グループで共有する。 ・自分自身の興味関心と各学科の特性に沿った課題を結び付け問いを立てて調査する。 ・これらの探求活動を通じて探求の理解を深める。 	【課題④】探求レポートを完成させる。	4時間
第12回	探求レポートをスライドにまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・授業外学修課題で完成させた探求レポートの内容をスライドにまとめる。 ・探求レポートを要約し簡潔にポイントを示すなど、最も伝えたいポイントを強調したりするなど工夫しながら、スライドの質を高める。 ・作成したスライドを使って、グループで発表する。 	これまでの授業を振り返り、学びをまとめておく。	4時間
第13回	プレゼンテーションをまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・「これまでの学びとこれからのわたし」をテーマにプレゼンテーションにまとめて発表することを目標として授業を進行する。 ・まず、これまでの授業（社会問題への取り組み、マンダラチャートの作成、探究活動）を振り返り、学びをまとめる。 ・社会で活躍できる人の特徴などを挙げながら、継続的な学びの姿勢を理解するなど、ワークシートに取り組みながらプレゼンテーションの作成に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【課題⑤】プレゼンシートを完成させる。次回のプレゼンに向けて発表準備をおこなう。 	4時間
第14回	プレゼンテーションを発表する <ul style="list-style-type: none"> ・13回で作成したスライドを利用して、それぞれ発表する。 <p>※優秀者はプレゼン大会に出場します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンで得た感想や他者の発表を聞いて比較も含めた課題に取り組む 【発表】	発表した内容をまとめる	4時間

授業科目名	キャリアデザイン				
担当教員名	田原 彩				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目は本学の建学の精神である「桃李成蹊」と行動指針である「忠恕」を通じて社会で活躍できる人に成長するための学びの基礎となる科目です。前期科目のキャリアベーシックに続き、SDGsの観点を利用し自らの考えを提案・探求しながら考えを深化するなど、学びの楽しさを身に付けます。授業ではアクティブラーニングを主とし、課題発見力やコミュニケーション力を身に付け、自らのライフプランや将来像などこれからのキャリアに関しての意識を持つことができる内容で構成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

社会人として必要な人間性や社会性を醸成するために、主として「提案」「探求」をテーマに展開する。

目標：

課題発見力やコミュニケーション力を身に付け、自らのライフプランや将来像などこれからのキャリアに関しての意識を持つことができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP9. 役割理解・連携行動
4. DP7. 完遂

収集した資料から将来のキャリアに関する課題や社会の課題を発見し発表できる。

収集した資料や発見した課題から、新しいプランを提案し積極的に取り組むことができる。

集団やチームの中で自分の役割を理解し協働できる。

授業からの学びや探究活動を通じ得たものをまとめてプレゼン発表をすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ デイバート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後にテーマに従って課題の発表を行います。優秀者はプレゼン大会に出場します。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業参加度	:	授業態度は、授業への取り組みや参加度を全14回の授業を通じて10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
10 %		
プレゼン発表（第14回）	:	第14回目の発表を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
10 %		
課題（第1, 2, 10, 11, 13回）	:	計5回分の課題（授業時間外の事後課題）に対して、各回10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
50 %		
論文課題（第8回）	:	論文課題に対して15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

15 %

定期試験

： 定期試験時に実施するレポート作成を15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

15 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

その都度指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。毎回テーマに沿った課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に課題に沿った文章を作成し発表します。優秀者はプレゼン大会に出場します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜・4限

場所： 各授業担当者の研究室

備考・注意事項： オフィスアワー以外の時間も受け付けますので、いつでも訪ねてください。しかし会議等で不在のこともあります。事前に予約指定いただくと確かです。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 外部講師による講演① (SDGsの全体像を理解する) ・外部講師による講演を聞きSDGsの背景や全体像について理解を深める。 ・講演を通じてメモやワークに取り組み考えをまとめる。	SDGsに関する学びを振り返り、レポートにまとめる。【課題①】講演レポート	4時間
第2回 外部講師による講演② (SDGsの各課題について深く学ぶ) ・外部講師による講演を聞きSDGsの各課題に関する理解を深める。 ・講演を通じてメモやワークに取り組み考えをまとめる	SDGsに関する学びを振り返り、レポートにまとめる。【課題②】講演レポート	4時間
第3回 問いの立て方を学ぶ ・自ら問いを立て、その答えを探求する。 ・これらの探求活動を通じて探求の理解を深める。	問いの立て方について復習する	4時間
第4回 社会の課題 (少子化問題) について問いを立てて考えを深める ・少子化問題の現状を知る。 ・少子化問題について理解を深める。 ・上記について講義及びグループワークを実施し、ワークシートに取り組み発表する。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する。	4時間
第5回 社会の課題 (環境問題) について問いを立てて考えを深める ・環境問題の現状を知る。 ・環境問題について理解を深める。 ・上記について講義及びグループワークを実施し、ワークシートに取り組み発表する。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する	4時間
第6回 社会の課題を理解する ・SDGsの気になる目標を選び、その目標が必要になった背景にある社会課題やその現状を知る。 ・調べる中で出てきた問いについてもさらに調べることで理解を深める。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する。	4時間
第7回 自分には何ができるか考える ・第6回で選んだSDGsの目標に対して、自分は何ができるかを考え、提案書を作成する。 ・次回の論文作成に向けて提案の意見交換をする。	授業を振り返り、提案書を完成させる	4時間
第8回 社会の課題に対してできることを発信する ・これまでの授業を通じて発信する内容を振り返る ・これまでの提案書を元に論文を授業内で作成する。【論文課題】	授業内で作成した論文課題の内容を精査する	4時間
第9回 自己の課題を理解する ・自分の視点・物事の見方の癖を知り、自己の理解を深める。 ・PROGテストの結果を利用して客観的把握をする。 ・他者の視点を借りて客観的把握をする。	授業内容を振り返り、自己の客観的把握を深めワークシートを完成させる	4時間
第10回 自己の課題を理解し、自己を向上させるための具体的な行動を考える	【課題③】マングラチャートを作成させる	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・授業外学修課題を振り返り、グループで共有する。 ・前回の授業内容と授業外学修課題を振り返り、自身の弱みを克服したり、強みをさらに伸ばすためにできることを考え、マンダラチャートの作成に取り組む。9マス思考に取り組むための多様な観点を知ることによって具体的な行動を多様にする。 		
第11回	自分の専門分野を探求する <ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業と授業外学修課題を振り返り、グループで共有する。 ・自分自身の興味関心と各学科の特性に沿った課題を結び付け問いを立てて調査する。 ・これらの探求活動を通じて探求の理解を深める。 	【課題④】探求レポートを完成させる。	4時間
第12回	探求レポートをスライドにまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・授業外学修課題で完成させた探求レポートの内容をスライドにまとめる。 ・探求レポートを要約し簡潔にポイントを示すなど、最も伝えたいポイントを強調したりするなど工夫しながら、スライドの質を高める。 ・作成したスライドを使って、グループで発表する。 	これまでの授業を振り返り、学びをまとめておく。	4時間
第13回	プレゼンテーションをまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・「これまでの学びとこれからのわたし」をテーマにプレゼンテーションにまとめて発表することを目標として授業を進行する。 ・まず、これまでの授業（社会問題への取り組み、マンダラチャートの作成、探究活動）を振り返り、学びをまとめる。 ・社会で活躍できる人の特徴などを挙げながら、継続的な学びの姿勢を理解するなど、ワークシートに取り組みながらプレゼンテーションの作成に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【課題⑤】プレゼンシートを完成させる。次回のプレゼンに向けて発表準備をおこなう。 	4時間
第14回	プレゼンテーションを発表する <ul style="list-style-type: none"> ・13回で作成したスライドを利用して、それぞれ発表する。 <p>※優秀者はプレゼン大会に出場します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンで得た感想や他者の発表を聞いて比較も含めた課題に取り組む 【発表】	発表した内容をまとめる	4時間

授業科目名	キャリアデザイン				
担当教員名	谷口 信子・小川 彩				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目は本学の建学の精神である「桃李成蹊」と行動指針である「忠恕」を通じて社会で活躍できる人に成長するための学びの基礎となる科目です。前期科目のキャリアベーシックに続き、SDGsの観点を利用し自らの考えを提案・探求しながら考えを深化するなど、学びの楽しさを身に付けます。授業ではアクティブラーニングを主とし、課題発見力やコミュニケーション力を身に付け、自らのライフプランや将来像などこれからのキャリアに関しての意識を持つことができる内容で構成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

社会人として必要な人間性や社会性を醸成するために、主として「提案」「探求」をテーマに展開する。

目標：

課題発見力やコミュニケーション力を身に付け、自らのライフプランや将来像などこれからのキャリアに関しての意識を持つことができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP9. 役割理解・連携行動
4. DP7. 完遂

収集した資料から将来のキャリアに関する課題や社会の課題を発見し発表できる。

収集した資料や発見した課題から、新しいプランを提案し積極的に取り組むことができる。

集団やチームの中で自分の役割を理解し協働できる。

授業からの学びや探究活動を通じ得たものをまとめてプレゼン発表をすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後にテーマに従って課題の発表を行います。優秀者はプレゼン大会に出場します。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業参加度	:	授業態度は、授業への取り組みや参加度を全14回の授業を通じて10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
10 %		
プレゼン発表（第14回）	:	第14回目の発表を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
10 %		
課題（第1, 2, 10, 11, 13回）	:	計5回分の課題（授業時間外の事後課題）に対して、各回10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
50 %		
論文課題（第8回）	:	論文課題に対して15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

15 %

定期試験

： 定期試験時に実施するレポート作成を15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

15 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

その都度指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。毎回テーマに沿った課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に課題に沿った文章を作成し発表します。優秀者はプレゼン大会に出場します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 主に木曜日

場所： 各授業担当者の研究室

備考・注意事項： オフィスアワー以外の時間も受け付けますので、いつでも訪ねてください。しかし会議等で不在のこともあります。事前に予約指定いただくと確かです。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 外部講師による講演① (SDGsの全体像を理解する) ・外部講師による講演を聞きSDGsの背景や全体像について理解を深める。 ・講演を通じてメモやワークに取り組み考えをまとめる。	SDGsに関する学びを振り返り、レポートにまとめる。【課題①】講演レポート	4時間
第2回 外部講師による講演② (SDGsの各課題について深く学ぶ) ・外部講師による講演を聞きSDGsの各課題に関する理解を深める。 ・講演を通じてメモやワークに取り組み考えをまとめる	SDGsに関する学びを振り返り、レポートにまとめる。【課題②】講演レポート	4時間
第3回 問いの立て方を学ぶ ・自ら問いを立て、その答えを探求する。 ・これらの探求活動を通じて探求の理解を深める。	問いの立て方について復習する	4時間
第4回 社会の課題 (少子化問題) について問いを立てて考えを深める ・少子化問題の現状を知る。 ・少子化問題について理解を深める。 ・上記について講義及びグループワークを実施し、ワークシートに取り組み発表する。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する。	4時間
第5回 社会の課題 (環境問題) について問いを立てて考えを深める ・環境問題の現状を知る。 ・環境問題について理解を深める。 ・上記について講義及びグループワークを実施し、ワークシートに取り組み発表する。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する	4時間
第6回 社会の課題を理解する ・SDGsの気になる目標を選び、その目標が必要になった背景にある社会課題やその現状を知る。 ・調べる中で出てきた問いについてもさらに調べることで理解を深める。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する。	4時間
第7回 自分には何ができるか考える ・第6回で選んだSDGsの目標に対して、自分は何ができるかを考え、提案書を作成する。 ・次回の論文作成に向けて提案の意見交換をする。	授業を振り返り、提案書を完成させる	4時間
第8回 社会の課題に対してできることを発信する ・これまでの授業を通じて発信する内容を振り返る ・これまでの提案書を元に論文を授業内で作成する。【論文課題】	授業内で作成した論文課題の内容を精査する	4時間
第9回 自己の課題を理解する ・自分の視点・物事の見方の癖を知り、自己の理解を深める。 ・PROGテストの結果を利用して客観的把握をする。 ・他者の視点を借りた客観的把握をする。	授業内容を振り返り、自己の客観的把握を深めワークシートを完成させる	4時間
第10回 自己の課題を理解し、自己を向上させるための具体的な行動を考える	【課題③】 マンダラチャートを作成させる	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・授業外学修課題を振り返り、グループで共有する。 ・前回の授業内容と授業外学修課題を振り返り、自身の弱みを克服したり、強みをさらに伸ばすためにできることを考え、マンダラチャートの作成に取り組む。9マス思考に取り組むための多様な観点を知ることによって具体的な行動を多様にする。 		
第11回	自分の専門分野を探求する <ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業と授業外学修課題を振り返り、グループで共有する。 ・自分自身の興味関心と各学科の特性に沿った課題を結び付け問いを立てて調査する。 ・これらの探求活動を通じて探求の理解を深める。 	【課題④】探求レポートを完成させる。	4時間
第12回	探求レポートをスライドにまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・授業外学修課題で完成させた探求レポートの内容をスライドにまとめる。 ・探求レポートを要約し簡潔にポイントを示すなど、最も伝えたいポイントを強調したりするなど工夫しながら、スライドの質を高める。 ・作成したスライドを使って、グループで発表する。 	これまでの授業を振り返り、学びをまとめておく。	4時間
第13回	プレゼンテーションをまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・「これまでの学びとこれからのわたし」をテーマにプレゼンテーションにまとめて発表することを目標として授業を進行する。 ・まず、これまでの授業（社会問題への取り組み、マンダラチャートの作成、探究活動）を振り返り、学びをまとめる。 ・社会で活躍できる人の特徴などを挙げながら、継続的な学びの姿勢を理解するなど、ワークシートに取り組みながらプレゼンテーションの作成に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【課題⑤】プレゼンシートを完成させる。次回のプレゼンに向けて発表準備をおこなう。 	4時間
第14回	プレゼンテーションを発表する <ul style="list-style-type: none"> ・13回で作成したスライドを利用して、それぞれ発表する。 <p>※優秀者はプレゼン大会に出場します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンで得た感想や他者の発表を聞いて比較も含めた課題に取り組む 【発表】	発表した内容をまとめる	4時間

授業科目名	キャリアデザイン				
担当教員名	紺谷 武・楠井 淳子・塩田 桃子・向井 秀幸				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目は本学の建学の精神である「桃李成蹊」と行動指針である「忠恕」を通じて社会で活躍できる人に成長するための学びの基礎となる科目です。前期科目のキャリアベーシックに続き、SDGsの観点を利用し自らの考えを提案・探求しながら考えを深化するなど、学びの楽しさを身に付けます。授業ではアクティブラーニングを主とし、課題発見力やコミュニケーション力を身に付け、自らのライフプランや将来像などこれからのキャリアに関しての意識を持つことができる内容で構成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

社会人として必要な人間性や社会性を醸成するために、主として「提案」「探求」をテーマに展開する。

目標：

課題発見力やコミュニケーション力を身に付け、自らのライフプランや将来像などこれからのキャリアに関しての意識を持つことができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP9. 役割理解・連携行動
4. DP7. 完遂

収集した資料から将来のキャリアに関する課題や社会の課題を発見し発表できる。

収集した資料や発見した課題から、新しいプランを提案し積極的に取り組むことができる。

集団やチームの中で自分の役割を理解し協働できる。

授業からの学びや探究活動を通じ得たものをまとめてプレゼン発表をすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後にテーマに従って課題の発表を行います。優秀者はプレゼン大会に出場します。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業参加度	：	授業態度は、授業への取り組みや参加度を全14回の授業を通じて10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
10 %		
プレゼン発表（第14回）	：	第14回目の発表を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
10 %		
課題（第1, 2, 10, 11, 13回）	：	計5回分の課題（授業時間外の事後課題）に対して、各回10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
50 %		
論文課題（第8回）	：	論文課題に対して15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

15 %

定期試験

： 定期試験時に実施するレポート作成を15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

15 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

その都度指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。毎回テーマに沿った課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に課題に沿った文章を作成し発表します。優秀者はプレゼン大会に出場します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 主に木曜日

場所： 各授業担当者の研究室

備考・注意事項： オフィスアワー以外の時間も受け付けますので、いつでも訪ねてください。しかし会議等で不在のこともあります。事前に予約指定いただくと確かです。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 外部講師による講演① (SDGsの全体像を理解する) ・外部講師による講演を聞きSDGsの背景や全体像について理解を深める。 ・講演を通じてメモやワークに取り組み考えをまとめる。	SDGsに関する学びを振り返り、レポートにまとめる。【課題①】講演レポート	4時間
第2回 外部講師による講演② (SDGsの各課題について深く学ぶ) ・外部講師による講演を聞きSDGsの各課題に関する理解を深める。 ・講演を通じてメモやワークに取り組み考えをまとめる	SDGsに関する学びを振り返り、レポートにまとめる。【課題②】講演レポート	4時間
第3回 問いの立て方を学ぶ ・自ら問いを立て、その答えを探求する。 ・これらの探求活動を通じて探求の理解を深める。	問いの立て方について復習する	4時間
第4回 社会の課題 (少子化問題) について問いを立てて考えを深める ・少子化問題の現状を知る。 ・少子化問題について理解を深める。 ・上記について講義及びグループワークを実施し、ワークシートに取り組み発表する。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する。	4時間
第5回 社会の課題 (環境問題) について問いを立てて考えを深める ・環境問題の現状を知る。 ・環境問題について理解を深める。 ・上記について講義及びグループワークを実施し、ワークシートに取り組み発表する。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する	4時間
第6回 社会の課題を理解する ・SDGsの気になる目標を選び、その目標が必要になった背景にある社会課題やその現状を知る。 ・調べる中で出てきた問いについてもさらに調べることで理解を深める。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する。	4時間
第7回 自分には何ができるか考える ・第6回で選んだSDGsの目標に対して、自分は何ができるかを考え、提案書を作成する。 ・次回の論文作成に向けて提案の意見交換をする。	授業を振り返り、提案書を完成させる	4時間
第8回 社会の課題に対してできることを発信する ・これまでの授業を通じて発信する内容を振り返る ・これまでの提案書を元に論文を授業内で作成する。【論文課題】	授業内で作成した論文課題の内容を精査する	4時間
第9回 自己の課題を理解する ・自分の視点・物事の見方の癖を知り、自己の理解を深める。 ・PROGテストの結果を利用して客観的把握をする。 ・他者の視点を借りて客観的把握をする。	授業内容を振り返り、自己の客観的把握を深めワークシートを完成させる	4時間
第10回 自己の課題を理解し、自己を向上させるための具体的な行動を考える	【課題③】マングラチャートを作成させる	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・授業外学修課題を振り返り、グループで共有する。 ・前回の授業内容と授業外学修課題を振り返り、自身の弱みを克服したり、強みをさらに伸ばすためにできることを考え、マンダラチャートの作成に取り組む。9マス思考に取り組むための多様な観点を知ることによって具体的な行動を多様にする。 		
第11回	自分の専門分野を探求する <ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業と授業外学修課題を振り返り、グループで共有する。 ・自分自身の興味関心と各学科の特性に沿った課題を結び付け問いを立てて調査する。 ・これらの探求活動を通じて探求の理解を深める。 	【課題④】探求レポートを完成させる。	4時間
第12回	探求レポートをスライドにまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・授業外学修課題で完成させた探求レポートの内容をスライドにまとめる。 ・探求レポートを要約し簡潔にポイントを示すなど、最も伝えたいポイントを強調したりするなど工夫しながら、スライドの質を高める。 ・作成したスライドを使って、グループで発表する。 	これまでの授業を振り返り、学びをまとめておく。	4時間
第13回	プレゼンテーションをまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・「これまでの学びとこれからのわたし」をテーマにプレゼンテーションにまとめて発表することを目標として授業を進行する。 ・まず、これまでの授業（社会問題への取り組み、マンダラチャートの作成、探究活動）を振り返り、学びをまとめる。 ・社会で活躍できる人の特徴などを挙げながら、継続的な学びの姿勢を理解するなど、ワークシートに取り組みながらプレゼンテーションの作成に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【課題⑤】プレゼンシートを完成させる。次回のプレゼンに向けて発表準備をおこなう。 	4時間
第14回	プレゼンテーションを発表する <ul style="list-style-type: none"> ・13回で作成したスライドを利用して、それぞれ発表する。 <p>※優秀者はプレゼン大会に出場します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンで得た感想や他者の発表を聞いて比較も含めた課題に取り組む 【発表】	発表した内容をまとめる	4時間

授業科目名	キャリアデザイン				
担当教員名	榎本 英之・吉田 忍				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目は本学の建学の精神である「桃李成蹊」と行動指針である「忠恕」を通じて社会で活躍できる人に成長するための学びの基礎となる科目です。前期科目のキャリアベーシックに続き、SDGsの観点を利用し自らの考えを提案・探求しながら考えを深化するなど、学びの楽しさを身に付けます。授業ではアクティブラーニングを主とし、課題発見力やコミュニケーション力を身に付け、自らのライフプランや将来像などこれからのキャリアに関しての意識を持つことができる内容で構成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

社会人として必要な人間性や社会性を醸成するために、主として「提案」「探求」をテーマに展開する。

目標：

課題発見力やコミュニケーション力を身に付け、自らのライフプランや将来像などこれからのキャリアに関しての意識を持つことができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP9. 役割理解・連携行動
4. DP7. 完遂

収集した資料から将来のキャリアに関する課題や社会の課題を発見し発表できる。

収集した資料や発見した課題から、新しいプランを提案し積極的に取り組むことができる。

集団やチームの中で自分の役割を理解し協働できる。

授業からの学びや探究活動を通じ得たものをまとめてプレゼン発表をすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ デイバート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後にテーマに従って課題の発表を行います。優秀者はプレゼン大会に出場します。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業参加度	:	授業態度は、授業への取り組みや参加度を全14回の授業を通じて10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
10 %		
プレゼン発表（第14回）	:	第14回目の発表を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
10 %		
課題（第1, 2, 10, 11, 13回）	:	計5回分の課題（授業時間外の事後課題）に対して、各回10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
50 %		
論文課題（第8回）	:	論文課題に対して15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

15 %

定期試験

： 定期試験時に実施するレポート作成を15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

15 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

その都度指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。毎回テーマに沿った課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に課題に沿った文章を作成し発表します。優秀者はプレゼン大会に出場します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 主に木曜日

場所： 各授業担当者の研究室

備考・注意事項： オフィスアワー以外の時間も受け付けますので、いつでも訪ねてください。しかし会議等で不在のこともあります。事前に予約指定いただくと確かです。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 外部講師による講演① (SDGsの全体像を理解する) ・外部講師による講演を聞きSDGsの背景や全体像について理解を深める。 ・講演を通じてメモやワークに取り組み考えをまとめる。	SDGsに関する学びを振り返り、レポートにまとめる。【課題①】講演レポート	4時間
第2回 外部講師による講演② (SDGsの各課題について深く学ぶ) ・外部講師による講演を聞きSDGsの各課題に関する理解を深める。 ・講演を通じてメモやワークに取り組み考えをまとめる	SDGsに関する学びを振り返り、レポートにまとめる。【課題②】講演レポート	4時間
第3回 問いの立て方を学ぶ ・自ら問いを立て、その答えを探求する。 ・これらの探求活動を通じて探求の理解を深める。	問いの立て方について復習する	4時間
第4回 社会の課題 (少子化問題) について問いを立てて考えを深める ・少子化問題の現状を知る。 ・少子化問題について理解を深める。 ・上記について講義及びグループワークを実施し、ワークシートに取り組み発表する。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する。	4時間
第5回 社会の課題 (環境問題) について問いを立てて考えを深める ・環境問題の現状を知る。 ・環境問題について理解を深める。 ・上記について講義及びグループワークを実施し、ワークシートに取り組み発表する。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する	4時間
第6回 社会の課題を理解する ・SDGsの気になる目標を選び、その目標が必要になった背景にある社会課題やその現状を知る。 ・調べる中で出てきた問いについてもさらに調べることで理解を深める。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する。	4時間
第7回 自分には何ができるか考える ・第6回で選んだSDGsの目標に対して、自分は何ができるかを考え、提案書を作成する。 ・次回の論文作成に向けて提案の意見交換をする。	授業を振り返り、提案書を完成させる	4時間
第8回 社会の課題に対してできることを発信する ・これまでの授業を通じて発信する内容を振り返る ・これまでの提案書を元に論文を授業内で作成する。【論文課題】	授業内で作成した論文課題の内容を精査する	4時間
第9回 自己の課題を理解する ・自分の視点・物事の見方の癖を知り、自己の理解を深める。 ・PROGテストの結果を利用して客観的把握をする。 ・他者の視点を借りた客観的把握をする。	授業内容を振り返り、自己の客観的把握を深めワークシートを完成させる	4時間
第10回 自己の課題を理解し、自己を向上させるための具体的な行動を考える	【課題③】 マンダラチャートを作成させる	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・授業外学修課題を振り返り、グループで共有する。 ・前回の授業内容と授業外学修課題を振り返り、自身の弱みを克服したり、強みをさらに伸ばすためにできることを考え、マンダラチャートの作成に取り組む。9マス思考に取り組むための多様な観点を知ることによって具体的な行動を多様にする。 		
第11回	自分の専門分野を探求する <ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業と授業外学修課題を振り返り、グループで共有する。 ・自分自身の興味関心と各学科の特性に沿った課題を結び付け問いを立てて調査する。 ・これらの探求活動を通じて探求の理解を深める。 	【課題④】探求レポートを完成させる。	4時間
第12回	探求レポートをスライドにまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・授業外学修課題で完成させた探求レポートの内容をスライドにまとめる。 ・探求レポートを要約し簡潔にポイントを示すなど、最も伝えたいポイントを強調したりするなど工夫しながら、スライドの質を高める。 ・作成したスライドを使って、グループで発表する。 	これまでの授業を振り返り、学びをまとめておく。	4時間
第13回	プレゼンテーションをまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・「これまでの学びとこれからのわたし」をテーマにプレゼンテーションにまとめて発表することを目標として授業を進行する。 ・まず、これまでの授業（社会問題への取り組み、マンダラチャートの作成、探究活動）を振り返り、学びをまとめる。 ・社会で活躍できる人の特徴などを挙げながら、継続的な学びの姿勢を理解するなど、ワークシートに取り組みながらプレゼンテーションの作成に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【課題⑤】プレゼンシートを完成させる。次回のプレゼンに向けて発表準備をおこなう。 	4時間
第14回	プレゼンテーションを発表する <ul style="list-style-type: none"> ・13回で作成したスライドを利用して、それぞれ発表する。 <p>※優秀者はプレゼン大会に出場します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンで得た感想や他者の発表を聞いて比較も含めた課題に取り組む 【発表】	発表した内容をまとめる	4時間

授業科目名	キャリアデザイン				
担当教員名	中野 澄				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目は本学の建学の精神である「桃李成蹊」と行動指針である「忠恕」を通じて社会で活躍できる人に成長するための学びの基礎となる科目です。前期科目のキャリアベーシックに続き、SDGsの観点を利用し自らの考えを提案・探求しながら考えを深化するなど、学びの楽しさを身に付けます。授業ではアクティブラーニングを主とし、課題発見力やコミュニケーション力を身に付け、自らのライフプランや将来像などこれからのキャリアに関しての意識を持つことができる内容で構成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

社会人として必要な人間性や社会性を醸成するために、主として「提案」「探求」をテーマに展開する。

目標：

課題発見力やコミュニケーション力を身に付け、自らのライフプランや将来像などこれからのキャリアに関しての意識を持つことができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP9. 役割理解・連携行動
4. DP7. 完遂

収集した資料から将来のキャリアに関する課題や社会の課題を発見し発表できる。

収集した資料や発見した課題から、新しいプランを提案し積極的に取り組むことができる。

集団やチームの中で自分の役割を理解し協働できる。

授業からの学びや探究活動を通じ得たものをまとめてプレゼン発表をすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ デイバート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後にテーマに従って課題の発表を行います。優秀者はプレゼン大会に出場します。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業参加度	:	授業態度は、授業への取り組みや参加度を全14回の授業を通じて10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
10 %		
プレゼン発表（第14回）	:	第14回目の発表を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
10 %		
課題（第1, 2, 10, 11, 13回）	:	計5回分の課題（授業時間外の事後課題）に対して、各回10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
50 %		
論文課題（第8回）	:	論文課題に対して15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

15 %

定期試験

： 定期試験時に実施するレポート作成を15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

15 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

その都度指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。毎回テーマに沿った課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に課題に沿った文章を作成し発表します。優秀者はプレゼン大会に出場します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 主に木曜日

場所： 各授業担当者の研究室

備考・注意事項： オフィスアワー以外の時間も受け付けますので、いつでも訪ねてください。しかし会議等で不在のこともあります。事前に予約指定いただくと確かです。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 外部講師による講演① (SDGsの全体像を理解する) ・外部講師による講演を聞きSDGsの背景や全体像について理解を深める。 ・講演を通じてメモやワークに取り組み考えをまとめる。	SDGsに関する学びを振り返り、レポートにまとめる。【課題①】講演レポート	4時間
第2回 外部講師による講演② (SDGsの各課題について深く学ぶ) ・外部講師による講演を聞きSDGsの各課題に関する理解を深める。 ・講演を通じてメモやワークに取り組み考えをまとめる	SDGsに関する学びを振り返り、レポートにまとめる。【課題②】講演レポート	4時間
第3回 問いの立て方を学ぶ ・自ら問いを立て、その答えを探求する。 ・これらの探求活動を通じて探求の理解を深める。	問いの立て方について復習する	4時間
第4回 社会の課題 (少子化問題) について問いを立てて考えを深める ・少子化問題の現状を知る。 ・少子化問題について理解を深める。 ・上記について講義及びグループワークを実施し、ワークシートに取り組み発表する。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する。	4時間
第5回 社会の課題 (環境問題) について問いを立てて考えを深める ・環境問題の現状を知る。 ・環境問題について理解を深める。 ・上記について講義及びグループワークを実施し、ワークシートに取り組み発表する。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する	4時間
第6回 社会の課題を理解する ・SDGsの気になる目標を選び、その目標が必要になった背景にある社会課題やその現状を知る。 ・調べる中で出てきた問いについてもさらに調べることで理解を深める。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する。	4時間
第7回 自分には何ができるか考える ・第6回で選んだSDGsの目標に対して、自分は何ができるかを考え、提案書を作成する。 ・次回の論文作成に向けて提案の意見交換をする。	授業を振り返り、提案書を完成させる	4時間
第8回 社会の課題に対してできることを発信する ・これまでの授業を通じて発信する内容を振り返る ・これまでの提案書を元に論文を授業内で作成する。【論文課題】	授業内で作成した論文課題の内容を精査する	4時間
第9回 自己の課題を理解する ・自分の視点・物事の見方の癖を知り、自己の理解を深める。 ・PROGテストの結果を利用して客観的把握をする。 ・他者の視点を借りた客観的把握をする。	授業内容を振り返り、自己の客観的把握を深めワークシートを完成させる	4時間
第10回 自己の課題を理解し、自己を向上させるための具体的な行動を考える	【課題③】 マンダラチャートを作成させる	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・授業外学修課題を振り返り、グループで共有する。 ・前回の授業内容と授業外学修課題を振り返り、自身の弱みを克服したり、強みをさらに伸ばすためにできることを考え、マンダラチャートの作成に取り組む。9マス思考に取り組むための多様な観点を知ることによって具体的な行動を多様にする。 		
第11回	自分の専門分野を探求する <ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業と授業外学修課題を振り返り、グループで共有する。 ・自分自身の興味関心と各学科の特性に沿った課題を結び付け問いを立てて調査する。 ・これらの探求活動を通じて探求の理解を深める。 	【課題④】探求レポートを完成させる。	4時間
第12回	探求レポートをスライドにまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・授業外学修課題で完成させた探求レポートの内容をスライドにまとめる。 ・探求レポートを要約し簡潔にポイントを示すなど、最も伝えたいポイントを強調したりするなど工夫しながら、スライドの質を高める。 ・作成したスライドを使って、グループで発表する。 	これまでの授業を振り返り、学びをまとめておく。	4時間
第13回	プレゼンテーションをまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・「これまでの学びとこれからのわたし」をテーマにプレゼンテーションにまとめて発表することを目標として授業を進行する。 ・まず、これまでの授業（社会問題への取り組み、マンダラチャートの作成、探究活動）を振り返り、学びをまとめる。 ・社会で活躍できる人の特徴などを挙げながら、継続的な学びの姿勢を理解するなど、ワークシートに取り組みながらプレゼンテーションの作成に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【課題⑤】プレゼンシートを完成させる。次回のプレゼンに向けて発表準備をおこなう。 	4時間
第14回	プレゼンテーションを発表する <ul style="list-style-type: none"> ・13回で作成したスライドを利用して、それぞれ発表する。 <p>※優秀者はプレゼン大会に出場します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンで得た感想や他者の発表を聞いて比較も含めた課題に取り組む 【発表】	発表した内容をまとめる	4時間

授業科目名	キャリアデザイン				
担当教員名	川口 規子				
学年・コース等	1回生 医療事務 コース・経営会計 コース	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目は大学の建学の精神である「桃李成蹊」と行動指針である「忠恕」を通じて社会で活躍できる人に成長するための学びの基礎となる科目です。前期科目のキャリアベーシックに続き、SDGsの観点を利用し自らの考えを提案・探求しながら考えを深化するなど、学びの楽しさを身に付けます。授業ではアクティブラーニングを主とし、課題発見力やコミュニケーション力を身に付け、自らのライフプランや将来像などこれからのキャリアに関しての意識を持つことができる内容で構成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

社会人として必要な人間性や社会性を醸成するために、主として「提案」「探求」をテーマに展開する。

目標：

課題発見力やコミュニケーション力を身に付け、自らのライフプランや将来像などこれからのキャリアに関しての意識を持つことができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP9. 役割理解・連携行動
4. DP7. 完遂

収集した資料から将来のキャリアに関する課題や社会の課題を発見し発表できる。

収集した資料や発見した課題から、新しいプランを提案し積極的に取り組むことができる。

集団やチームの中で自分の役割を理解し協働できる。

授業からの学びや探究活動を通じ得たものをまとめてプレゼン発表をすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後にテーマに従って課題の発表を行います。優秀者はプレゼン大会に出場します。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業参加度	10 %	：	授業態度は、授業への取り組みや参加度を全14回の授業を通じて10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
プレゼン発表（第14回）	10 %	：	第14回目の発表を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
課題（第1, 2, 10, 11, 13回）	50 %	：	計5回分の課題（授業時間外の事後課題）に対して、各回10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

論文課題（第8回）	:	論文課題に対して15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
	15 %	
定期試験	:	定期試験時に実施するレポート作成を15点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
	15 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

その都度指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。毎回テーマに沿った課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に課題に沿った文章を作成し発表します。優秀者はプレゼン大会に出場します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜日2限目
場所：	各授業担当者の研究室
備考・注意事項：	オフィスアワー以外の時間も受け付けますので、いつでも訪ねてください。しかし会議等で不在のこともあります。事前に予約指定いただくと確かです。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 外部講師による講演①（SDGsの全体像を理解する） ・外部講師による講演を聞きSDGsの背景や全体像について理解を深める。 ・講演を通じてメモやワークに取り組み考えをまとめる。	SDGsに関する学びを振り返り、レポートにまとめる。【課題①】講演レポート	4時間
第2回 外部講師による講演②（SDGsの各課題について深く学ぶ） ・外部講師による講演を聞きSDGsの各課題に関する理解を深める。 ・講演を通じてメモやワークに取り組み考えをまとめる	SDGsに関する学びを振り返り、レポートにまとめる。【課題②】講演レポート	4時間
第3回 問いの立て方を学ぶ ・自ら問いを立て、その答えを探求する。 ・これらの探求活動を通じて探求の理解を深める。	問いの立て方について復習する	4時間
第4回 社会の課題（少子化問題）について問いを立てて考えを深める ・少子化問題の現状を知る。 ・少子化問題について理解を深める。 ・上記について講義及びグループワークを実施し、ワークシートに取り組み発表する。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する。	4時間
第5回 社会の課題（環境問題）について問いを立てて考えを深める ・環境問題の現状を知る。 ・環境問題について理解を深める。 ・上記について講義及びグループワークを実施し、ワークシートに取り組み発表する。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する	4時間
第6回 社会の課題を理解する ・SDGsの気になる目標を選び、その目標が必要になった背景にある社会課題やその現状を知る。 ・調べる中で出てきた問いについてもさらに調べることで理解を深める。	社会の課題に対して身近な関係を見つけ出し、授業内容を復習する。	4時間
第7回 自分には何が出来るか考える ・第6回で選んだSDGsの目標に対して、自分は何が出来るかを考え、提案書を作成する。 ・次回の論文作成に向けて提案の意見交換をする。	授業を振り返り、提案書を完成させる	4時間
第8回 社会の課題に対してできることを発信する ・これまでの授業を通じて発信する内容を振り返る ・これまでの提案書を元に論文を授業内で作成する。【論文課題】	授業内で作成した論文課題の内容を精査する	4時間
第9回 自己の課題を理解する ・自分の視点・物事の見方の癖を知り、自己の理解を深める。 ・PROGテストの結果を利用して客観的把握をする。 ・他者の視点を借りた客観的把握をする。	授業内容を振り返り、自己の客観的把握を深めワークシートを完成させる	4時間
第10回 自己の課題を理解し、自己を向上させるための具体的な行動を考える	【課題③】マンドラチャートを完成させる	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・授業外学修課題を振り返り、グループで共有する。 ・前回の授業内容と授業外学修課題を振り返り、自身の弱みを克服したり、強みをさらに伸ばすためにできることを考え、マンダラチャートの作成に取り組む。9マス思考に取り組むための多様な観点を知ることによって具体的な行動を多様にする。 		
第11回	自分の専門分野を探求する <ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業と授業外学修課題を振り返り、グループで共有する。 ・自分自身の興味関心と各学科の特性に沿った課題を結び付け問いを立てて調査する。 ・これらの探求活動を通じて探求の理解を深める。 	【課題④】探求レポートを完成させる。	4時間
第12回	探求レポートをスライドにまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・授業外学修課題で完成させた探求レポートの内容をスライドにまとめる。 ・探求レポートを要約し簡潔にポイントを示すなど、最も伝えたいポイントを強調したりするなど工夫しながら、スライドの質を高める。 ・作成したスライドを使って、グループで発表する。 	これまでの授業を振り返り、学びをまとめておく。	4時間
第13回	プレゼンテーションをまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・「これまでの学びとこれからのわたし」をテーマにプレゼンテーションにまとめて発表することを目標として授業を進行する。 ・まず、これまでの授業（社会問題への取り組み、マンダラチャートの作成、探究活動）を振り返り、学びをまとめる。 ・社会で活躍できる人の特徴などを挙げながら、継続的な学びの姿勢を理解するなど、ワークシートに取り組みながらプレゼンテーションの作成に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【課題⑤】プレゼンシートを完成させる。次回のプレゼンに向けて発表準備をおこなう。 	4時間
第14回	プレゼンテーションを発表する <ul style="list-style-type: none"> ・13回で作成したスライドを利用して、それぞれ発表する。 <p>※優秀者はプレゼン大会に出場します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンで得た感想や他者の発表を聞いて比較も含めた課題に取り組む 【発表】	発表した内容をまとめる	4時間

授業科目名	コンピュータリテラシー				
担当教員名	吉田 澄江				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義・演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	コンピュータスクールにてマネージャー職および Microsoft Office講師。企業の広報部にて広告媒体を企画・デザイン・制作。(全14回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

コンピュータ (Windows) の基本操作は理解していることを前提とし、学内におけるコンピュータ・ネットワーク環境の知識と操作を学んだ上で、情報化社会に対応するスキルとして①情報モラルとセキュリティ②Eメールとインターネットのルールとマナーを習得する。そして、ビジネスで活用できるスキルとして①タッチタイピングのマスター②Office (Word・Excel・PowerPoint) の実用的な使い方を習得する。Word・Excel・PowerPointは、実際にビジネスの現場で使われる題材を使用し、実践的に学習する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

情報リテラシー

目標：

情報社会を生き抜くためのルールやマナー、セキュリティの知識、Windowsの操作からインターネットを利用した情報収集、Officeの活用まで、情報化社会に対応する能力を身に付ける。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

パソコンの実習を通して、情報を適切に活用し課題を解決する知識や技能を養い、実践に活かせるスキルを習得する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

単元ごとの課題	：	タイピング×2、Word×4、Excel×4、PowerPoint×2（計12ファイル）
	50	%
アプリケーションごとの実技テスト	：	Word（ビジネス文書作成）、Excel（関数とグラフを含む課題作成）
	20	%
授業への取り組み状況	：	授業内外において、積極的に課題に取り組む姿勢があるかどうかを評価する
	15	%
試験（実技）	：	PowerPoint（プレゼンテーションを作成）
	15	%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

情報リテラシー 総合編/FOM出版、その他授業内で適宜紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

※配布プリントを使って操作手順を学び（講義）、実践力を養うためにできるだけ多くの練習課題に取り組む（演習）。受講生のレベルに応じて、検定問題などの個別課題も用意する。授業は毎回課題のステップアップ形式で進めるので、欠席・遅刻をしないこと。
 ※半期2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
 ※毎回の授業開始前にパソコンを起動し、ログインしておくこと。
 ログインに必要なユーザIDとパスワードを初回授業から必ず持参してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後
 場所： 授業の教室
 備考・注意事項： 授業前後に質問対応します。
 その他連絡が必要な場合はEメールで。（吉田：yoshida-s@g.osaka-seikei.ac.jp）

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション/コンピュータの活用1 <ul style="list-style-type: none"> 学内におけるコンピュータ環境の概要説明と使用方法 Windowsの基本操作確認 ドライブ、フォルダ、ファイルの説明、課題の保存・提出先について タイピングの基本/キーと指の対応 タイピング練習ソフトを使った練習法 タイピングスキルチェック（10分間入力） 	キーと指の対応を復習/タイピング練習	4時間
第2回 コンピュータの活用2～情報化社会に対応するスキル～ <ul style="list-style-type: none"> ローマ字入カスビードアップ術 効率のよい入力を行うための変換技 ショートカットキーを使いこなす 情報モラルとセキュリティ インターネットを使いこなす Eメールのルールとマナー 	タイピング練習/Word基本操作の予習	4時間
第3回 Word1～ビジネス文書を作成する（基本編）～ <ul style="list-style-type: none"> 入力と編集の基本 文字と段落の書式設定 ビジネス文書の基本フォーマット 	Word課題①（ビジネス文書基本編）の復習	4時間
第4回 Word2～表作成とビジネス文書（応用編）～ <ul style="list-style-type: none"> 表の挿入と編集（罫線/網掛け/デザイン編集） 表を含むビジネス文書作成 	Word課題②（ビジネス文書応用編）の復習	4時間
第5回 Word3～Wordを使ってチラシやポスターを作成する～ <ul style="list-style-type: none"> 表現力をアップする機能 オブジェクトの利用（図形作成/クリップアート/ワードアート） オブジェクトを利用した文書作成 	Word課題③（チラシ作成）の復習	4時間
第6回 Word4～実践テクニックと地図作成～ <ul style="list-style-type: none"> Word実践テクニック（テンプレートの活用/線種とページ罫線と網掛けの設定/図表と組織図） 実践テクニックを活用したビジネス文書作成 地図作成とPDF変換 	Word課題④（地図作成～PDF保存）の復習	4時間
第7回 Word5～実技テストと解説～ <ul style="list-style-type: none"> Word実技テスト 実技テスト解説 ここまで学んだWord課題の復習と提出確認 	Word実技テスト復習/Excel基本操作の予習	4時間
第8回 Excel1～Excelの基本操作と表作成～ <ul style="list-style-type: none"> データ入力の基礎と手順 シートとセルの操作、書式設定 表の作成と編集 	Excel課題①（売上表・管理表作成）の復習	4時間
第9回 Excel2～絶対参照/相対参照と関数を理解する～ <ul style="list-style-type: none"> 演算処理 絶対参照と相対参照の違い 関数の使い方と活用 	Excel課題②（絶対参照と相対参照）の復習	4時間
第10回 Excel3～複雑な関数と実践テクニック～ <ul style="list-style-type: none"> Excel実践テクニック（関数の応用/リスト/条件付き書式など） 	Excel課題③（関数の活用課題）の復習	4時間
第11回 Excel4～グラフの作成とデザイン編集～ <ul style="list-style-type: none"> グラフの用途と種類、基本構成について 各種グラフを作成する 色々なデザインにアレンジする 	Excel課題④（様々なグラフ作成）の復習	4時間
第12回 Excel5～実技テストと解説～ <ul style="list-style-type: none"> Excel実技テスト 実技テスト解説 ここまで学んだExcel課題の復習と提出確認 	Excel実技テストの復習/PowerPoint基本操作の予習	4時間
第13回 PowerPoint1～基本操作とプレゼンテーション作成～ <ul style="list-style-type: none"> PowerPointの基本操作 基本的なプレゼンテーションの作成 オブジェクト（表、グラフ、図形、グラフィック）を活用したプレゼンテーションの作成 	PowerPoint課題①（プレゼンテーション作成基本編）の復習	4時間
第14回 PowerPoint2～スライド作成の応用とプレゼンテーション実施のコツ～	PowerPoint課題②（アニメーションや特殊効果を含むプレゼンテーション作成応用編）の復習	4時間

- ・様々な特殊効果（アニメーション・画面切り替え効果）をマスターする
 - ・プレゼンテーション実施のコツ
 - ・スライドのカスタマイズ
-